



千葉大学文学部・人文科学研究院

自己点検評価・外部点検評価報告書

2014年4月～2020年3月

2022年3月

はじめに

本報告書は、2021 年度中に外部点検評価を受けるべく人文科学研究院・文学部自己点検評価委員会によって作成された「自己点検評価報告書」と、それに基づき2022 年 3 月に行われた外部点検評価委員会の外部点検評価委員による「外部評価報告書」をまとめたものである。

人文科学研究院・文学部における自己点検評価および外部評価実施の経緯および点検内容の詳細については、第 2 章「自己点検評価・外部点検評価報告書の基本構成」に述べられているのでそちらをご参照いただきたいが、今回の自己点検評価・外部点検評価は 2014 年度から 2019 年度を対象としたものである。期間の区切を 2019 年度までとしたのは、2016 年度に行われた文学部改組の完成年度が 2019 年度であるからである。本来であれば、2020 年度に自己点検評価報告書を作成し、外部評価を受けるはずであったが、COVID-19 の大流行という未曾有の危機にあたって様々な対応を余儀なくされたことで、2020 年度中の実施が難しくなり、2021 年度に至り、ようやく実施に漕ぎつけた次第である。したがって、本報告書では大学の研究・教育に大きな影響与えた COVID-19 への対応については記載していない。今なお COVID-19 の流行が収まっていないことを鑑みるに、現時点での評価は適切とはいえない。本部局における COVID-19 への対応の自己点検および外部評価は次期の点検評価にゆだねたい。

今期における最大の出来事は 2016 年度に行われた文学部改組である。これにより文学部は 4 学科制から 1 学科 4 コース制になった。この改組は、人文科学という基礎分野における学問的多様性を維持し、それぞれの分野の専門性を深めていくという文学部のあり方に加え、自身の専門にとらわれず物事を横断的・俯瞰的に眺める能力や、自らが修得した「人文知」を現代社会の諸問題にどう生かしていくかという実践性の涵養も視野に入れたものであったといえる。学問領域の多様性を踏まえた専門性の涵養も、その「知」を実社会に生かしていく実践性の涵養も、これからの文学部の教育においては欠かすことのできない両輪であり、今後も双方を均衡的に実現していくことが望まれる。今回の自己点検評価および外部点検評価がそのための指針となることを願ってやまない。

本報告書の作成にあたっては、自己点検評価報告書のワーキング・グループのメンバーに多大なご尽力を賜った。また、本報告書の作成にあたって大学院人文公共学府博士後期課程の内津マリノ氏の助力を得た。記して感謝申し上げる。また、ご多忙の中、外部点検評価委員をお引き受けいただいた諸先生方にも心より感謝申し上げます。

人文科学研究院長・文学部長

岡部 嘉幸

目 次

はじめに

1	千葉大学文学部・人文科学研究院の概要	1
2	自己点検評価・外部点検評価報告書の基本構成	3
3	点検・評価領域ごとの自己点検	7
	領域1 教育研究上の基本組織に関する基準	7
	領域2 内部質保証に関する基準	10
	領域3 財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準	18
	領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準	22
	領域5 学生の受入に関する基準	28
	領域6 教育課程と学習成果に関する基準	38
	領域7 研究の状況についての基準（独自項目）	97
4	外部点検評価	103

1 文学部・人文科学研究院の概要

文学部・人文科学研究院の沿革

文学部は、昭和 56(1981)年 4 月に当時の人文学部を法経学部と文学部の二部局に分離することによって設立された。当初は、行動科学科、史学科及び文学科の 3 学科であったが、平成 6(1994)年の改組時に、文学科を日本文化学科、国際言語文化学科に分離改組し 4 学科制となった。さらに平成 28(2016)年の改組においては、4 学科を人文学科に統合し、行動科学コース、歴史学コース、日本・ユーラシア文化コース、国際言語文化コースを設置した。翌、平成 29(2017)年には、大学院の改組とともに、教員組織と教育組織を分離し、人文科学研究院を設置している。

千葉大学文学部規程（抜粋）

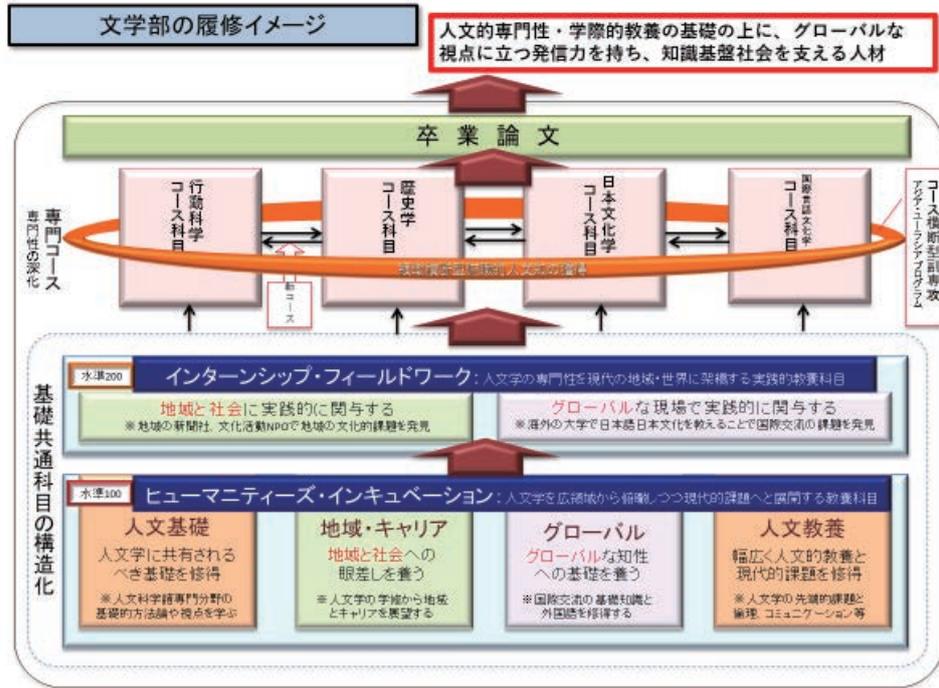
第 1 条の 2 本学部は、人文科学すなわち人間と人間の生み出す文化を対象とする学問、具体的には、人間とは何かという根本的問いに始まり、人間の思惟や知覚や認知の仕組み、文化の形成過程やその特徴、社会における人間関係のあり方、文化や社会の時系列的変容のすがた、世界のさまざまな地域での言語や文化の特性などの研究を目的とするために必要な知識や技術を修得することを通じて、社会や文化の根源を見据えることのできる人材を育成し、そのことをもって、社会に貢献できる教養豊かな人材を社会に送り出すことを目的とする。

平成 28(2016)年度改組における教育カリキュラムの特色

平成 28(2016)年の文学部改組においては、千葉大学文学部規程に掲げられている教育上の目的を引き継ぎつつ、現代社会の課題解決に向けて統合的で柔軟な対応力をもつ人材を養成するために、専門性の深化と同時に、学際性、国際性、社会性の素養に基づく主体的問題解決能力を養うことを目指した。具体的には、1 学科制のもとで共通基礎科目を強化し、インターンシップやフィールドワーク科目を増設した。さらにコース横断的な履修を促進することで、地域社会・国際社会の現状を理解し問題を解決する能力を学部全体で組織的に涵養するカリキュラムを整備した。

改組以前より人文学の共通課題を履修させるための「文学部共通科目」の増強を進めてきたが、1 学科制への改組を通して、これまで一貫して目指してきた教育改革を加速的に推進し、その目標をより高い次元で達成するために、具体的には、「文学部共通科目」（卒業要件単位 8 単位）を、さらに科目数を増加させて「共通基礎科目」として再編し、卒業要件単位として 32 単位の履修を課すこととした。学際性、国際性、社会性の涵養にかかわる共通基礎科目に関しては、6-5-3 および 6-5-5 に記載している。

【資料 1-1①】改組時の文学部の履修イメージ（設置計画の概要より）



現在の卒業に必要な単位および定員は以下のとおりである。

【資料 1-1②】卒業に必要な単位

(表Ⅱ-1) 一般学生用

科目区分 コース	普通教育科目									専門教育科目			卒業論文	自由選択	卒業単位数	
	国際発展科目群			地域発展科目群		学術発展科目群				共通基 礎科目	専門 科目	計				
	英語科目	初修外国語科目	国際科目	スポーツ・健康科目	地域科目	教養コア科目	教養展開科目	数理・データサイエンス科目								
行動科学コース 歴史学コース 日本・ユーラシア文化コース 国際言語文化学コース	6~10	0~4	2	0~2	2	4	5~9	3		26	32	46	78	8	12	124
行動科学コース 先進科学プログラム 人間探求先進クラス	6~10	0~4	2	0~2	2	4	5~9	3		26	32	60	92	8	12	138

(出典：『千葉大学文学部履修案内』)

【資料 1-1③】定員（2021 年 5 月 1 日現在）

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員
文学部人文学科	4	170	3年次10	700

2 自己点検評価・外部点検評価報告書の基本構成

文学部においては、2013 年度に自己点検評価・外部点検評価を実施し、2014 年 3 月に報告書をまとめている。その後、1. 文学部・人文科学研究院の概要において述べた通り、平成 28(2016)年度に改組し、4 学科を人文学科として統合、1 学科 4 コースを設置した。また、2018 年度には、教員組織と教育組織を分離し（いわゆる教教分離）、教員組織として大学院人文科学研究院を設置した。改組完成年度である 2019 年度を待って 2020 年度に自己点検を実施する予定であったが、新型コロナ感染拡大のため 2021 年度に延期し、現在にいたっている。

したがって今回の自己点検評価・外部点検評価においては、前回の自己点検評価・外部点検評価実施以降の 2014 年度以降を対象としつつ、主に改組後の 2016 年度以降、改組完成年度である 2019 年度までを対象とすることとした。ただし 2020 年度以降に改訂されている規程等については、最新のものを引用している。また、2018 年度以降については、文学部と人文科学研究院両方の評価をあわせて実施することとした。

2020 年度以降の大学教育は、新型コロナ感染拡大に伴ってさまざまな変更を求められた。この点については、次期の点検評価において検討することとした。

千葉大学では、千葉大学運営基盤機構大学評価部門において、「大学基本データ分析による自己点検・評価」と「年度計画の実施状況に基づく自己点検・評価書」が毎年度行われ、その結果が大学のウェブサイトを通じて公表されている。前者は、認証評価に対応するものであり、後者は国立大学法人評価に対応するものである。各学部・部局の自己点検・評価は、認証評価に関連付けられており、「自己点検・評価の手引き【学部・研究科（学府・研究院）用】」（以下、「自己点検・評価の手引き」）が示されている。この「自己点検・評価の手引き」は、大学改革支援・学位授与機構の定める機関別大学評価の基準に基づいて策定されたものである。

文学部・人文科学研究院において 2019 年の学部改組完成年度を迎え、自己点検・評価を行うにあたり、その担当委員会である点検・評価委員会では、千葉大学の定める「自己点検・評価の手引き」に基づいて自己点検・評価を行うこととした。具体的には、「自己点検・評価の手引き」の定める 6 つの領域と各領域の評価基準、そして、評価基準に対応して示されている分析項目に対して、文学部・人文科学研究院の現状を点検するという方法である。このことにより、大学の定める点検・評価の項目を網羅的に確認し、学部の総合的な状況を確認している。また、「自己点検・評価の手引

き」では、研究活動についての自己点検・評価は含まれていない。そこで、領域7として「研究の状況についての基準」を設定し、点検することとした。また、改組に伴って増設した共通基礎科目について、6-5-5に独自項目を設定した。あわせて6-8-6として、文学部の学生を対象とした授業アンケートについて記載した。

なお、千葉大学においては、2022年2月1日に新たに「国立大学法人千葉大学点検・評価規程の全部を改正する規程」が制定されているが、本自己点検評価は同年1月末までに実施したため、旧「国立大学法人千葉大学点検・評価規程」のもとで作成されている。

自己点検・評価の領域と基準

領域1 教育研究上の基本組織に関する基準

◆基準1-1

教育研究上の基本組織が、大学等の目的に照らして適切に構成されていること

◆基準1-2

教育研究活動等の展開に必要な教員が適切に配置されていること

◆基準1-3

教育研究活動等を展開する上で、必要な運営体制が適切に整備され機能していること

領域2 内部質保証に関する基準

◆基準2-1 【重点評価項目】

内部質保証に係る体制が明確に規定されていること

◆基準2-2 【重点評価項目】

内部質保証のための手順が明確に規定されていること

◆基準2-3 【重点評価項目】

内部質保証が有効に機能していること

◆基準2-4

教育研究上の基本組織の新設や変更等重要な見直しを行うにあたり、大学としての適切性等に関する検証が行われる仕組みを有していること

◆基準2-5

組織的に、教員の質及び教育研究活動を支援又は補助する者の質を確保し、さらにその維持、向上を図っていること

領域3 財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準

◆基準3-1

財務運営が大学等の目的に照らして適切であること

◆基準3-2

管理運営のための体制が明確に規定され、機能していること

◆基準3-3

管理運営を円滑に行うための事務組織が、適切な規模と機能を有していること

◆基準3-4

教員と事務職員との役割分担が適切であり、これらの者の間の連携体制が確保され、能力を向上させる取組が実施されていること

◆基準3-5

財務及び管理運営に関する内部統制及び監査の体制が機能していること

◆基準3-6

大学の教育研究活動等に関する情報の公表が適切であること

領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準

◆基準4-1

教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていること

◆基準4-2

学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること

領域5 学生の受入に関する基準

◆基準5-1

学生受入方針が明確に定められていること

◆基準5-2

学生の受入が適切に実施されていること

◆基準5-3

実入学者数が入学定員に対して適正な数となっていること

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

◆基準6-1

学位授与方針が具体的かつ明確であること

◆基準6-2

教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること

◆基準 6－3

教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育改定方針に即して、体系的であり相応しい水準であること

◆基準 6－4

学位授与方針及び教育課程方針に即して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

◆基準 6－5

学位授与方針に即して適切な履修指導、支援を行っていること

◆基準 6－6

教育課程方針に即して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること

◆基準 6－7

大学等の目的及び学位授与方針に即して、公正な卒業（修了）判定が実施されていること

◆基準 6－8

大学等の目的及び学位授与方針に即して、適切な学習成果が得られていること

領域 7 研究の状況についての基準（独自項目）

◆基準 7－1

研究活動が適切に行われていること

◆基準 7－2

社会への発信・成果公開が適切に行われていること

領域 1 から領域 6 までの基準および基準項目の番号は、大学の示す「自己点検・評価の手引き」の定める番号をそのまま用いている。根拠資料については、各基準項目の番号に対して、①②などの通し番号をつけることで基準項目との対応関係を示した。なお、2019 年の年度途中で年号の変更があったことから表記上の煩雑さを避けるため、本文中は原則として西暦表記としている。

3 点検・評価領域ごとの自己点検

領域1 教育研究上の基本組織に関する基準

◆基準1-1 教育研究上の基本組織が、大学等の目的に照らして適切に構成されていること
◆基準1-2 教育研究活動等の展開に必要な教員が適切に配置されていること
◆基準1-3 教育研究活動等を展開する上で、必要な運営体制が適切に整備され機能していること

分析項目1-2-1
大学設置基準等各設置基準に照らして、必要な人数の教員を配置していること

文学部の2019年10月1日付の教員数と大学設置基準において必要な教員数を示したものが【資料1-2-1①】である。ここに示されている通り、大学設置基準における必要専任教員数・必要教授数に対して、十分な人数の教員を配置している。

【資料1-2-1①】文学部の教員数と大学設置基準における必要教員数（2019年現在）

収容定員		専任教員数						必要専任教員数	
	(加算分) 3年次編入	性別	教授	准教授	講師	助教	合計	教授 (内訳)	
		700	20	男	29	10	0		1
		女	8	8	0	1	17		

(出典：大学基本データ)

分析項目1-2-2
教員の年齢及び性別の構成が、特定の範囲に著しく偏っていないこと

文学部の専任教員の年齢構成は、【資料1-2-2②】の通りである。年齢構成は、全体としてみると57名中、34歳未満が18%（1名）、35～44歳が19.3%（11名）、45～54歳が36.8%（21名）、55～64歳が42.1%（24名）である。年齢の高い教員が多い傾向にあるが、著しく偏っているという状況ではない。ただし、55歳以上が最も多い構造となっていることから、今後の人事配置について留意が必要である。また女性教員比

率は、29.8%（17名）であり、性別も著しく偏ってはいないといえる。

【資料 1-2-2②】 文学部の教員の性別・職位・年齢の状況（2019年現在）

年齢区分	本務教員数					
	職名					
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
～24歳	0	0	0	0	0	0
25～34歳	0	0	0	1	0	1
35～44歳	0	11	0	0	0	11
45～54歳	14	6	0	1	0	21
55～64歳	23	1	0	0	0	24
65歳～	0	0	0	0	0	0
合計	37	18	0	2	0	57

（出典：大学基本データ）

分析項目 1-3-2

教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っていること

文学部・人文科学研究院には、千葉大学教授会規程 13 条に基づき、文学部教授会・大学院人文科学研究院教授会（以下、教授会）が設置されている（教授会規程 1 条）。教授会は、学部長・研究院長を議長とし、原則として年 11 回開催される定例会と臨時会によって開催されている。【資料 1-3-2①】は、過去 4 年間の教授会の開催状況を示したものである。

【資料 1-3-2①】 文学部教授会・人文科学研究院教授会の開催状況

年度	会議名称	規定上の開催頻度	開催実績
2014	文学部教授会	定例会 1 回	14 回
2015	文学部教授会	定例会 1 回	12 回
2016	文学部教授会	定例会 1 回	12 回
2017	人文科学研究院・文学部教授会	定例会 1 回	12 回
2018	人文科学研究院・文学部教授会	定例会 1 回	12 回
2019	人文科学研究院・文学部教授会	定例会 1 回	12 回
2020	人文科学研究院・文学部教授会	定例会 1 回	12 回

また、「千葉大学大学院人文科学研究院・文学部運営に関する規程」に基づき、研究院等運営協議会が組織されている（以下、運営協議会）。運営協議会は、研究院長、評議員、研究部門長、広報・情報委員長、教務委員長、入試委員長、学生委員長、将来構想委員長、そのほか研究院長が指名した者をもって構成され、原則として月 1 回および研究院長が必要と認めたときに開催され、教授会より附託された事項、2 つ以

上の委員会にまたがる事項、緊急に研究院等の意思などを決定する必要がある事項を審議している。

【資料 1-3-2②】 運営協議会の開催状況

年度	名称	規定上の回数頻度	開催実績
2014年度	文学部運営協議会	定例月1回	11回
2015年度	文学部運営協議会	定例月1回	11回
2016年度	文学部運営協議会	定例月1回	11回
2017年度	人文科学研究院等運営協議会	定例月1回	11回
2018年度	人文科学研究院等運営協議会	定例月1回	11回
2019年度	人文科学研究院等運営協議会	定例月1回	11回
2020年度	人文科学研究院等運営協議会	定例月1回	11回

教授会規程8条に基づいて定められている千葉大学大学院人文科学研究院・文学部各種委員会規程（以下、各種委員会規程）により、文学部および人文科学研究院には、常置委員会と特別委員会が設置されている（各種委員会規程2条）。常置委員会には、総務委員会、広報・情報委員会、教務委員会、FD推進委員会、入試委員会、学生委員会、将来構想委員会、図書・紀要委員会、防災危機対策委員会、自己点検評価委員会が設置されている。また、研究倫理審査のために千葉大学文学部研究倫理審査委員会が設置されている。このように教授会等が学部を運営するための教育活動に係る重要事項を審議するために必要な活動を分担して行っている。

領域 2 内部質保証に関する基準

◆基準 2-1 【重点評価項目】

内部質保証に係る体制が明確に規定されていること

◆基準 2-2 【重点評価項目】

内部質保証のための手順が明確に規定されていること

◆基準 2-3 【重点評価項目】

内部質保証が有効に機能していること

◆基準 2-4

教育研究上の基本組織の新設や変更等重要な見直しを行うにあたり、大学としての適切性等に関する検証が行われる仕組みを有していること

◆基準 2-5

組織的に、教員の質及び教育研究活動を支援又は補助する者の質を確保し、さらにその維持、向上を図っていること

分析項目 2-2-2

教育課程ごとの点検・評価において、領域 6 の各基準に照らした判断を行うことが定められていること

文学部・人文科学研究院には、常置委員会として自己点検評価委員会が設置されている。この自己点検評価委員会では、「教育研究活動に係る点検・評価の基本方針、実施基準等の策定に関すること」「自己点検・評価に関すること」「学内評価に関すること」「外部評価に関すること」「その他点検・評価の実施に関すること」を担当するとされている。

「教育研究活動に係る点検・評価」については、「学内評価」と関連付けて行うために、国立大学法人千葉大学運営基盤機構大学評価部門認証評価対応部会が定める「自己点検・評価の手引き」に基づいて点検評価を行っている。「自己点検・評価の手引き」は、大学改革支援・学位授与機構の定める機関別大学評価の基準に基づいて策定されており、「領域 6 教育課程と学習成果に関する基準」に基づいた点検評価となっている。

分析項目 2-2-4

機関別内部質保証体制において、関係者（学生、卒業生、卒業生の主な雇用者等）から意見を聴取する仕組みを設けていること

学生からの意見を聴取する仕組みとして、「学生・教員懇談会」が定期的に行われている。具体的には、「学生・教員懇談会」を年2回実施し、学生の意見聴取に努めている。これらの議事録は、文学部ホームページに掲載しており、懇談会での懇談内容に加え、学生からの要望への回答や改善の経過などを知ることができる。また大学全体で行われている、在学学生を対象とした「学生意識・満足度調査」「生活実態調査」（2年に1度）の学部別の結果も参照している。なお、卒業生、卒業生の主な雇用者等から意見を聴取する取組みとしては、キャリア教育の一環として毎年開講している授業科目「現代社会で働くこと」において、卒業生をゲスト・スピーカーとして招聘した際、卒業生及び引率の上司と懇談する場を設けている。

分析項目 2-3-1

自己点検・評価の結果（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価をもとに受審した第三者評価の結果を含む）を踏まえて決定された対応措置の実施計画に対して、計画された取組が成果をあげていること、又は計画された取組の進捗が確認されていること、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されていること

文学部は、2016年度の改組後、2019年度に完成年度を迎えるまで、毎年度、「設置に係る設置計画履行状況報告書」を提出し、履行状況と設置計画との変更点について文部科学省に報告している。

また、自己点検・評価については、改組の完成年度を迎える2019年度以降に実施する計画であったことから、本報告書の作成をもって計画された取組を実施する。

分析項目 2-3-3

意見聴取が内部質保証を効果的にしている

文学部では、学生・教員懇談会を年2回開催し、具体的な要望と対応を議事録として文学部ホームページで公開している（2-2-4参照）。学生からの意見聴取をもとに改善が図られている例としては、Wi-Fi環境整備と成績の電子開示をあげる。2014年以降、学内のWi-Fi環境の改善の要望が度々出されてきた。予算的問題もあり徐々にではあるが文学部棟内の授業開講教室のWi-Fi環境が整備されている。また、Portal上での成績公開について学生からの要望が多かったことを受けて、2019年より電子開示を実現した。

その他具体的なエビデンスを【資料 2-3-1①】に示す。

【資料 2-3-1①】 内部質保証が機能していることのエビデンス

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体
年月	内容	根拠		
2015年6月	教室に網戸を設置してほしい	学生・教員懇談会	網戸を設置した (2016年)	文学部
2015年6月	Web上での成績公開	学生・教員懇談会	学生ポータルで成績を確認できるようにした (2019年)	文学部
2015年6月	Wi-Fi環境の改善	学生・教員懇談会	文学部棟に無線LANを設置した (2017年)	文学部
2016年11月	トイレの改修工事	学生・教員懇談会	改修工事を行った (2020年)	文学部
2018年6月	授業の隔年開講などは早めにシラバスなどに掲示してほしい	学生・教員懇談会	シラバスに記載し、ガイダンスでも周知するようにする (2018年)	文学部
2019年2月	学生の不適切な実習態度等について	実習施設との意見交換	介護等体験にあたり心構えや基本的な態度等の認識を再確認するよう、実習前ガイダンスを2回増やすこととした	文学部
2019年3月	授業評価アンケートの学生への公表	大学機関別認証評価	授業評価アンケートの結果に対する教員コメントを、学生ポータルで公表した	FD推進委員会
2019年6月	エアコンを交換してほしい	学生・教員懇談会	順次交換する (2019年)	文学部
2019年6月	教員を補充してほしい	学生・教員懇談会	歴史学コースと国際言語文化学コースで各1名ずつ新規教員を採用した (2019年)	文学部

(出典：大学基本データ、文学部 HP)

分析項目 2-5-1

教員の採用及び昇格に当たって、教育上、研究上又は実務上の知識、能力及び実績に関する判断の方法等を明確に定め、実際にそのような方法によって採用、昇格させていること

文学部の設置以降、2019年度までの、教員の採用及び昇格の実績は【資料 2-5-1①】の通りである。

教員の採用及び昇任は、「国立大学法人千葉大学における大学教員の選考に関する規程」に基づいて行われている。部局においては、「千葉大学人文科学研究院教員審査等に関する内規」、「千葉大学大学院人文科学研究院教員審査等に関する申合せ」に基づいて、教員審査委員会を設置し、審査を行っている。委員会は教授会において選出された6名によって構成され、候補者の公募、教育研究業績の審査を行い、教授会に候補者を報告する。

【資料 2-5-1①】 教員の採用及び昇格の実績

教育研究上の基本組織	採用人数	判断の方法	昇格人数	判断の方法
2016年度	1	書類・面接	6	書類
2017年度	1	書類・面接	3	書類
2018年度	0	-	2	書類
2019年度	2	書類・面接	1	書類

分析項目 2-5-2**教員の教育活動、研究活動及びその他の活動に関する評価を継続的に実施していること**

教員の教育活動、研究活動及びその他の活動に関する評価（以下、教員の活動評価）については、今回の点検対象年度の2019年度末時点では、千葉大学の全学方針に基づいて以下3つの方法で行われてきた。

第一は、「国立大学法人千葉大学教員の定期評価に関する規程」に基づいて行われる教員の定期評価（以下、定期評価）である。教授、准教授、講師若しくは助教へ採用又は昇任により就任した後の7年毎に実施する教員の活動を評価するものである。文学部における定期評価の実施状況は【資料 2-5-2①】の通りである。

【資料 2-5-2①】 文学部における定期評価の実施状況

	教授	准教授	助教	講師	計
2016年度	0	2	0	0	2
2017年度	2	2	0	0	4
2018年度	5	0	0	0	5
2019年度	4	2	0	0	6
2020年度	0	2	1	0	3

（出典：大学基本データ）

第二は、「国立大学法人千葉大学職員の年俸制に係る業績評価規程」に基づく年俸制教員を対象とする業績評価である。ただし、文学部においては、2019年度時点で年俸制対象教員は0名であった。（※2020年1月より新年俸制が開始され、2020年度以降の新規採用教員に適用されている。）

第三は、「国立大学法人千葉大学教育研究活動評価規程」に基づく、教育、研究、社会貢献及び大学運営等の活動状況の評価である（以下、教育研究活動評価）。この教育研究活動評価は、年俸制が適用されない教員を対象に、10月1日から翌年9月30

日までの活動状況を評価するものである。毎年、規程に基づいて評価が行われ、部局長である学部長により、評価結果が学長に報告されている。

2020年1月に「国立大学法人千葉大学教員業績評価規程」が制定されたことにより評価は一本化され【資料2-5-2②】、「国立大学法人千葉大学教員の定期評価に関する規程」、「国立大学法人千葉大学職員の年俸制に係る業績評価規程」、「国立大学法人千葉大学教育研究活動評価規程」は現在は廃止となっている。

【資料2-5-2②】国立大学法人千葉大学教員業績評価規程（抜粋）

第5条 評価分野は、教育、研究、診療、社会貢献、産学連携、国際、大学運営等とする。

2 部局長は、部局の実情に応じて、評価分野を選択することができるものとする。ただし、特別の事情がある場合を除き、教育、研究、社会貢献及び大学運営の評価分野は選択しなければならない。

3 部局長は、評価分野ごとに評価項目及び評価基準を定めるものとする。

4 部局長は、職名別に評価分野ごとの標準となる重み付けを定めるものとする。

5 部局長は、前3項の規定に基づき定めた事項を学長に提出し、承認を得るものとする。

6 部局長は、学長の承認を得た評価分野、評価項目及び評価基準を所属する全教員に提示するものとする。

分析項目2-5-3

評価の結果、把握された事項に対して評価目的に即した取組を行っていること

教育研究活動評価の結果は、各規程に基づき、給与・賞与等の教員の処遇に反映されている。具体的には、教育研究活動評価の結果は、対象者の昇給（年1回）・勤勉手当（年2回）の成績区分の推薦の根拠として勤務成績評価として活用されている。

分析項目2-5-4

授業の内容および方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること

文学部では、教授会の開催にあわせて、学部としての様々な教員研修を開催している。授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント（以

下、FD) についてもその一環として実施している。FD の実施状況を【資料 2-5-4①】に、FD の結果を基に実施した授業改善の具体的状況については【資料 2-5-4②】に示す。

【資料 2-5-4①】FD の実施状況 (2017 年度)

テーマ	実施日時	実施内容・方法	主催	参加人数
ハラスメント防止	2017年11月教授会開催前	ハラスメント防止のために、人文科学研究院教員のハラスメントに対する理解を深め、ワークショップにより危険意識を高めた。	人文科学研究院長	47
授業内容・方法の改善等に関するコース別ワークショップ	2017年7月～12月にかけてのコース会議前後(各1回)	コース固有の事情を踏まえながら、①初年次導入教育の運営方法②学外研修の実施③外国語(既修・未修)の到達目標と目標達成に向けた授業のあり方についてワークショップにより情報共有と意見交換を行った。	各コースのFD委員、教務委員	61
学生指導およびカリキュラムに関するコース別ワークショップ	2017年7月～12月にかけてのコース会議前後(各1回)	①導入教育②学部内の共通科目の運用の仕方③過年度生の問題④学生指導⑤改組後のカリキュラムに関して留意すべき問題等についてコース別ワークショップを行った。	各コースのFD委員、教務委員	61
学生の成績等個人情報の取り扱いについて	2017年7月6日	文学部において取り決めた「成績情報取り扱い手順書」の内容について周知し、学生の成績情報等、個人情報の取り扱いについて研修会を行った。	評議員	58
研究活動の活性化と研究不正防止のための研修会	2017年9月7日	科研費申請に関して申請書類の書き方、申請書類作成の留意点などを共有するとともに、研究不正防止に向けた倫理規範を改めて周知するため研修会を行った。	人文科学研究院長	43
情報セキュリティおよび個人情報保護について	2017年10月5日	自己点検フォローアップを実施し、間違いの多い設問の解説、注意喚起等の再確認のため研修会を行った。	人文科学研究院長	55
授業評価アンケートの分析について	2017年10月5日	授業評価アンケートの全体動向を分析し、アンケートの実施方法および授業の改善について検討する研修会を行った。	FD推進委員長	55
情報セキュリティ研修	2017年12月7日	個人情報の取り扱い、c-csirtの活動について研修会を行った。	c-csirtメンバー	51
教育IRから見る千葉大学文学部の教育と学習	2017年12月7日	教育IRによる文学部の教育と学生の学習をデータから把握し、授業改善に活用するため研修会を行った。	高等教育研究機構岡田特任准教授	51

【資料 2-5-4②】 授業改善の実施状況

学部等名	文学部
開講科目数	607
授業評価実施科目数	546
実施率	0.9
実施時期(頻度)	毎学期
実施方法 (実施していない場合は、実施していない理由及び代替措置等を記載)	受講者が3名以下の科目を除く全ての開講科目において実施。なお、教育実習は除く。
方法等を定めた規程等	毎年度、FD推進委員会において、授業評価アンケートについて回答期間及び調査項目も含めて審議し、決定している。
教員へのフィードバック	科目ごとの分析結果をFD研修会で報告し、各教員に対して結果を公表している。
学生への公表	アンケート集計結果に対する教員のコメントを、学生ポータル(シラバス)にて閲覧できるようにした。
授業評価アンケートに基づく授業改善例	FD研修会で授業改善例について意見交換をするなど、引き続き授業評価アンケート結果を有効活用できるよう検討する。
成績評価基準の整備 (学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の針と整合性をもって組織として策定しているか。)	成績評価基準を定めており、成績評価基準の適用は、20人以上の成績評価対象者を有する講義科目とする。また、演習・実習科目、入門授業等は対象としない。 「秀」評価区分の比率は15%以下とする。「優」評価区分の比率は40%以下とする。上記割合については教務委員会で確認している。

(出典：大学基本データ)

分析項目 2-5-5

教育活動を展開するために必要な教育支援者の配置や教育補助者が活用されていること

文学部では、教育活動を展開するために必要な教育支援者の配置や教育補助者として、「Teaching Assistant (TA)」を配置している。TAについては、全学のTAの任用規定に基づいて教育補助者として配置している。文学部の専門科目におけるTAの配置科目は、【資料 2-5-5②】の通りである。

【資料 2-5-5②】 文学部の専門科目における TA の配置科目

教育研究上の基本組織	総科目数	配置科目数	延べ人数
文学部 (2019年度)	607	109	109

(出典：大学基本データ)

分析項目 2-5-6

教育支援者、教育補助者その他教育活動を展開するために必要な職員の担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施していること

教育支援者である「学務系専門職（SULA）」は、千葉大学の全学の職員研修計画に基づいて、千葉大学アカデミック・リンク・センターが実施している教育・学修支援専門職養成のための研修プログラム（ALPS履修証明プログラム）のうち、指定された研修プログラムを受講している。また、「Teaching Assistant（TA）」についても、全学の実施要領に基づいて、事前研修が行われている。

領域3 財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準

◆基準3-1

財務運営が大学等の目的的に照らして適切であること

◆基準3-2

管理運営のための体制が明確に規定され、機能していること

◆基準3-3

管理運営を円滑に行うための事務組織が、適切な規模と機能を有していること

◆基準3-4

教員と事務職員等との役割分担が適切であり、これらの者との連携体制が確保され、能力を向上させる取組が実施されていること

◆基準3-5

財務及び管理運営に関する内部統制及び監査の体制が機能していること

◆基準3-6

大学の教育研究活動等に関する情報の公表が適切であること

分析項目3-2-2

- ・法令遵守に係る取組及び危機管理に係る取組のための体制が整備されていること
- ・法令遵守事項等の整備状況（責任者の役職、業務遂行を支援する組織）の根拠となる規定を確認する
- ・危機管理等の整備状況（責任者の役職、業務遂行を支援する組織）の根拠となる規定を確認する

文学部における危機管理体制は、全学の「国立大学法人千葉大学危機管理規程」「千葉大学大学院人文科学研究院・文学部各種委員会規程」に基づき、防災危機対策委員会〔構成員：研究院長、評議員、各部門長、各部門委員1名、防火管理者（人社系総務課長）〕を【資料3-2-2①】に示したように設置し、災害時における教職員・学生の安否確認・防災対策に備えている。

また情報管理については、「国立大学法人千葉大学個人情報管理規程」「国立大学法人千葉大学情報危機対策チーム規程」に基づき、【資料3-2-2②】に示すような情報危機対策チーム（C-csirt）メンバーが、文学部内に設定されている。また教員および事務組織において、部局情報保護管理責任者、および部局情報保護管理者が設定され、情報保護・管理体制が整備されている。

【資料3-2-2①】 文学部・防災危機対策委員会の構成

防災危機対策委員会	研究院長	研究院長 評議員 各部門長 各部門委員 1名 防火管理者 (事務長)	1 防災対策に関すること。 2 防災思想の普及及び高揚に関すること。 3 防災訓練に関すること。 4 その他防災に関すること。	西千葉地区事務部 人社系総務課
-----------	------	---	--	--------------------

(出典：千葉大学大学院人文科学研究院・文学部各種委員会規程)

【資料3-2-2②】 情報危機対策チーム (C-csirt)体制



(出典：千葉大学HP <https://www.chiba-u.ac.jp/>)

ハラスメント防止対策については、「国立大学法人千葉大学におけるハラスメントの防止等に関する規程」に基づき、ハラスメント相談員2名（男女各1名）を文学部内に設置している。また情報セキュリティやハラスメントに関する研修を年度内に複数回実施し、その遵守に努めている。

【資料3-2-2③】 情報セキュリティ・ハラスメント等の研修の実施状況

研修名/年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
ハラスメント	1	1	1	1	1	1
情報セキュリティ	1	3	2	3	3	2

分析項目 3-4-1

教員と事務職員等とが適切な役割分担のもと、必要な連携体制を確保していること

文学部では、「千葉大学大学院人文科学研究院教授会規程」および「千葉大学大学院人文科学研究院・文学部各種委員会規程」に基づき、各種委員会に教員および事務職員を配置し、各種業務を円滑に行うべく、教員・事務職員の役割分担・連携体制が確保されている。

【資料3-4-1】千葉大学大学院人文科学研究院・文学部各種委員会体制（2020年現在）

委員会名称	構成員	担当事務	根拠規定	備考
研究院等運営協議会	研究院長、評議員、研究部門長、教務委員長、学生委員長、広報・情報委員長、入試委員長、将来構想委員長	総務課長、学務課長	千葉大学大学院人文科学研究院・文学部運営に関する規程	
自己点検評価委員会	研究院長、評議員、研究部門長、教務委員長、学生委員長、広報・情報委員長、入試委員長、将来構想委員長	総務課長、学務課長		
総務委員会	研究院長、評議員、その他4名	総務課長、学務課長	千葉大学大学院人文科学研究院・文学部各種委員会規程	
広報・情報委員会	サーバー管理者1名、その他4名	人社系学務課学部学務室	千葉大学大学院人文科学研究院・文学部各種委員会規程	2019.4.1付で広報委員会と情報委員会を統合
教務委員会	8名	人社系学務課学部学務室	千葉大学大学院人文科学研究院・文学部各種委員会規程	
FD推進委員会	研究院等運営協議会構成員	総務課長、学務課長	千葉大学大学院人文科学研究院・文学部各種委員会規程	
入試委員会	4名	人社系学務課学部学務室	千葉大学大学院人文科学研究院・文学部各種委員会規程	

学生委員会	4名	人社系学務課学部学務室	千葉大学大学院人文科学研究所・文学部各種委員会規程	
留学生委員会	4名	—	千葉大学大学院人文科学研究所・文学部各種委員会規程	2019.3.31付廃止
情報委員会	4名	—		2019.3.31付廃止 2019.4.1付広報・情報委員会に統合
将来構想委員会	研究院長、評議員、その他3名	総務課長	千葉大学大学院人文科学研究所・文学部各種委員会規程	
図書・紀要委員会	4名	—	千葉大学大学院人文科学研究所・文学部各種委員会規程	2019.4.1付、総務委員会の図書・紀要小委員会から昇格して設置
防災危機対策委員会	研究院長、評議員、各部門長、各部門委員1名、防火管理者（人社系総務課長）	—	千葉大学大学院人文科学研究所・文学部各種委員会規程	
研究倫理審査委員会	研究院の教授又は准教授3名、研究院の教員以外の者で倫理及び法律面の有識者若干名、自然科学面の有識者若干名、市民の立場の者若干名、その他研究課題に応じて委員長が必要と認めた者	人社系総務課総務係	千葉大学大学院人文科学研究所研究倫理審査委員会規程	

(出典：千葉大学大学院人文科学研究所・文学部各種委員会規程)

領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準

◆基準4-1

教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていること

◆基準4-2

学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言・支援、が行われていること

分析項目4-1-1

教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備を法令に基づき整備していること

文学部では、文学部棟（文・法1号館）、法政経学部棟（文・法2号館）、大学院棟（文・法3号館）、人文社会科学系総合研究棟、総合校舎1号館を、教室として利用している。文学部棟には事務室を設置し、教育・研究活動を展開するスペースを確保している【資料4-1-1①】。

また各教室には、【資料4-1-1②】に示すように、スクリーン、プロジェクター、Wi-Fi環境等が設置され、ICT教育も滞りなく行えるよう整備されているほか、【資料4-1-1③】の事例に示すような教室環境の改善を定期的に行っている。さらに、学生からの要望にも積極的に応え、車椅子利用者や歩行困難な学生・教職員も含めた全ての人が教育研究活動・大学生活を滞りなく行えるよう、【資料4-1-1④】のようなバリアフリー対策、環境整備、改修工事を行っている。

【資料4-1-1②】 講義室設備一覧表

文・法 講義室設備一覧表

建物名	階	講義室名 (正式名称)	講義室名 (略称)	収容 人数	試験時 人数 ※(最大)	椅子	黒板 OR 白板	暗幕	スクリーン	プロジェクター	プロジェクター (HDMIアダプター VGA)	プロジェクター (HDMIアダプター VGA)	プロジェクター (HDMIアダプター VGA)	テレビの視聴	VHSビデオ	DVD	ブルーレイ	LANコンセント	書画カメラ	マイク	冷暖房	教室 出入口の鍵	AV ラックの鍵	備考
文学部棟	1階	101講義室	101	163	75(106)	固定式	黒	○	自	○	卓	卓	卓	×	○	○	○	壁	○	充	○	開	開	Wi-Fi有
	1階	102講義室	102	72	36(47)	固定式	白	○	自	○	卓	卓	卓	×	○	○	○	壁	○	充	○	開	開	Wi-Fi有
	1階	103講義室	103	72	36(47)	固定式	白	○	自	○	卓	卓	卓	×	○	○	○	壁	○	充	○	開	開	Wi-Fi有
	2階	203講義室	203	267	171	固定式	白/黒	○	自	○	卓	卓	卓	×	○	○	○	壁	○	充	○	開	開	Wi-Fi有
	2階	画像情報教室2	画情2	40		可動式	白	×	自	○	卓	卓	卓	×	○	○	○	卓	×	乾	○	施	—	Wi-Fi有
	2階	演習室21	演21	18		可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	○	○	×	壁	×	×	○	開	開	Wi-Fi有
	2階	演習室22	演22	18		可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	×	×	×	壁	×	×	○	開	—	Wi-Fi有
	2階	演習室23	演23	18		可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	×	×	×	×	×	×	○	開	—	Wi-Fi有
	2階	演習室24	演24	24		可動式	白/黒	×	手	○	壁	壁	設	○	○	×	×	壁	×	×	○	開	—	Wi-Fi有
	2階	演習室25	演25	18		可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	○	○	×	壁	×	×	○	開	—	Wi-Fi有
3階	史学科演習室	史学演	15		可動式	黒	×	手	○	壁	×	室	×	×	×	×	壁	×	×	○	開	—		
3階	演習室31	演31	18		可動式	白	×	手	○	壁	壁	○	○	○	○	×	壁	×	×	○	開	—	Wi-Fi有	
法経学部棟	1・2階	105講義室	105	408	107(208)	固定式	白	×	自	○	卓	卓	卓	×	○	○	×	卓	○	乾	○	開	開	Wi-Fi有
	1階	106講義室	106	218	136	固定式	黒	○	自	○	卓	卓	卓	×	○	○	○	卓	○	充	○	開	開	Wi-Fi有
	1階	206講義室	206	204	144	固定式	黒	○	自	○	卓	卓	卓	×	○	○	○	卓	○	充	○	開	開	Wi-Fi有
	1階	演習室14	演14	24		可動式	黒	×	手	○	壁	壁	設	×	×	×	×	×	×	○	開	開	開	Wi-Fi有
	1階	演習室15	演15	24		可動式	黒	×	手	○	壁	壁	設	×	×	×	×	×	×	○	開	—	—	Wi-Fi有
	1階	演習室16	演16	24		可動式	黒	×	手	○	壁	壁	設	×	×	×	×	×	×	○	開	—	—	Wi-Fi有
	4階	経済学科共同研究室(1)	経411	15		可動式	黒	×	手	○	壁	×	○	×	×	×	×	壁	×	×	○	開	—	
大学院棟	5階	院講義室1	院講1	40	20	可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	×	×	×	壁	×	×	○	開	—	Wi-Fi有
	5階	院講義室2	院講2	32	16	可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	×	×	×	壁	×	×	○	開	—	Wi-Fi有
	1階	院演習室1	院演1	24		可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	○	○	×	×	×	○	開	開	Wi-Fi有	
	1階	院演習室2	院演2	27		可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	○	×	×	×	×	○	開	—	—	Wi-Fi有
	3階	院演習室3	院演3	24		可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	×	×	×	※	×	×	○	開	—	※壁にLANコンセントあるが不通
	1階	院考古学実習室	院考実	18		可動式	黒	×	手	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	施	—	—	
	1階	画像情報教室1	画情1	90	60	可動式	白	○	自	○	卓	卓	卓	×	○	○	×	卓	○	○	○	開	—	Wi-Fi有
人文社会科学系 総合研究棟	1階	マルチメディア講義室	マルチ講	126	80	固定式	白	○	自	○	卓	卓	卓	×	○	○	×	卓	○	○	○	開	開	Wi-Fi有
	2階	マルチメディア会議室	マルチ会議室	75	43	固定式	白	○	自	○	卓	×	卓	×	○	○	×	卓	○	○	○	施	施	Wi-Fi有
	1階	共通演習室1	共演1	18		可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	○	×	×	壁	×	×	○	開	—	Wi-Fi有
	1階	共通演習室2	共演2	18		可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	×	×	×	壁	×	×	○	開	—	Wi-Fi有
	1階	共通演習室3	共演3	18		可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	×	×	×	壁	×	×	○	開	—	Wi-Fi有
	1階	共通演習室4	共演4	18		可動式	白	×	手	○	壁	壁	設	×	×	×	×	壁	×	×	○	開	—	Wi-Fi有
総合校舎A号館	3階	視聴覚演習(A302)	総A302	18		可動式	黒	×	手	○	?	?	?	×	○	○	×	?	×	×	○	施	?	
	4階	大講義室(A410)	総A410	70		可動式	白	×	○	○	?	?	?	×	×	×	×	?	×	○	○	?	?	
	5階	小講義室1(A528)	総A528	40		固定式	白	×	○	○	?	?	?	×	×	×	×	?	×	×	○	?	?	
	5階	小講義室2(A527)	総A527	40		固定式	白	×	○	○	?	?	?	×	×	×	×	?	×	×	○	?	?	
	5階	小講義室3(A526)	総A526	18		可動式	白	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	?	×	×	○	?	?	

* プロジェクターのリモコンとケーブルは全演習室(演31、経411除く)に設置されています。
 * AVボックスの鍵はすべて開錠されています。

【資料4-1-1③】 教室環境の改善の事例

実施年度	内容	備考
2018年度	トイレの改修工事 (和式トイレの洋式化、ウォシュレットの設置)	
2018年度	既存のスロープへの手すり設置	
2019年度	滑り止めマットの設置	文学部意見箱に「雨の日に滑りやすいのでマット等を敷いてほしい」と要望があり、学生委員会で検討。1号棟と2号棟（106講義室側）の渡り廊下に滑り止めマットを設置した。
2019年度	植え込みの整備・段差の解消工事	車いす使用の学生からの要望により、文学部棟外側（生協側）の植え込みを刈って視界を良くするとともに、3号棟と4号棟において、道路からスロープまでの段差を解消するための工事を行った。

【資料4-1-1④】 バリアフリー対策事例と滑り止めマット

内装整備をした教室 (机・エアコンの整備等)	LED化した教室
<ul style="list-style-type: none"> ・105講義室（机を1年で3列ずつ程度順次交換。予算を勘案して毎年実施） ・演習室14～16、演習室23（北向きで寒さが厳しいため、出力の大きいエアコンに交換） 	<ul style="list-style-type: none"> ・文学部棟（101講義室、102講義室、103講義室、演習室21～25） ・法政経学部棟（106講義室、206講義室、105講義室、演習室14～16） ・大学院棟（院演習室1・2、画像情報教室1、院演習室3、院生研（日文）2室、院生研（欧米言語）2室、院講義室1・2） ・総合研究棟（マルチメディア講義室、共通演習室1～4）

渡り廊下の滑り止めマット施工（2019.5.29）

①文学部棟正面玄関側から106講義室へ向かう渡り廊下



②106講義室から文学部棟へ



③法政経学部棟 入口ドアの固定



鉄製ドアで引き戸ではない。
開けながら中に入る、押しながら外に出るためには力が必要で、車いす使用学生にはドアの開閉が困難。
建物の施錠時間までは、ドアを開けたままにしている。

分析項目 4-1-4

教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境を整備し、それが有効に活用されていること

【資料 4-1-1②】に示したように、各教室には PC 使用環境が整備されている。また講義室の Wi-Fi 環境整備も、演習室 21・22・23・25（2019 年度）、106 講義室、203 講義室（2020 年度）と順次行っており、文学部棟・教場スペース（1・2 階）については、徐々に整えられている。

分析項目 4-1-6

自習室、グループ討議室、情報機器室、教室・教育設備等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されていること

文学棟には、1・2階に学生が自習・控え室等に随時利用できるリフレッシュルーム、3階に留学生向けの国際交流室が設置されている。また各コースにおいては、学生

が自主的に学習・実習等を行える以下のようなスペースを確保している。

◇行動科学コース：実験室・実習室・資料室・電算室・暗室

◇歴史学コース：歴史学資料室・文化財実習室

◇日本・ユーラシア文化コース：日文学学生控室・ユーラシア言語文化資料室

◇国際言語文化学コース：国際資料室

領域5 学生の受入に関する基準

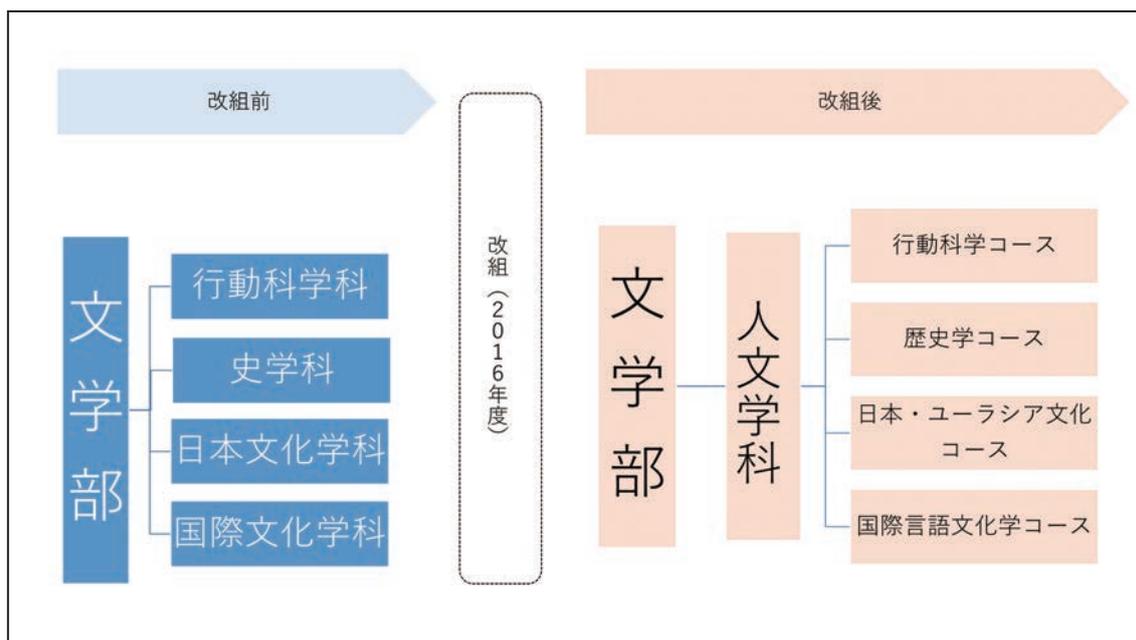
- ◆基準5-1
学生受入方針が明確に定められていること
- ◆基準5-2
学生の受入が適切に実施されていること
- ◆基準5-3
実入学者数が入学定員に対して適正な数となっていること

分析項目5-1-1

学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方を明示していること

文学部は、2016年度に改組を行い、従来の4学科制（行動科学科、史学科、日本文化学科、国際文化学科）を一学科（人文学科）に統合、その下に4コース（行動科学コース、歴史学コース、日本・ユーラシア文化コース、国際言語文化学コース）が設置された【資料5-1-1①】。これにより、学生は多様な分野の学びをより柔軟に行うことが可能となった。その一方、各コースのアドミッション・ポリシーは明文化され、高い専門性と幅広い視野をもつ学生を育成するシステムが整っている。

【資料5-1-1①】文学部組織図の比較



【資料5-1-1②】 入学者受け入れの方針

1 千葉大学文学部の求める入学者

文学部では、人間という計りきれない存在を、行動、社会、歴史、言語、文化、芸術などの諸側面から、さまざまな視点や方法を用いて学びます。その学びを通して、自己を知り、世界を知り、自己の生きていく方向や自己を託す世界の進み方、自己と世界との関係の作り方を模索します。

そうした学問的な営みから、すべての時代に通じる知識と技能を持ち、狭い学問領域にとらわれない人文科学的素養を身に付け、独創的発信力をもって社会に貢献するとともに、自らの人生をもより豊かなものにできる人材を育成します。

文学部では、このような人材を育成するために、次のような入学者を求めています。

1. 日本語・外国語の運用能力を持つ人
2. 論理的・数理的思考能力を持つ人
3. 日本と世界の歴史・文化・社会に関する広い関心を持つ人

【資料5-1-1③】 入学者選抜の基本方針

2 入学者選抜の基本方針

千葉大学の入学者選抜の基本方針、並びに文学部の入学者受け入れの方針を反映させるためには、しっかりとした基礎学力のある人材を選抜することとともに、さまざまな背景や考え方を持つ入学者が互いに刺激し合いながら学問を探究していける環境をつくり出すことが重要であると考え、受験機会の複数化を保証しています。前後期の個別学力検査の他に、高等学校までに優秀な成績を修めると同時に意欲的に社会活動や生徒としての活動を行ってきた経験を重視する学校推薦型選抜や、社会人としての経験を重視する社会人選抜、また、先進科学プログラム（飛び入学）学生選抜、私費外国人留学生選抜、総合型選抜、3年次編入学試験などによっても、入学者の多様化を進めています。

1. 一般選抜

(1) 前期日程

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語）、個別学力検査の成績、調査書の内容を総合的に評価します。

(2) 後期日程

大学入学共通テストの成績（国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語）、個別学力検査の成績、調査書の内容を総合的に評価します。

2. 特別選抜

(1) 総合型選抜

課題論述，面接，提出書類（自己推薦書等）の内容及び大学入学共通テストの成績（国語，地理歴史・公民，数学，理科，外国語）を総合して評価します。

(2) 学校推薦型選抜

高等学校で優秀な成績を修めている者に対して大学入学共通テストを免除し，出願書類（調査書，推薦書及び志願理由書），小論文及び面接により総合的に評価します。

(3) 社会人選抜

すでに社会人としての経験を持ち，なお大学での歴史学の勉学を希望する者を対象に，出願書類（調査書，志望理由書及び履歴書等），小論文及び面接により総合的に評価します。

(4) 私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者で，別に定める一定の要件を満たした者に対して，出願書類，日本留学試験及び面接により総合的に評価します。

(5) 3年次編入学

大学，短期大学または高等専門学校を卒業した者及び見込みの者，大学に2年以上在学し，62単位以上の単位を修得した者及び同要件を満たす者に対して，提出書類

（出願理由書，論文等），筆記試験及び口述試験により総合的に評価します。

(6) 先進科学プログラム（飛び入学）学生選抜

先進科学プログラムの入学者選抜の基本方針に基づき評価します。

また、学生が入学前に学習しておくことが期待される内容は、千葉大学の入試案内のウェブページ (https://www.chiba-u.ac.jp/exam/20-07_02bungaku.pdf) における「千葉大学文学部入学者受け入れの方針」に明示されている。

【資料 5-1-1④】 千葉大学文学部入学者受け入れの方針における「入学前に身に付けて欲しいこと」

3 入学までに身に付けて欲しいこと

日本と世界のさまざまな事柄に対する広い関心や強い好奇心は，基礎学力を身に付けるための動機となるものです。自ら疑問点や問題点を見つけ，それらを解決し，他の人に説得的に説明しようとする態度を身に付けておくことが必要です。

また、日本語と外国語は、文法や語彙の勉強だけでなく、実際に使われていることばの観察によって言語感覚を磨くことが大切です。

なお、文学部では専門性を深めていくために、入学後は専門性に対応した4つのコースのうちのいずれかに所属して学修していきます。それぞれのコースで学ぶに当たっては、特に以下のような能力や姿勢を身につけておくことが望まれます。

行動科学コース：読解力，論理的思考力，及び数理的能力を中心に，地理歴史・公民・理科にわたる幅広い基礎学力，並びに問題を自ら積極的に探求する姿勢。

歴史学コース：日本・世界の歴史に関する幅広い知識とともに，特定の分野にとどまらない教養を身につけて，社会や文化について歴史的に考えようとする姿勢。

日本・ユーラシア文化コース：国語をはじめ，地理歴史・公民，外国語にわたる幅広い基礎学力，並びに日本及びユーラシア諸地域の歴史・地理や言語文化について積極的に理解しようとする姿勢。

国際言語文化学コース：世界の出来事に対して関心を持ち，日本及び世界諸地域の地理・歴史・文化について理解しようとする姿勢，並びに外国語の高度な運用能力。

(出典：千葉大学HP入試案内・文学部)

【資料 5-1-1⑤】文学部の募集人員

学部	学科・課程	入学定員	募集人員						
			一般入試		特別入試				
			前期日程	後期日程	AO入試	推薦入試	園芸産業 創発学 プログラム 選抜	帰国子女 入試	社会人入試
文学部	人文学科	170	125	18	3	24	-	-	- 若干名

(出典：千葉大学一般入試募集要項)

【資料5-1-1⑥】 文学部コース別の募集人員

4. 文学部
文学部では、次のとおりコースごとに募集します。出願したコースで合格すれば「人文学科」の志願したコースに所属します。ただし、2年次進級時に別のコースへ進むことを希望すれば、そのコースへ進むこともできますが、各コースが課している条件や教室設備等の関係により、一定の制限があります。

コース	募集人員				
	一般選抜		特別選抜		
	前期日程	後期日程	総合型選抜	学校推薦型選抜	社会人選抜
行動科学コース	49	15	-	9	-
歴史学コース	23	3	-	5	若干名
日本・ユーラシア文化コース	28	-	3	-	-
国際言語文化学コース	25	-	-	10	-

※各コースの募集人員はおおよその人数であり、志願状況等により増減することがあります。

(出典：千葉大学一般入試募集要項)

分析項目5-2-1

学生受入方針に沿って、受入方法を採用しており、実施体制により公正に実施していること

文学部では、一般選抜（前期・後期）、特別選抜（学校推薦型選抜、社会人選抜、先進科学プログラム（飛び入学）学生選抜、A0入試〔令和3年度から「総合型選抜」と名称変更〕、私費外国人留学生選抜）という多様な入試実施体制のもと、学生の受入を行っている。これは学部のアドミッション・ポリシーに基づき、多角的な視野、バックグラウンドをもった学生を受け入れるための方策である。

また各コースで独自の配点・入試体制をとっているのも、コースごとのアドミッション・ポリシーに基づいたものである。配点については、たとえば日本・ユーラシア文化コースは、センター試験（現共通テスト）に対する個別学力検査の配点が、他コースより大きい。これは記述・考察力をはかる個別検査により重きをおくためである。

また入試体制では、行動科学コースが実施している先進科学プログラム（飛び入学）学生選抜は、優れた数理能力の育成を早い段階で行うため【資料5-2-1②】、一方、歴史学コースの社会人入試（24歳以上）は、社会経験によって育まれた歴史的視点をもって、学習・研究を行える学生を受け入れるためである【資料5-2-1③】。

さらに2019年度より日本・ユーラシア文化コースでは【資料5-2-1④】に示したように外国語試験の成績利用を導入した。これは日本を内/外から見ることを目指す同コー

スのアドミッション・ポリシーに基づき、確かな外国語運用能力をもった学生を受け入れるという方針に拠るものである。さらに同コースでは、【資料5-2-1⑤】に示したようにAO入試を採用し、学力検査だけでは推し量れない柔軟な発想力、明確な問題意識・学修意欲を有している学生を受け入れるべく、筆記・面接検査を行っている。

【資料 5-2-1①】 一般入試における配点

(前期入試)

試験の区分 及び教科 ・科目等			大学入学共通テスト								個別学力検査等							合計			
			国語	地理・歴史	公民	数学	理科	外国語	計	国語	数学	地理歴史	理科	小論文	専門適性検査	外国語	面接		その他	計	
国際教養学部	国際教養学科		100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	国語(300)又は理科(300)を選択 数学(300)又は地理歴史(300)を選択					300			900	1,350
文学部	人文学科	行動科学コース	100	50	*50	50	50	50	*50	100	450	200	150					200		550	1,000
		歴史学コース	100	50	50	50	50	50	100	450	200		200					200		600	1,050
		日本・ユーラシア文化コース	100	50	50	50	50	50	100	450	300		300					300		900	1,350
		国際言語文化学コース	100	50	50	50	50	50	100	450	200		150					200		550	1,000

(後期入試)

試験の区分 及び教科 ・科目等			大学入学共通テスト								個別学力検査等					合計			
			国語	地理・歴史	公民	数学	理科	外国語	計	数学	理科	外国語	総合テスト	小論文	面接		計		
文学部	人文学科	行動科学コース	120	30	*30	60	60	30	*30	120	450					400		400	850
		歴史学コース	100	50	50	50	50	50	100	450					300	100	400	850	

(出典：千葉大学一般入試募集要項)

【資料5-2-1②】 千葉大学先進科学プログラム（飛び入学）行動科学コース

選 抜 方 法 等	<p>提出された書類（自己推薦書、推薦書及び調査書）並びに個別学力検査（一般選抜前期日程。受験科目は分野・学科別に指定）の結果により、第1次判定合格者を決定します。さらに、第1次判定合格者に対して面接（人間科学関連分野は課題論述及び面接）を行い、総合判定のうえ合格者を決定します。</p> <p>なお、志望する分野に関連する物理、化学、生物、数学、情報分野などの科学技術コンテスト等における実績（自己推薦書に記入のこと）がある場合には、その実績を総合判定において高く評価します。</p> <p>また、工学関連分野[工学部 総合工学科（物質科学コース）]では、ISEF（国際学生科学技術フェア）の個人研究で日本代表として選抜された者については、個別学力検査（一般選抜前期日程）を免除します。</p> <p>（詳細は、7月下旬に発表予定の先進科学プログラム（飛び入学）学生募集要項（方式Ⅰ、方式Ⅱ、方式Ⅲ）でご確認ください。）</p>
-----------	---

(出典：千葉大学一般入試募集要項)

【資料5-2-3③】 社会人入試 歴史学コース

選抜方法

提出された書類（調査書等）及び小論文に基づき面接を行い、総合的に判断し合格者を決定します。（大学入学共通テストは免除します。）

(1) 小論文及び面接の日時等

期 日	試験科目等	時 間	場 所
令和3年11月13日(土)	小 論 文	10：00～11：30	千葉大学文学部
	面 接	13：00～	

(出典：千葉大学一般入試募集要項)

【資料 5-2-1④】 一般入試における外国語検定試験の成績利用

パターンⅢ：文学部（人文学科日本・ユーラシア文化コース）、法政経学部、
教育学部（英語教育コース除く）、理学部、工学部、薬学部

「外国語」 の得点換算	Cambridge English	実用英語 技能検定 (英検)	GTEC	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R + TOEIC S&W
10 点加算	160 以上	2300 以上 *1	1190 以上	5.5 以上	309 以上	600 以上	72 以上	1560 以上
5 点加算	153 以上	2180 以上 *2	1120 以上	5.0	280 以上	540 以上	62 以上	1420 以上

*1 1級又は準1級を受験して取得したスコアに限ります。

*2 準1級又は2級を受験して取得したスコアに限ります。

*3 2級を受験して取得したスコアに限ります。

(出典：千葉大学一般入試募集要項)

【資料 5-2-1⑤】 総合型選抜の入学者選抜方法（日本・ユーラシア文化コース）

選抜方法等	<p>提出された書類並びに課題論述及び面接により、総合判定のうえ合格内定者を決定し、更に令和3年度大学入学共通テストで指定する教科・科目の成績（素点）総得点が70%に達した合格内定者を最終合格者として決定します。</p> <p>《大学入学共通テストの指定教科・科目等》 大学入学共通テストの指定教科・科目等については、一般選抜前期日程の文学部人文学科日本・ユーラシア文化コースと同様とします。</p>
-------	--

(出典：千葉大学一般入試募集要項)

【資料5-2-1⑤】 総合型選抜自己推薦書①

令和3年度（2021年度）
千葉大学文学部人文学科日本・ユーラシア文化コース総合型選抜
自己推薦書①

受験番号※	
フリガナ	
氏名	

あなたがこれまで（高校卒業後を含めてよい）に積極的に取り組んだ勉学その他の活動は何ですか。次のA～Iの項目の中から該当するものの欄に○印を記入し（複数選択可）、その内容を自己推薦書①別紙1に具体的に書いてください。

○記入欄	これまで（高校卒業後を含めてよい）に積極的に取り組んだ勉学その他の諸活動
	A 学業（特定の科目/分野ないし全般的に優れた学業成績を収める等）
	B 学校内の諸活動（部活動、生徒会活動、SSH、SGHでの活動等）
	C 文化、芸術、スポーツにおける諸活動（各種大会、コンクール等での成果等）
	D 語学能力向上（英検、TOEIC等の外国語検定試験合格歴とその種別等）
	E 自主的活動（継続した社会奉仕活動〔ボランティア〕、社会的実践活動等）
	F 国際交流（海外研修、留学経験、異文化交流等）
	G 各種資格取得（D語学能力以外の各種資格取得・検定試験合格等）
	H 就業経験における実績（就業の機会のある場合の特記事項等）
	I その他（上記に該当しない諸活動、能力、経験に関するもの）

【資料5-2-1⑤】 同上・自己推薦書②

令和3年度（2021年度）
千葉大学文学部人文学科日本・ユーラシア文化コース総合型選抜
自己推薦書②

受験番号※	
フリガナ	
氏名	

あなたが千葉大学文学部人文学科日本・ユーラシア文化コースを志望する理由、および積極的に自己アピールできることを自由に記述してください。

分析項目 5-2-2

学生受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組を行っており、その結果を入学者選抜の改善に役立てていること

文学部の入試については、「各種委員会規程」に基づき設置された入試委員会を中心に検討され、年度始めの入試委員会や教授会において、入学状況等の資料に基づいた総括・検証を行い、次年度以降の入試体制の方針を議論している。また各コースの入試委員・コース長を中心に、毎年、入試体制の検討を行っている。さらに特別入試については、コースごとに前年度入試問題を確認、各コースのアドミッション・ポリシーにもとづいた問題を作成し、面接も複数体制で行っている。

【資料5-2-2】 入試委員会の役割

入試委員会	互選（教授に限る）		4名	入学試験に関すること	西千葉地区事務部 人社系学務課
-------	-----------	--	----	------------	--------------------

（出典：千葉大学大学院人文科学研究院・文学部各種委員会規程）

分析項目 5-3-1

実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと

志願倍率は、例年5～6倍の高倍率、充足率も100～105%内と、安定した入学者数を保っている。

【資料5-3-1】文学部入学充足率等（2014～2020年度）

※外国人留学生は除く。*行動科学コースには先進科学プログラム（方式Ⅱ）を含む									
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	入学定員 に対する 平均比率
行動科学	志願者数	334	339	369	384	385	363	413	4.98
	合格者数	88	84	79	81	82	81	81	1.11
	入学者数	81	78	70	75	77	77	77	1.03
	募集人員	77	77	73	73	73	73	73	
	充足率	105.20%	101.30%	95.90%	102.70%	105.50%	105.50%	105.50%	
（歴史学）	志願者数	196	215	208	196	197	217	221	6.56
	合格者数	41	37	38	39	38	37	42	1.23
	入学者数	33	34	32	32	33	33	33	1.04
	募集人員	33	33	31	31	31	31	31	
	充足率	100.00%	103.00%	103.20%	103.20%	106.50%	106.50%	106.50%	
（日文化）	志願者数	212	219	162	198	252	240	149	6.48
	合格者数	41	39	35	36	35	35	34	1.15
	入学者数	33	33	33	35	30	31	29	1.01
	募集人員	33	33	31	31	31	31	31	
	充足率	100.00%	100.00%	106.50%	112.90%	96.80%	100.00%	93.50%	
国際言語文化（学）	志願者数	142	118	95	140	95	110	94	3.19
	合格者数	40	41	39	37	37	39	39	1.09
	入学者数	39	41	35	33	34	37	34	1.02
	募集人員	37	37	35	35	35	35	35	
	充足率	105.40%	110.80%	100.00%	94.30%	97.10%	105.70%	97.10%	
文学部	志願者数	884	891	834	918	929	930	877	5.18
	合格者数	210	201	191	193	192	192	196	1.14
	入学者数①	186	186	170	175	174	178	173	1.03
	入学定員	180	180	170	170	170	170	170	
	充足率	103.30%	103.30%	100.00%	102.90%	102.40%	104.70%	101.80%	
私費留学	志願者数	16	9	12	8	17	22	21	
	合格者数	5	3	3	5	6	2	3	
	入学者数②	3	2	1	3	5	1	3	
（編入学、国費、政府派遣、日台 含まない）									
文学部	入学者数③（①+②）	189	188	171	178	179	179	176	
	入学定員	180	180	170	170	170	170	170	
	充足率	105.00%	104.40%	100.60%	104.70%	105.30%	105.30%	103.50%	
（編入学、国費、政府派遣、日台 含む。）									
	在籍学生数(5.1現在)	826	825	802	788	784	780	771	
	収容定員	740	740	730	720	710	700	700	
	収容定員充足率	111.60%	111.50%	109.90%	109.40%	110.40%	111.40%	110.10%	

（出典：入学試験に関する調査（入試課）、学部学生数（教育企画課））

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

◆基準6-1

学位授与方針が具体的かつ明確であること

◆基準6-2

教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること

◆基準6-3

教育課程の編成および授業科目の内容が、学位授与方針および教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること

◆基準6-4

学位授与方針および教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

◆基準6-5

学位授与方針に則して適切な履修指導、支援を行っていること

◆基準6-6

教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること

◆基準6-7

大学等の目的および学位授与方針に則して、公正な卒業（修了）判定が実施されていること

◆基準6-8

大学等の目的および学位授与方針に則して、適切な学習効果が得られていること

分析項目6-1-1

学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること

文学部は、大学全体の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、【資料6-1-1①】のように、学部としてのディプロマ・ポリシーを定めている。このディプロマ・ポリシーは、大学の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定されたものであり、ホームページで広く公開するとともに、学生へも周知している。

【資料6-1-1①】文学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

千葉大学文学部は、「つねに、より高きものをめざして」の本学の理念のもと、以下を修得した学生に対して、学位を授与する。

「自由・自立の精神」

自立した社会人として、自己の目標を設定し、向上心と向学心、またそれを支える学修技法を獲得でき、自己の良心と社会の規範を尊重し、高い倫理性をもって行動できる。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」

人文科学の専門諸領域の社会的、文化的、歴史的な位置づけを理解し、自己の専門的能力を地球社会および地域社会の持続可能でインクルーシブな発展のために役立てることができる。自己の国際経験を生かし、広い視野から社会に貢献することができる。

「普遍的な教養」

多様な文化・価値観を深く理解し、文理横断的・異分野融合的な知を備え、社会や人類が直面する地球規模の課題について主体的な認識と判断力をもって対応できる教養を身につける。

「専門的な知識・技術・技能」

人文科学の専門領域に関する知識を幅広く習得し、それらを問題設定・手法選択・問題解決のために活用でき、批判的な姿勢で実証的・論理的な思考を実践するとともに、イノベーション創出に結びつけることができる。

「高い問題解決能力」

他者と協力して考えや情報を共有するとともに、主体的学修を通じて問題解決に取り組み、解決の方向性を提案することができる。

分析項目6-2-1

教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること

① 文学部における教育課程の編成の方針

文学部は、大学全体の教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、【資料6-2-1】のように、学部としての教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。このカリキュラム・ポリシーは、大学全体の方針としてホームページで広く公開しており、学生にも周知がされている。

【資料 6-2-1】 文学部の教育課程の編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部 教育課程編成・実施の方針

「自由・自立の精神」を堅持するために

学生が自主的に自己の学修目標を設定し、向上心と向学心を持ってその達成に取り組む学修態度、またそれを支える学修技法を涵養する教育課程を編成し、提供する。教育課程全般を通して、自己の良心と社会の規範を尊重し、高い倫理性をもって自立的に行動する姿勢を涵養する。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」を持つために

地球規模的な視点から人文科学の専門諸領域の社会的、文化的、歴史的位置づけを理解するための幅広い視野と、批判的精神を育成する学修機会を提供する。教育課程全般を通して、多様な留学の機会を提供し、自己の専門的能力を地球社会と地域社会の持続的な発展のために役立てようとする姿勢を備えた人材の育成に取り組む。学内外で継続的な学修を促進するために、情報通信技術を活用した学修基盤を提供する。

「普遍的な教養」を涵養するために

多様な文化・価値観を深く理解し、文理横断的・異分野融合的な知を備え、社会や人類が直面する地球規模の課題に取り組むために、普遍教育科目を体系的な教育課程の中に位置づけ、提供する。普遍教育と専門教育をつなぐ横断的な学修機会を提供し、全学的な副専攻を充実させる。

「専門的な知識・技術・技能」を修得するために

人文科学の専門領域に関する知識を幅広く、かつ段階的・体系的に習得できる教育課程を提供する。人文科学の専門知識を活用し、主体的・批判的な姿勢で実証的・論理的な思考を実践するための訓練の場として演習・実習科目を提供する。広く社会に貢献するとともに、知識集約型社会を牽引するイノベーション創出のための学修環境づくりを進める。

「高い問題解決能力」を育成するために

語学教育においては、発信型のコミュニケーションを学修する機会を、普遍教育科目を含めた体系的な教育課程の中に提供する。情報通信技術の活用も含め、必要な情報やデータを適切に収集・分析・活用する方法を修得し、情報を適切に発信することのできる学修の機会を提供する。社会の要請を踏まえて問題を主体的・能動的に解決する態度と技能を修得する専門教育科目を提供する。

② 文学部における教育課程における教育・学習方法に関する方針

文学部では、上記のような教育課程の編成方針に基づき、各コースにおいてそれぞれの専門分野の特質を活かした教育・学習方法を作成している。文学部では、各教員が人文科学の学問領域における確立した方法論と学術的な背景をもっており、それらに基づ

いて教育が実施され、学習が促進されている。授業に関しては、コースを横断して幅広く人文科学の学問の基礎を学ぶことのできる共通基礎科目を設置しているほか、それぞれのコースや専修において専門科目が体系的に整備されている。専門知識の体系的な獲得を目的とした講義科目に加えて、少人数制の強みをいかして、豊富な演習科目が開講され、学生の関心や知識に応じた指導が行われている。これらの情報については、『文学部履修案内』およびオンラインシラバス、そして各授業の初回で個別に配布する詳細なシラバスや説明等によって、具体的の方針や内容が学生へ明示されている。また、卒業論文は必修となっており、どの学生も独自の興味関心に応じた問題を設定し、調査方法を考察し、指導教員からの綿密な指導のもと研究を行っている。卒論については、執筆過程での中間発表会および執筆後の審査会・発表会がコースや専修ごとに行われており、専門教育の仕上げとなっている。卒論題目は毎年公開するとともに、優秀卒論をコースごとに選定し、優秀卒論集を発行して、その成果を公開している。

③ 文学部における学習成果の評価の方針

文学部では、いずれの授業についても、シラバスに目的・目標および成績評価基準を明記することとしている。また、20名以上の成績評価対象者を有する講義科目については、「秀」評価区分の比率は15%以下とし、「優」評価区分の比率は成績配分の割合が定められており、それに沿って成績をつけるように教員に対して周知がされている。これを踏まえて、年度末にはGPCA一覧表を作成して、文学部教務委員会において回覧し、成績評価の確認が行われている。前述のとおり学生全員に課している卒業論文は、文学部における専門教育の集大成であり、その成果については、審査会や発表会において広く他学生にも公開して評価を行っている。また、評価の結果として選ばれた最優秀論文、優秀論文に関しては、優秀卒論集として出版して公開すると同時に、教育にも還元している。

分析項目 6-2-2

教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること

上記のように、大学全体の学位授与方針を踏まえて文学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているが、そこであげられた5つの主軸となる指標「自由・自立の精神」「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」「普遍的な教養」「専門的な知識・技術・技能」「高い問題解決能力」について、それぞれの指標に関して、さらに具体的に細分化して修得すべき目標を定めた教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）を設定している。以下の分析項目 6-3-1 で資料として提示するカリキュラムマップにおいても、ディプロマ・ポリシーの各項目に複数対応したカリキュラム・ポリシーが計 11

項目具体的に明示されており、両ポリシーの連続的な関係を表すものとなっている。以上のことから、文学部における教育課程方針と学位授与方針とは整合性を有しているといえる。

分析項目 6-3-1

教育課程の編成が、体系性を有していること

文学部の教育課程の基本構成は、千葉大学学則 33 条及び 35 条に基づき、学部の目的を達成するため、普遍教育科目と専門教育科目に科目区分が設定され体系的に編成されている【資料 6-3-1①】。

【資料 6-3-1①】 千葉大学における教育課程の編成方針と科目区分(学則)

(教育課程の編成方針)

第 33 条 各学部は、本学、学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を第 35 条に定める区分に従って開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

(授業科目の区分)

第 35 条 授業科目の区分は、次のとおりとする。

一 普遍教育科目

イ 英語科目

ロ 初修外国語科目

ハ 情報リテラシー科目

ニ スポーツ・健康科目

ホ 教養コア科目

ヘ 教養展開科目

二 専門教育科目

イ 専門基礎科目

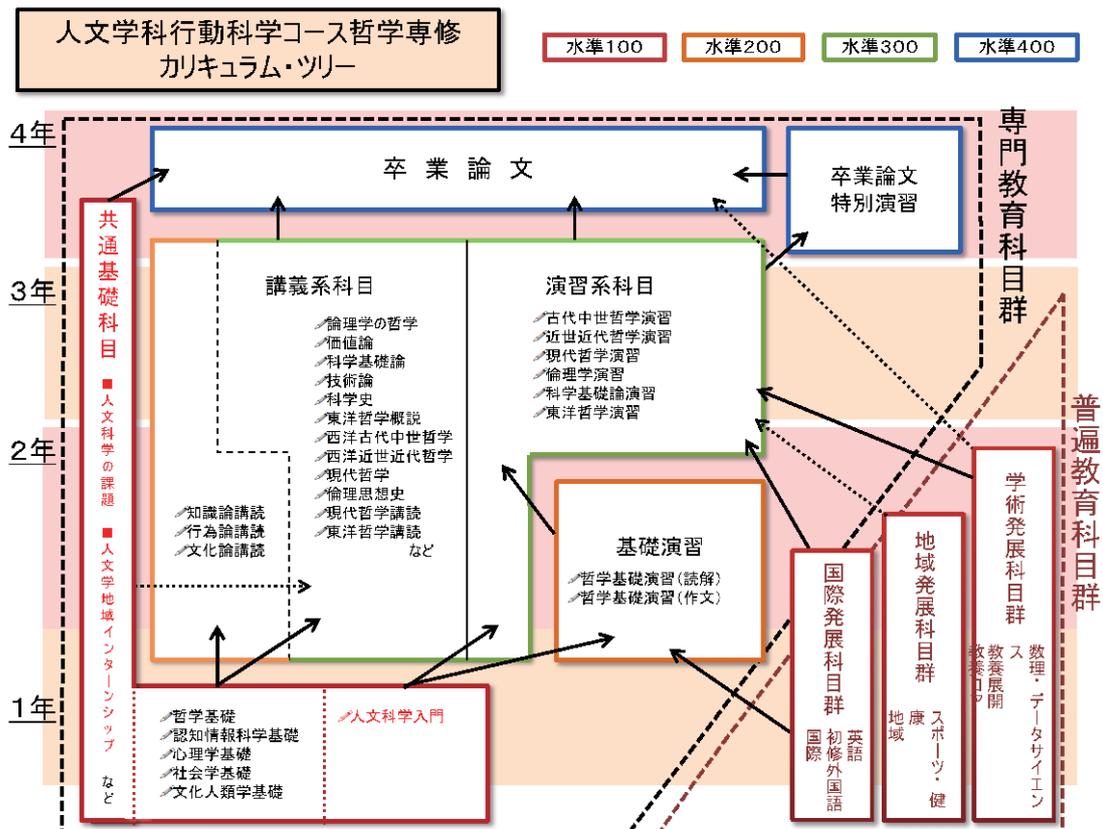
ロ 専門科目

千葉大学では、教育の質を保証するとともに、学生の立場に立った教育課程の体系化を進める仕組みとして「コース・ナンバリング・システム」を全学的に導入している。

このシステムは、他学部や他学科等の授業科目を履修する際の指標として役立つとともに、国内の他大学や海外の大学との単位互換につなげることを可能とするものである。文学部も水準コードに基づき、カリキュラム・ツリーを設定している。カリキュラム・ツリーを【資料6-3-1②】に示す。

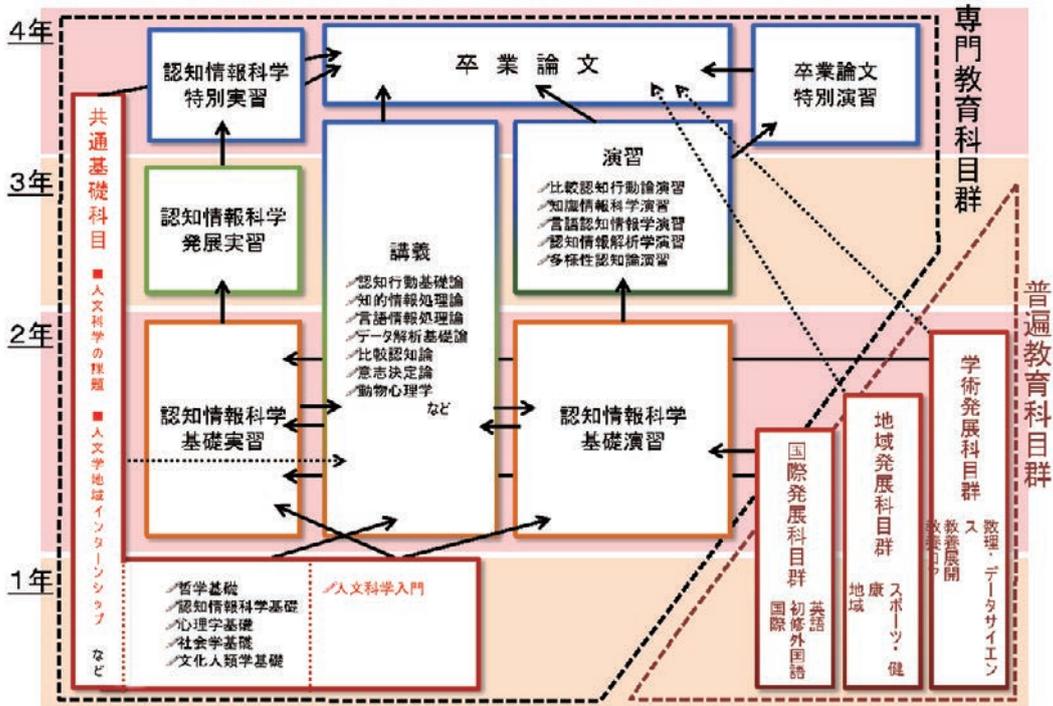
文学部における教育課程の基本構成は、『文学部履修案内』に明記しており、普遍教育科目を計26単位、専門教育科目を共通基礎科目32単位、専門科目46単位を含めて78単位取得することとなっている。このほか、卒業論文の8単位に加えて、12単位を自由選択科目とすることができる。専門教育科目の単位修得率は【資料6-3-1③】に示したとおりで、平均して90パーセントを超えており、比較的に良好であるといえる。

【資料6-3-1②】文学部カリキュラム・ツリー



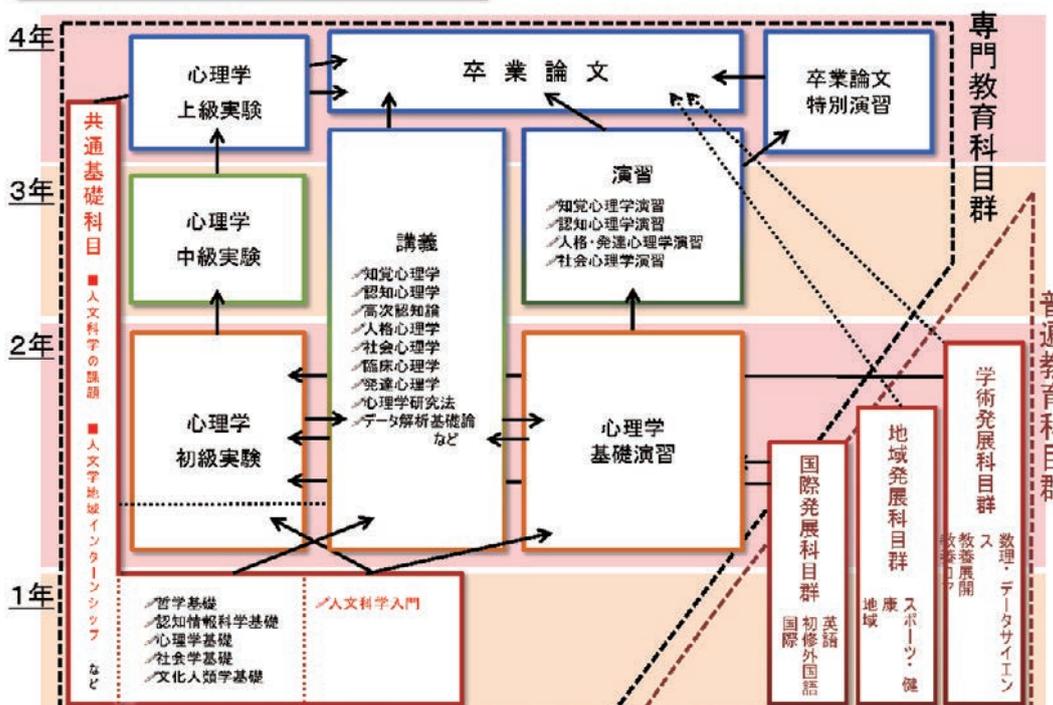
人文学科行動科学コース認知情報科学専修
カリキュラム・ツリー

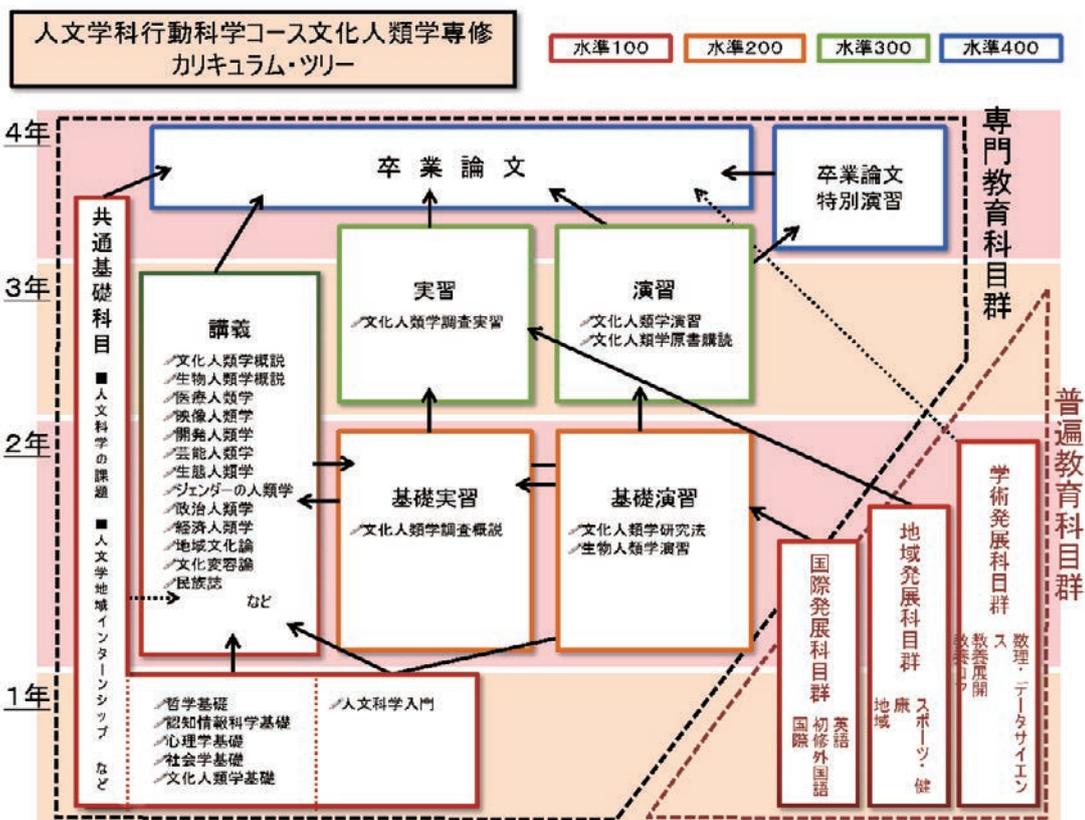
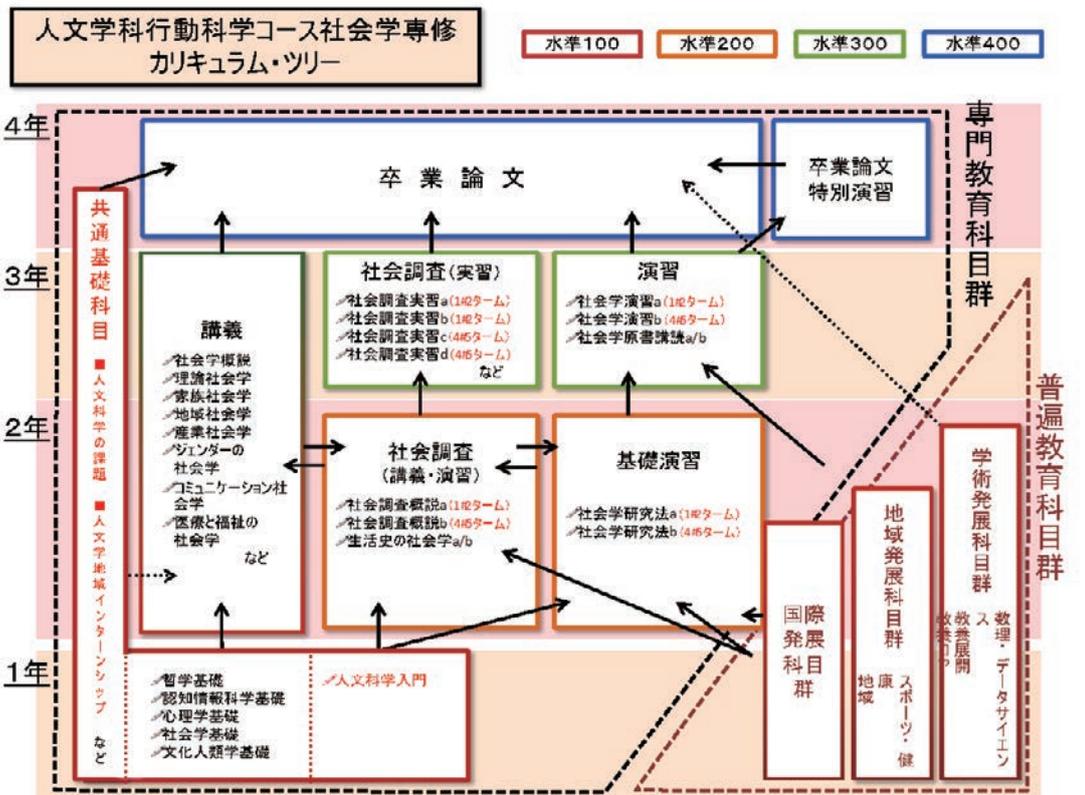
水準100 水準200 水準300 水準400

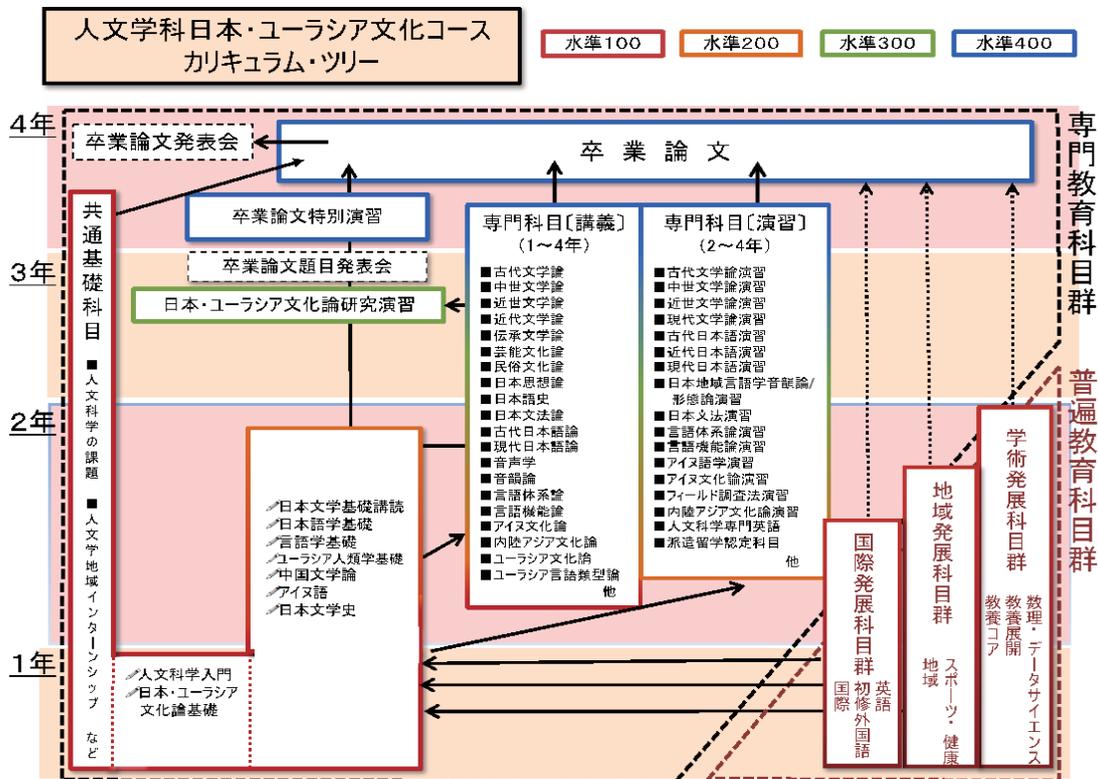
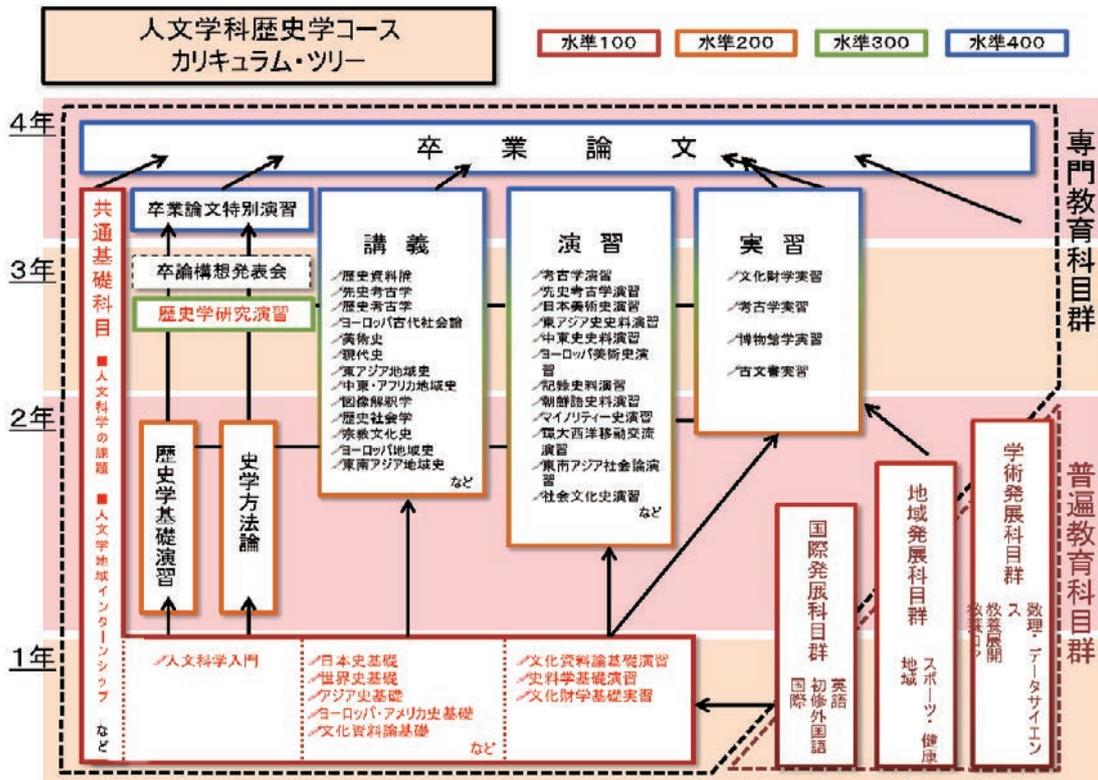


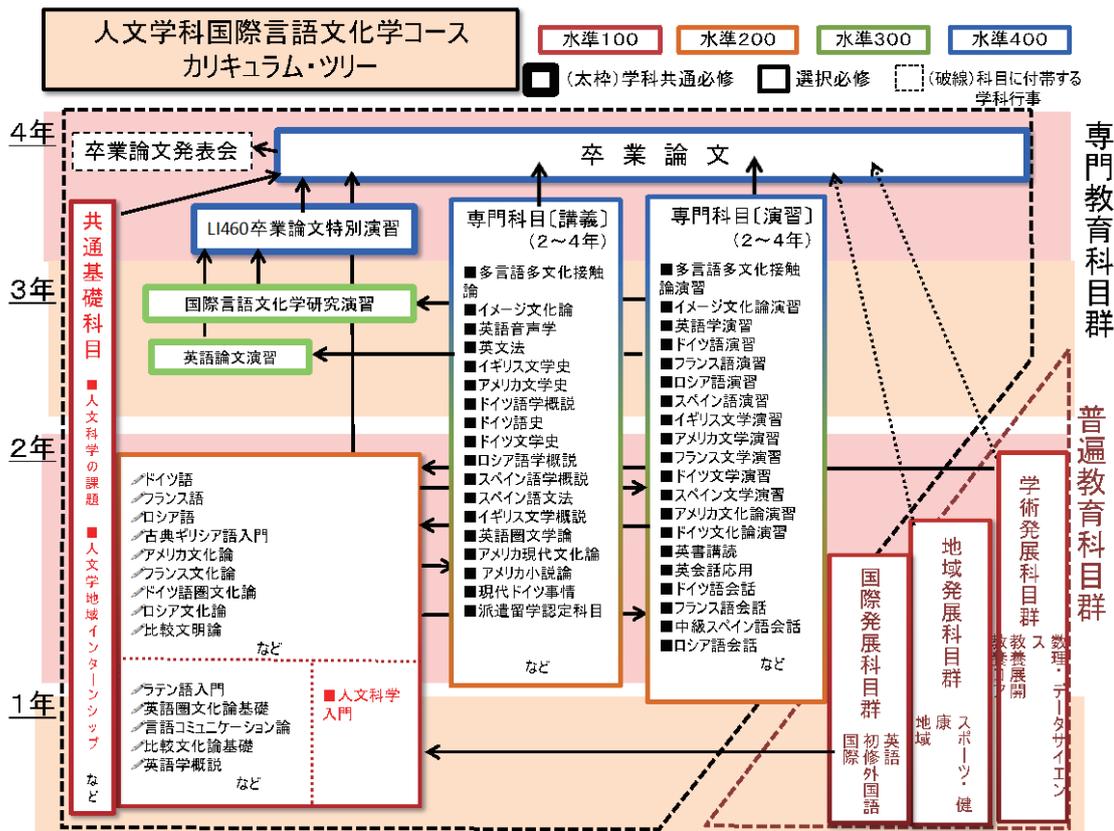
人文学科行動科学コース心理学専修
カリキュラム・ツリー

水準100 水準200 水準300 水準400









【資料 6-3-1③】 専門教育科目の単位修得率

	履修登録者数	単位修得者数	単位修得率
2015年度	9937	9089	91.4%
2016年度	9947	9052	91.0%
2017年度	10177	9495	93.2%
2018年度	10048	9342	92.9%
2019年度	10144	9495	93.6%

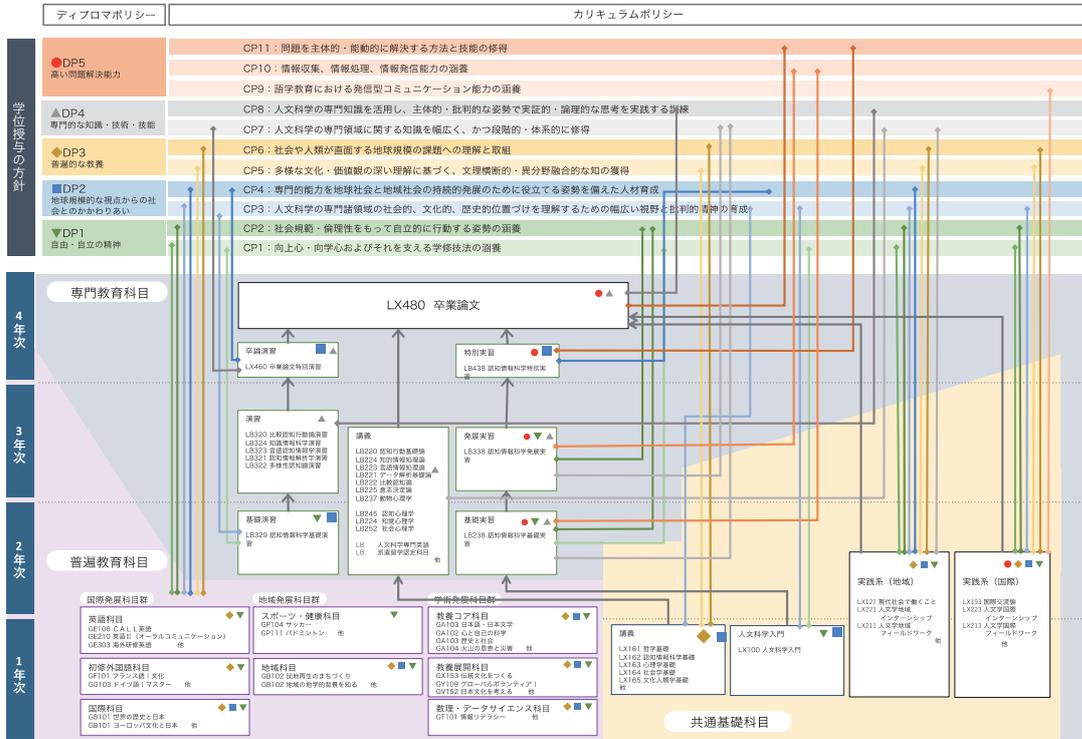
(出典：大学基本データ)

このような基本構成を踏まえて、文学部では、コース・専修ごとに体系化された教育課程を設定しており、カリキュラム・ツリーに加えて【資料 6-3-1④】に示したカリキュラムマップも作成している。カリキュラムマップでは、学位授与の方針として定めた5つのポリシーに対して、それらの目標を達成するために具体的なポリシーが11項目設定されている。そして、普通科目および専門教育科目の授業科目群を相互の関係性およびディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーのそれぞれの項目との結びつきが明らかになるように図示している。1年次に普通教育科目および文学部共通基礎科目を履修したうえで、2~3年次に専門科目である講義科目と演習科目を履修し、4年次に卒

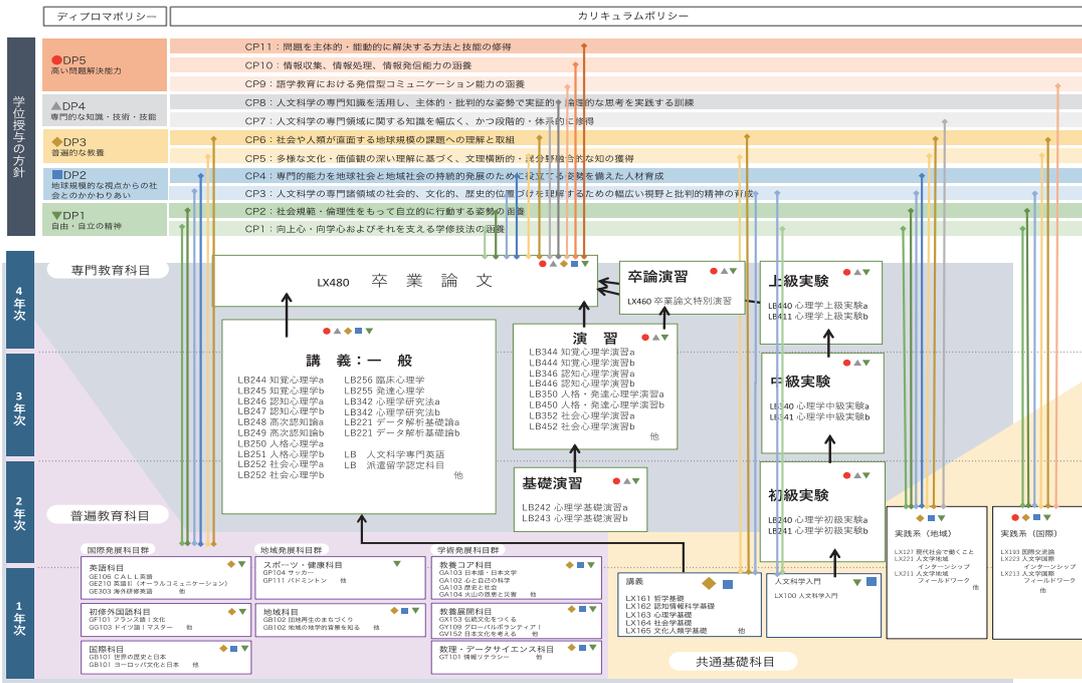
業論文を作成するに至るプロセスが、コースや専修ごとに明示されている。

【資料 6-3-1④】文学部カリキュラムマップ

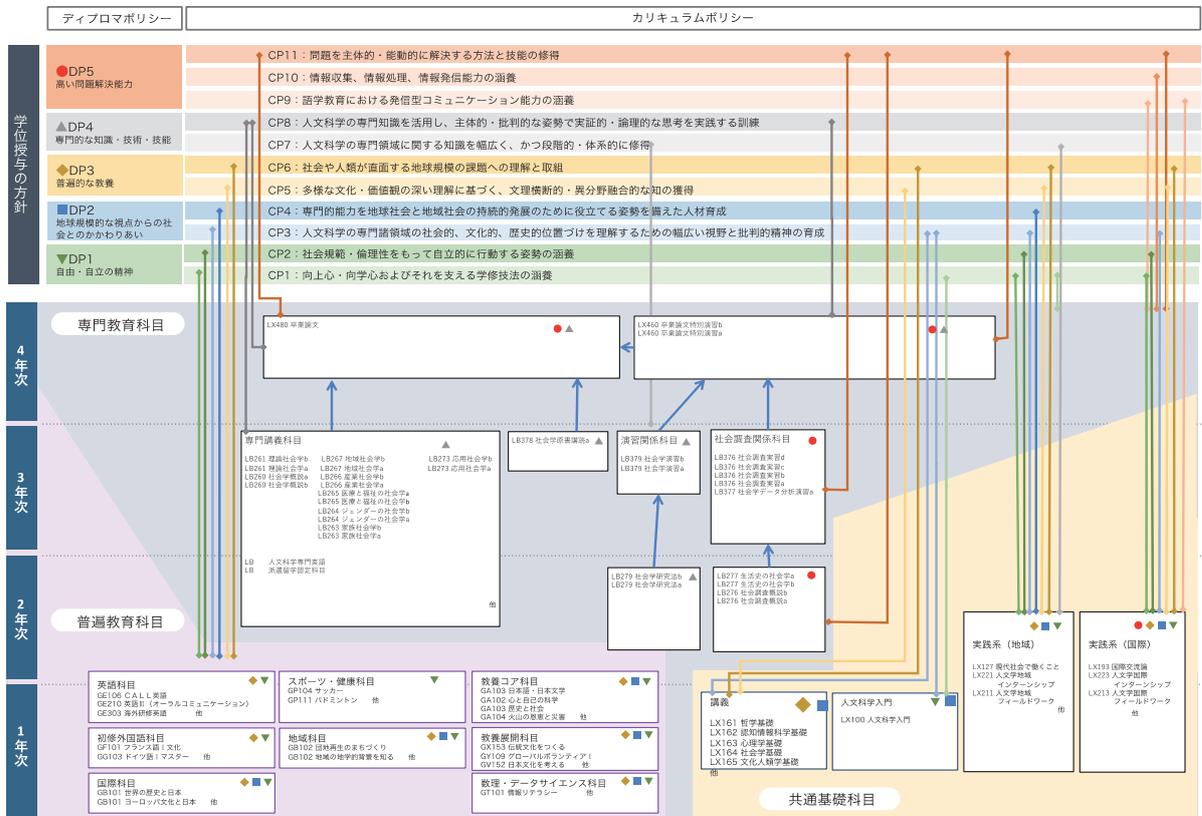
文学部人文学科（行動科学コース認知情報科学専修）カリキュラムマップ



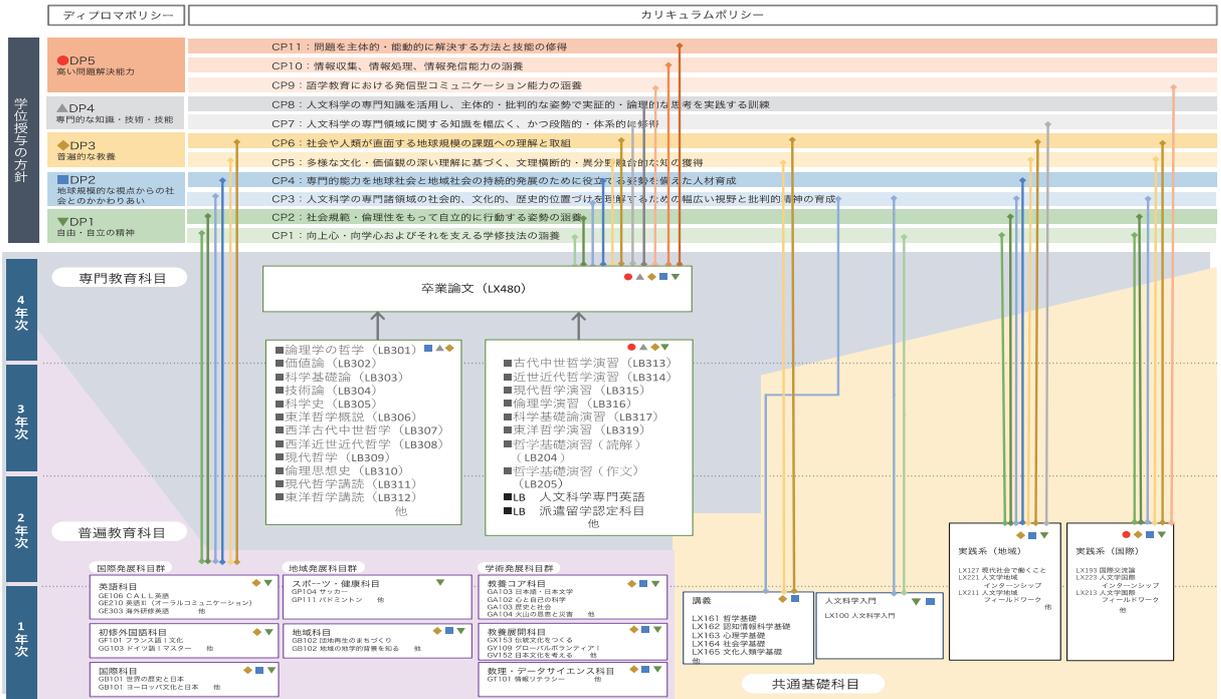
文学部人文学科（行動科学コース心理学専修）カリキュラムマップ



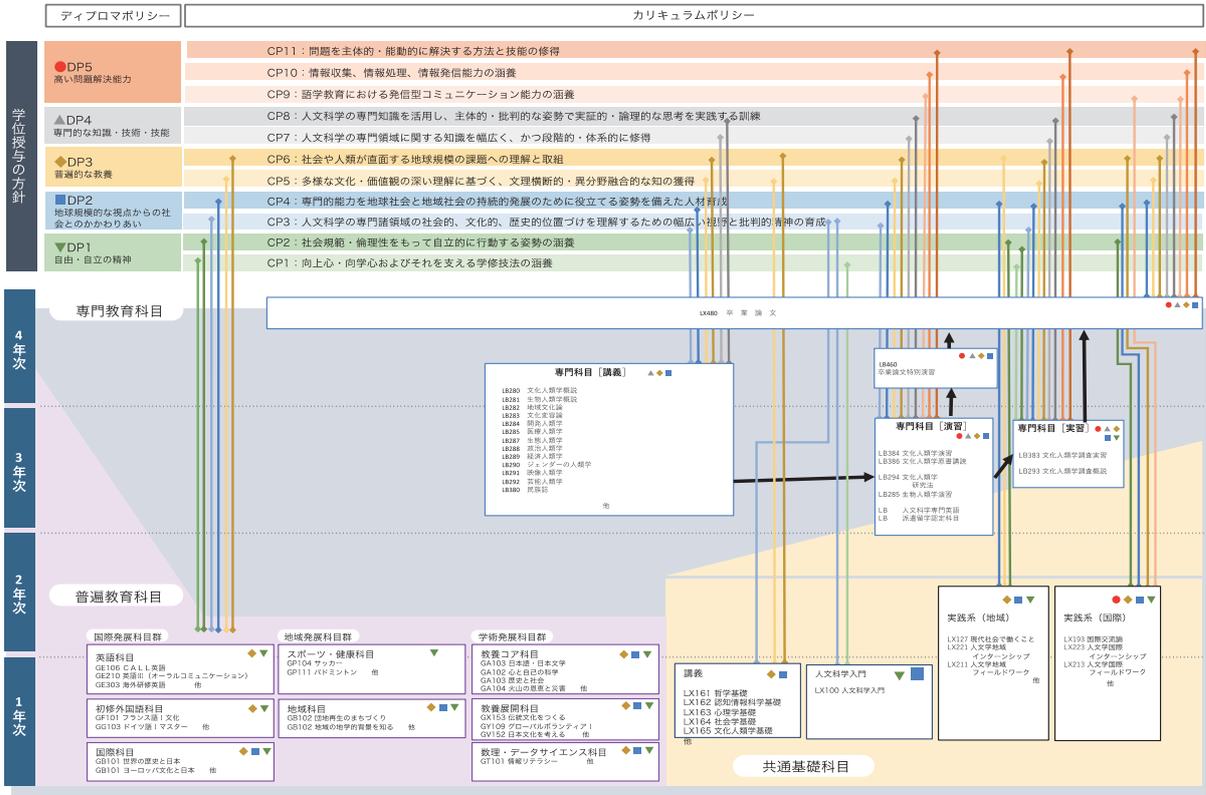
文学部人文学科（行動科学コース社会学専修）カリキュラムマップ



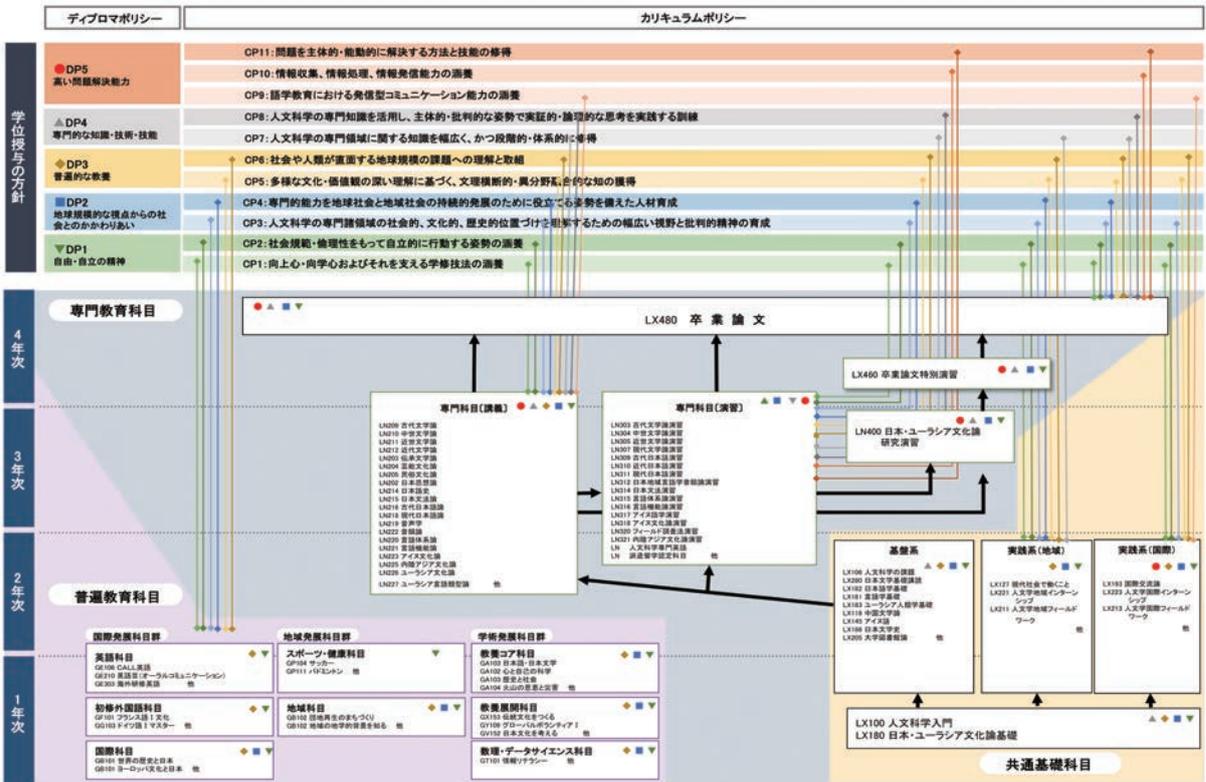
文学部人文学科（行動科学コース哲学専修）カリキュラムマップ



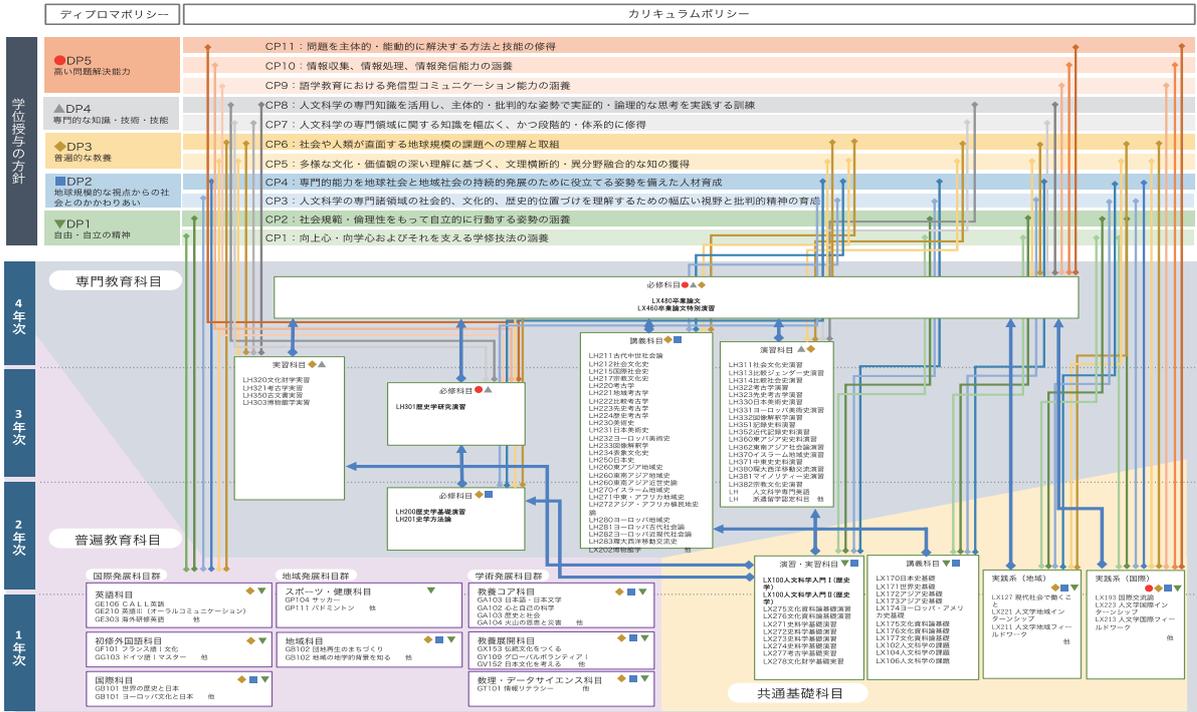
文学部人文学科（行動科学コース文化人類学専修）カリキュラムマップ



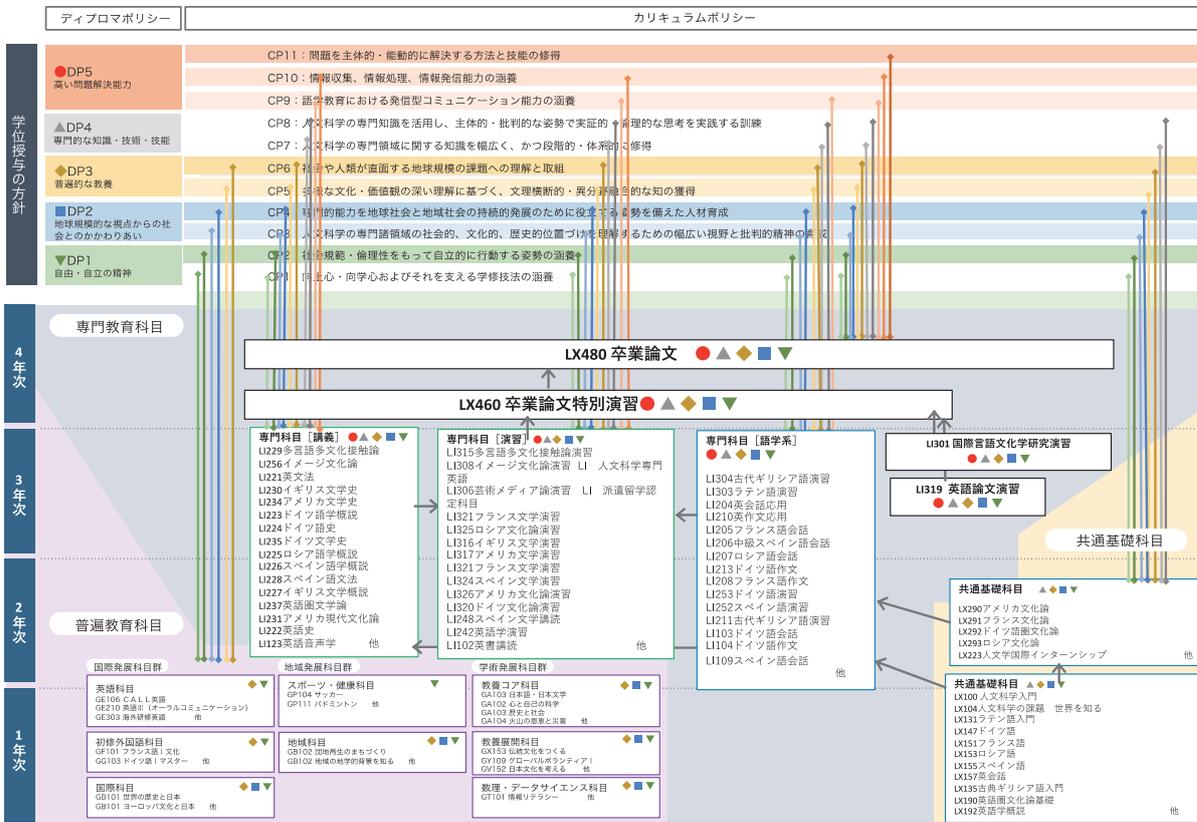
文学部人文学科（日本・ユーラシア文化コース）カリキュラムマップ



文学部人文学科（歴史学コース）カリキュラムマップ



文学部人文学科（国際言語文化学コース）カリキュラムマップ



分析項目 6-3-2

授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること

文学部では、それぞれの授業が上記のカリキュラムマップに示されたような関係性と意味を持ちながら開講されており、学生が高度な専門教育を受けることを可能にしている。また、文学部ではターム制（8週）とセメスター制（15週）を併用しており、2タームを通して行われる16週の授業も存在する。これらの授業科目は「千葉大学シラバス検索システム」において公開され、詳細な内容を知ることができるようになっている。シラバスでは、授業の概要、目的・目標、第1～15回の授業内容が明記されるほか、学生の授業外学習についても具体的に指示を出すこととなっており、授業の質を担保している。

分析項目 6-3-3

他の大学または大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること

文学部では、3年次編入生を毎年10名程度受け入れており、それらの学生には千葉大学編入前に他大学や短大で取得した単位を認定する制度を取り入れている。【資料6-3-3①】に示したようなガイドラインが単位認定を行う教員に対して周知され、普遍教育科目に関する認定については、【資料6-3-3②】に示すような指針に沿うことが指示されている。

【資料6-3-3①】 3年次編入学生の既修得単位認定審査について（依頼）

【注意事項】

① 3年次編入学生の既修得単位認定審査については、文学部専門教育科目だけでなく、普遍教育科目や教育学部開講教職科目についても文学部において行うことになっています。

なお、普遍教育科目で申請できるのは、別紙1「2021年度 普遍教育科目及び共通基礎科目既修得単位認定科目一覧（3年次編入生用）」に記載のある科目のみです。

普遍教育科目には、次のような履修規則がありますので、ご注意ください。

・英語科目の「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「CALL 英語」は、それぞれ2単位が単位修得の上限です。同一名称科目であっても、2単位まで単位認定申請することができます。

【例】英語Ⅰ、英語Ⅱは、(W)や(L&S)等()内が異なっても同一名称科目とみなします。

・「英語Ⅲ」「英語Ⅳ」については、(総合)や(映像文化)等()内が同一名称の科目をそれぞれ2単位まで単位認定申請することができます。

・教養コア科目については、教養コア科目「①論理コア」～「⑥地域コア」の6群あり、同じ群の中から2科目以上単位修得することはできません。

【例】「哲学」(1単位)と「倫理」(1単位)は、いずれも「論理コア」に該当しますので、この科目を2つとも「教養コア」として単位認定申請することはできません。

② 申請者によっては、他コース開講科目についても申請している場合があります。その場合は、必要に応じて他コース教員にご照会くださるようお願いいたします。

③ 現時点で、今年度後期の成績が記載された成績証明書を提出できない申請者もいます。もし申請した授業科目について単位が修得できなかった場合は、当該科目の既修得単位認定は認められないこととなります。(その場合には、追ってお知らせいたします。)

④ 申請された授業科目では単位認定が難しい場合でも、他の授業科目として認定が可能である場合は、その科目名を記載いただくようお願いいたします。

【例】—「○○○論 a」— 「△△△論 b」として可

⑤ 「情報リテラシー」の既修得単位認定申請を行わない編入学生がいた場合には、来年度開講の「情報リテラシー」を忘れずに受講するようご指導をお願いいたします。

⑥ 高専は、3年次以上で履修した単位(一般教育、専門教育を問わず)が審査の対象となります。

⑦ 認定された科目は、再度単位を修得することができません(重複履修)。必修科目等、履修が必要な科目がある場合は、ご注意ください。

⑧ 既修得単位認定の上限は、普遍教育科目と文学部専門教育科目を合わせて60単位となります。審査の結果、60単位を超過している場合は、申請者に取り下げの科目を確認いただき60単位になるよう調整をお願いいたします。

普遍教育科目の既修得単位認定に関する申合せ

全学教育センター普遍教育運営部会申合せ

平成28年9月7日

1. 千葉大学での既修得単位

- 原則的にすべての既修得単位を認定審査対象とし、可能な限り認定する。ただし、申請された授業科目が当該年度に開講されていない場合は、できるだけ内容の近い普遍教育科目で審査する。

2. 他大学（短大を含む）、専修学校（専門学校）専門課程での既修得単位

- シラバスが添付されている場合で、既修得単位と申請科目の授業内容が一致しない場合は、内容が近い授業科目でできるだけ認定する。特段の理由によりシラバスが添付されていない場合は、提出された既修得単位認定申請書の記載内容で審査する。

※専修学校（専門学校）専門課程

修業年限が2年以上、総授業時間数が1700時間以上のものにおける学修で、大学において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

3. 高専での既修得単位

- 既修得単位と申請科目の授業内容が一致しない場合は、内容が近い授業科目でできるだけ認定する。

① 単位あたりの時間数の相違について

単位数の基準が異なる場合は、実際の授業時間数に相応する千葉大学での単位数で審査を実施する。

② 履修年次について

高専の3年次以上で履修した単位（一般教育、専門教育を問わず）を審査の対象とする。

4. 3年次編入学生に対する既修得単位の取扱いについて

- 3年次編入学生に対する既修得単位認定については、上記1～3によるものとするが、教養コア科目としての単位認定もできるものとし、その取扱いについては次のとおりとする。

- ① 教養コア科目として単位認定を受けようとする者には、既修得科目が教養コア科目論理～地域のいずれに該当するか申請させる。（本学の認定科目名は記入不要）
- ② 既修得科目の単位は1単位以上とし、既修得科目1科目に対し教養コア科目1科目群1単位を認定することを原則とする。
- ③ なお、教養コア科目として認定した科目の既修得単位数が6単位に満たない場合には教養展開科目の単位数で充足できるものとする。したがって教養コア科目と教養展開科目の合計単位数を当該学部の卒業要件単位数として扱うこともできる。
 具体例：卒業要件が教養コア科目6単位、教養展開科目6単位の場合
 教養コア科目の既修得単位が2単位認定された場合、不足の4単位は教養展開科目を履修し充足できる。したがって教養展開科目を10単位履修してもよい。

5. 高大連携による高校生の既修得単位について

- 科目等履修生として修得した既修得単位については、審査の対象とする。

6. 単位認定審査回数

- 単位認定審査は入学時の1回とする。ただし何らかの事情で申請期限内に申請できなかった者については、特例的に申請を認めることができる。

7. 既修得単位認定審査について

- 1年次生にあつては全学教育センターが行うものとし、3年次編入学生の審査にあつては当該学部において行うものとする。なお、学部において審査が困難な場合については全学教育センターに照会すること。

8. 既修得単位認定審査の留意事項

- 審査にあつては、既修得科目の単位数が申請科目の単位数を超えないことを原則とする。

既修得科目 A 2単位（週1回、90分、30週）→

申請科目 a 2単位（週1回、90分、15週）

申請科目 b 2単位（週1回、90分、15週）

↑いずれかしか認定しない

既修得科目 B 1単位（週1回、90分、15週）→

申請科目 c 2単位（週1回、90分、15週）

■事前審査及び予備審査（既修得単位認定審査会）では、原則として申請科目をそのまま審査し、各学部の履修要件や卒業要件を考慮した認定科目の変更等は行わない。

分析項目 6-4-1

1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること

文学部では、【資料 6-4-1①】に示すとおり授業カレンダーを設定しており、1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっている。

【資料 6-4-1①】2019年度（平成31年度）文学部授業カレンダー

2019年度（平成31年度）文学部授業カレンダー

＜前期＞							＜後期＞								
授業期間：4/8～7/30（15週（15回）） 試験・補講期間：7/31～8/6							授業期間：10/1～1/29（15週（15回）） 試験・補講期間：1/30～2/5								
一部、9月末までの間に実施される集中授業があります。							一部、3月末までの間に実施される集中授業があります。								
（ターム制（8週）で行う授業日程については以下の色分けのとおり）							（ターム制（8週）で行う授業日程については以下の色分けのとおり）								
	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4		1	2	3	4	5	6	10			1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12	13	11	6	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16月	17	18	19
月	21	22	23	24	25	26	27	1月	20	21	22	23	24	25	26
	28	29	30					2	27	28	29	30	31		
5				1	2	3	4	3							1
	5	6	7	8	9	10	11	4	3	4	5	6	7	8	9
	12	13	14	15	16	17	18	5	10	11	12	13	14	15	16
月	19	20	21	22	23	24	25	6	17	18	19	20	21	22	23
	26	27	28	29	30	31		7	24	25	26	27	28	29	30
6	2	3	4	5	6	7	8	8	1	2	3	4	5	6	7
	9	10	11	12	13	14	15	9	8	9	10	11	12	13	14
月	16	17	18	19	20	21	22	10	15	16	17	18	19	20	21
	23	24	25	26	27	28	29	11	22	23	24	25	26	27	28
	30							12	29	30	31				
7		1	2	3	4	5	6	1			1	2	3	4	
	7	8	9	10	11	12	13	2	1	5	6	7	8	9	10
	14	15	16月	17	18	19	20	3	12	13	14月	15月	16	17	18
月	21	22	23	24	25	26	27	4	19	20	21	22	23	24	25
	28	29	30	31				5	26	27	28	29	30	31	
8	4	5	6	7	8	9	10	6				1	2	3	
	11	12	13	14	15	16	17	7	2	3	4	5	6	7	8
	18	19	20	21	22	23	24	8	9	10	11	12	13	14	15
月	25	26	27	28	29	30	31	9	16	17	18	19	20	21	22
								10	23	24	25	26	27	28	29
9	1	2	3	4	5	6	7	11	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14	12	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21	13	15	16	17	18	19	20	21
月	22	23	24	25	26	27	28	14	22	23	24	25	26	27	28
	29	30						15	29	30	31				

4月
9月
普通教育ガイダンス(文学部新入生):4月1日(月)
文学部新入生ガイダンス:4月2日(火)
入学式:4月5日(金)
文学部2～4年生ガイダンス:4月3日(水)
資格取得ガイダンス:4月4日(木)
新入生学生証交付、個別履修相談:4月4日(木)
キャンパス内と健康ガイダンス(文学部新入生):4月3日(水)
新入生対象TOEFL:4月中旬
7月16日(火):月曜授業日

10月
5月
3月
大学祭:10月31日(木)～11月3日(日)(授業は実施しない)
創立記念日:11月5日(火)
10月16日(水):月曜授業日
1月14日(火):月曜授業日
1月15日(水):金曜授業日
冬季休業期間:12月28日(土)～1月5日(日)
1月17日(金):大学入試センター試験準備(授業は実施しない)
平成31年度卒業式:3月23日(月)

ターム制授業の予備日 ターム制授業の補講週間(6時限目に実施、1～5時限目は通常授業)

分析項目 6-4-2

各科目の授業期間が10週または15週にわたるものとなっていること。10週または15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週または15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること

文学部では、【資料 6-4-1①】にあるとおり、 Semester制の授業は15週を設定しており、それに加えて試験・補講期間を設けている。ターム制で8週で行う授業に関しては、前期と後期にそれぞれ2ターム（計16週）設けており、多くのターム制の授業は2ターム連続となっているため、各科目の授業期間は15週にわたるものとなっている。期末テストは単独では15週のうちには行わないことも定めており、そのことはシラバスにも記載されている。

分析項目 6-4-3

シラバスに授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記載され、学生に対して明示されていること

文学部では、毎年オンラインシラバス入力の時期に【資料 6-4-3①】に示したシラバス作成要領が配布され、それを遵守してシラバスを作成することとなっている。非常勤講師にも同様の内容が周知される。また、授業の質を担保するため【資料 6-4-3②】のようなチェックシートに則って、項目ごとに適切に記述するように注意喚起が徹底されている。シラバスは千葉大学のウェブページで公開されており、【資料 6-4-3③～⑥】に例示したとおり、シラバスには授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記載され、学生に対して明示されている。

【資料 6-4-3①】平成31年度 文学部シラバス作成要領

平成31年度 文学部シラバス作成要領

文学部カリキュラム小委員会

シラバス作成にあたっては、文部科学省編「教職課程認定申請の手引き」等に倣い、以下のとおり可能な限り具体的に記載してください。

「授業基本情報」に関する項目について

【担当教員】 オムニバス形式等により複数教員が担当する場合は、全ての担当教員の氏名が記載されていること。(新規採用の非常勤講師等については、任用手続きが終了し職員番号が付与され次第、学務グループが当該教員の登録を行います。)

【使用言語】 使用言語を選択してください。

【受入人数】 受入人数を制限する場合は、その理由も記載してください。

【受講対象】 当該科目に関して特に記載する必要がある事柄のほか、以下の情報を必ず記載してください。

・他学部生の受講の可否

記述例：他学部生・・・受講可(または受講不可)

【連絡先(研究室・内線番号)・メールアドレス・オフィスアワー】 「シラバス共通項目設定」より登録(非常勤講師を除く。)してください。

「授業概要情報」に関する項目について

入力必須項目：「概要」, 「目的・目標」, 「授業計画・授業内容」, 「授業外学習」, 「評価方法・基準」

【概要】

複数教員が担当する授業科目においては各教員の担当内容がわかるように明記してください。

※「人文科学入門」及び「卒業論文特別演習」については、全コース共通の「概要」を平成29年度教務委員会において作成。

【目的・目標】

・目的と目標については、科目設置部局の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)や教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を確認のうえ、ナンバリング等の当該科目のカリキュラム上の位置づけに沿って記述してください。

・目的と達成目標をできるだけ区別し、学習者を主語にして記述してください。

目的での記述例：〇〇を知る、〇〇を理解する、〇〇を考察する、〇〇を身につける

・目標は、当該科目を履修することによって具体的にどのようなことができるようになるかについて、どのように評価をするかという測定可能性も踏まえ、授業期間内に達成可能な内容を記述してください。

記述例：〇〇を説明できる、〇〇を分析できる、〇〇を討議できる、〇〇を活用できる

※「人文科学入門」及び「卒業論文特別演習」については、全コース共通の「目的・目標」を平成29年度教務委員会において作成。

【授業計画・授業内容】

・1単位授業は8回、2単位授業は15回が基本となっています。1単位の授業で期末試験を実施する場合は、8回目は「授業のまとめと試験」とし、試験のみを実施しないでください。2単位の授業は、16回目の授業に含めても差し支えありません。

・複数の教員が担当する授業では、授業内容と担当者がわかるように記述してください。

・回ごとの内容も記載してください。類似のテーマを扱う際には、

第2回 ○○○○(1) △△△△、××××

第3回 ○○○○(2) □□□□、◇◇◇◇

のように、各回の違いが明確となるよう、回ごとに扱うテーマのキーワードを記載してください。

・発達障害等の学生支援の観点から、具体的な教育方法・授業方法についても記述してください。

・できるだけ各回の授業内容は「授業概要」の「授業計画・授業内容」から、「授業計画」の「授業計画詳細情報」へ記述を移行してください。

※「人文科学入門」及び「卒業論文特別演習」の「授業計画・授業内容」については、平成29年度教務委員会において、コースごと(行動科学コースにおける「卒業論文特別演習」については専修ごと)に作成。

【授業外学習】

・授業外学習とは、準備学習(予習)や授業の理解を深めるために宿題や小レポートなど(復習)として課すものであり、単位制度が授業外学習を前提としていることに留意してください。

・授業外学習を促すために、できるだけ具体的に記述してください。

記述例:Moodleに掲載している資料を事前に読んでおくこと。関連する資料を調べておくこと。博物館等への見学。

【教科書・参考書】

テキストを使用しない場合は「なし」と記載してください。

【評価方法・基準】

・評価方法についてできるだけ詳細な情報を記述してください。なお、「授業への出席」は評価方法として望ましくないため、「評価方法・基準」には記載しないでください。

・成績評価について、「目的・目標」欄で示した目標の達成度を、どのような方法で測定するかを記述してください。

・評価方法が複数ある場合には、それぞれの割合(%)を記述し、成績評価の透明性を確保してください。

- ・成績評価における授業外学習の課題の取り扱いについても記述してください。
- ・課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法についても記述してください。

記述例：平常点 10%、授業ごとの小テスト 30%、期末テスト 60%の比率で成績を評価する。

(注)「出席点」により評価する旨を記載することはできません。ただし、「平常点」の観点により、出席状況を評価に含めることは差し支えありません。

【資料 6-4-3②】 2019 年度シラバス・チェックシート

作成：アカデミック・リンク・センターFD 推進専門委員会	
2019 年度シラバス・チェックシート	
授業科目名：	
担当者名：	
項目を確認し、できている項目には点検欄に○を記入してください。	
点検	目的・目標
	目的・目標はディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを確認し、ナンバリングなどのカリキュラム上の位置づけに基づき、記述してありますか。
	目的・目標は、学生を主語とするわかりやすい言葉で記述してありますか。
	目的と目標は、分けて記述してありますか。(※1)
	目標は、学生が「○○できる」というように、具体的に記述してありますか。
	目標は、チーム内・学期内で達成できるものになっていますか。
点検	授業計画・授業内容
	具体的にどのような教育方法・授業方法を行うかを記述してありますか。
	各回の授業内容は「授業概要」の「授業計画・授業内容」ではなく、「授業計画」の「授業計画詳細情報」に記述してありますか。
点検	授業外学習
	単位制度が授業外学習を前提としていることを踏まえ、具体的に必要な準備学習(予習)や授業の理解を深めるために宿題や小レポートなど(復習)について記述してありますか。
点検	評価方法・基準
	目標に応じた適切な評価方法を設定していますか。
	「授業への出席」を評価方法に記載していないですか。
	評価方法が複数ある場合には、それぞれの割合(%)が記述してありますか。
	課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法(フィードバックしない場合はその理由)を記述してありますか。
点検	履修学生に対して
	学生が履修する際の条件(知識や技術等)をはっきり示してありますか。(必修科目を除く)
	オフィスアワーや連絡先等、学生にとって必要な情報が示されていますか。(※2)
	学生の自主的な学習を促す補助教材や参考図書が示されていますか。
※1 目的は、○○を知る、○○を理解する、といった記述が、目標は、○○を説明できる、○○を活用できるなどの表現を用いてください。	
※2 オフィスアワーや連絡先は、ホームページでの公開用のシラバスには掲載しません。	

【資料 6-4-3-③】2019 年度前期 認知行動基礎論 a オンラインシラバス

学科（専攻）・ 科目の種別等	専門教育科目 専門科目	授業科目	認知行動基礎論 a /Foundations of Cognitive Behavior a
授業コード	L11919101	科目コード	L119191
ナンバリングコード	LB220	使用言語	English
単位数	2	時間数	16
期別	前期	履修年次	2年・3年・4年
曜日・時限	金 /Fri 4	担当教員	渡辺 安里依
教室	画像情報教室 2		
概要	This course focuses on how behaviour is shaped through learning. Topics covered include types of conditioning and how they may affect our everyday behaviour. The course will be taught in English.		
目的	Students will learn the basic processes of learning and understand how they apply to laboratory and everyday settings.		
授業計画・授業内容	<p>Course Schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course Overview 2. Introduction 3. Habituation 4. Classical Conditioning 1: Basic Concept 5. Classical Conditioning 2: Application 6. Operant Conditioning 1: Basic Concept 7. Operant Conditioning 2: Application 8. Reinforcement 9. Extinction & Stimulus Control 10. Phobias & Avoidance 11. Applied Issues 1: Child Discipline 12. Self-control 13. Social Learning 14. Applied Issues 2: Current Issues 15. Review 		
授業外学習	Students are required to complete weekly assigned readings.		
教科書・参考書	"Introduction to Learning and Behavior" by Powell, Honey & Symbaluk. Wadsworth Publishing (4th Ed. -)		
評価方法	in-class quizzes(40%)、 examination(60%)		

【資料 6-4-3-④】 2019 年度前期 美術史 a オンラインシラバス

学科（専攻）・ 科目の種別等	専門教育科目 専門科目	授業科目	美術史 a / Art History a																
ナンバリングコード	LH230	使用言語	日本語																
単位数	2	時間数	16																
期別	前期	履修年次	2年・3年・4年																
曜日・時限	火 / Tue 3	担当教員	池田 忍																
教室	102 講義室																		
概要	古代・中世の日本を中心に、絵画作品が制作された場、絵師とその工房の社会的位置を考察する。併せて絵師とパトロンとの関係、絵画作品が用いられ、享受された場を吟味する。絵画享受の「場」とは、具体的な建築空間のみならず、その場を共有する人々の属性、関係性を含んだものである。その上で、個々の作品に込められた意味を分析し、作品が伝える価値観やイデオロギーについて考察する。																		
目的	日本美術史の従来の語られ方を批判的に理解した上で、基礎的な知識を身につける。特に、作品が制作・享受された「場」と制作者、および享受にかかわった人々との関係について理解を深める。その上で、作品が伝える価値観やイデオロギーについて考察し、美術作品の分析や解釈の拠りどころとなる研究方法を学び理解する。																		
授業計画・授業内容	<p>絵画作品と併せ、文献史料に遺された絵画に関する記述を手がかりに、絵画の制作と享受の場、およびそこにかかわった様々な身分、性別の人々についての知識を得る。特定の作品について、史資料や論文を受講者が分担して報告、全員で討論をおこなう機会を設ける。</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回 イントロダクション 日本美術史の語られ方について</td> <td>第8回 肖像画 ①</td> </tr> <tr> <td>第2回 日本美術の形態とその歴史</td> <td>第9回 絵巻 ③</td> </tr> <tr> <td>第3回 古代・中世の「絵師」たち</td> <td>第10回 屏風絵の展開 (水墨画とやまと絵)</td> </tr> <tr> <td>第4回 東アジアの中の古代日本美術</td> <td>第11回 室町時代の絵画と建築 会所・書院第</td> </tr> <tr> <td>第5回 屏風絵と障子絵 ①(古代)</td> <td>第12回 絵巻 ④</td> </tr> <tr> <td>第5回 屏風絵の展開 ② (古代～中世)</td> <td>第13回 絵巻 ⑤</td> </tr> <tr> <td>第6回 絵巻 ①</td> <td>第14回 肖像画 ②</td> </tr> <tr> <td>第7回 絵巻 ②</td> <td>第15回 まとめ</td> </tr> </table>			第1回 イントロダクション 日本美術史の語られ方について	第8回 肖像画 ①	第2回 日本美術の形態とその歴史	第9回 絵巻 ③	第3回 古代・中世の「絵師」たち	第10回 屏風絵の展開 (水墨画とやまと絵)	第4回 東アジアの中の古代日本美術	第11回 室町時代の絵画と建築 会所・書院第	第5回 屏風絵と障子絵 ①(古代)	第12回 絵巻 ④	第5回 屏風絵の展開 ② (古代～中世)	第13回 絵巻 ⑤	第6回 絵巻 ①	第14回 肖像画 ②	第7回 絵巻 ②	第15回 まとめ
第1回 イントロダクション 日本美術史の語られ方について	第8回 肖像画 ①																		
第2回 日本美術の形態とその歴史	第9回 絵巻 ③																		
第3回 古代・中世の「絵師」たち	第10回 屏風絵の展開 (水墨画とやまと絵)																		
第4回 東アジアの中の古代日本美術	第11回 室町時代の絵画と建築 会所・書院第																		
第5回 屏風絵と障子絵 ①(古代)	第12回 絵巻 ④																		
第5回 屏風絵の展開 ② (古代～中世)	第13回 絵巻 ⑤																		
第6回 絵巻 ①	第14回 肖像画 ②																		
第7回 絵巻 ②	第15回 まとめ																		
授業外学習	ムードルを通じて展覧会、博物館、美術館情報を提供するので、積極的に見学すること。展覧会に関連するレポートを求めることもある。																		
教科書・参考書	授業で指示する。参考文献は、佐藤康宏『日本美術史』放送大学教材、日本放送出版協会、2008年。『日本美術館』(全一冊)、小学館、1997年。『日本美術全集』全25巻、講談社、1990～1994年。																		
評価方法	①授業への参加(コメントカード。報告と討議への参加 30パーセント) ②小レポート2回(2,000字程度) 20パーセント ③期末レポート 50パーセント																		

【資料 6-4-3-⑤】2019 年度前期 現代日本語論 a オンラインシラバス

学科（専攻）・ 科目の種別等	専門教育科目 専門科目	授業科目	現代日本語論 a / Contemporary Japanese a
ナンバリングコ ード	LN218	使用言語	日本語
単位数	2	時間数	16
期別	前期	履修年次	2年・3年・4年
曜日・時限	月 / Mon 4	担当教員	岡部 嘉幸
教室	院講義室 2		
概要	この講義では、現代日本語における格助詞の意味・用法について概説するとともに、意味の類似している格助詞の使い分けについても言及する。また、格助詞をめぐる諸問題について、本講義なりの検討を加える。		
目的	目的：現代日本語における格助詞に関する日本語学的知見を得ることで、日本語文法に関する理解を深める。 到達目標： 1. 現代日本語における格助詞それぞれの意味・機能を、日本語学的な見地から、理解できる。 2. 理解した内容を、論理的かつ平易な言葉で、他者に説明することができる。		
授業計画・授業 内容	日本語の文において、格助詞は名詞と述語用言との論理的意味関係を示すものとして重要である。この講義では、主に現代語で用いられる格助詞の意味・用法について概説するとともに、意味の類似している格助詞の使い分けについても言及する。また、格助詞をめぐる諸問題について、本講義なりの検討を加える。具体的な授業計画は以下のとおりである。 第1回 ガイダンス 第2回 格(助詞)とは何か、文型と格助詞 第3回 主体を表す格助詞 第4回 対象を表す格助詞 第5回 主語と格助詞 第6回 自動詞・他動詞と格助詞 第7回 相手を表す格助詞 第8回 場所を表す格助詞 第9回 着点を表す格助詞 第10回 起点を表す格助詞 第11回 経過域を表す格助詞 第12回 手段を表す格助詞 第13回 起因・根拠を表す格助詞 第14回 その他の格助詞 第15回 授業のまとめと内容理解度の確認 なお、授業計画はあくまでも予定であって、受講者の理解度や興味によって計画を変更することがあるので、ご了承ください。		
授業外学習	受講者は、授業中に指示された参考文献や講義プリントを用いて、授業内容の予習と復習を行うことが求められる。		
キーワード	日本語、文法、格助詞		
教科書・参考書	教科書は特に使用しない。授業時にプリントを配布する。 参考書は授業中に適宜指示する。		
評価方法	授業参加度(20%)、授業内容理解度(80%)により、総合的に評価する。		

【資料 6-4-3-⑥】 2019 年度前期 サンスクリット語入門 a オンラインシラバス

学科（専攻）・ 科目の種別等	共通基礎科目	授業科目	サンスクリット入門 a / An Introduction to the Sanskrit Language a																
ナンバリング コード	LX141	使用言語	日本語																
単位数	2	時間数	16																
期別	前期	履修年次	1 年 ・ 2 年 ・ 3 年 ・ 4 年																
曜日・時限	金 /Fri 5	担当教員	石井 正人																
教室	画像情報教室 1																		
概要	古代インドの古典語サンスクリット語(梵語)の簡単な入門です。主に比較言語学の観点から説明し、印欧語全般の学習と理解を深める事を目的とします。余裕があれば古代インド文学史・思想史や仏教史の基礎に触れます。																		
目的	古代インドの古典語サンスクリット語(梵語)の簡単な入門です。主に比較言語学の観点から説明し、印欧語全般の学習と理解を深める事を目的とします。複雑な音韻規則や語形変化の基本的構造を把握して全体像を見通す力を養い、辞書を引いて原典講読を行う段階に進むことを最大の目標とします。																		
授業計画・授 業内容	<p>ゴンダ(鎧)『サンスクリット語初等文法』(春秋社)を用い、この流れで説明し、例題を解いていきます。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">第 1 回: イントロダクション</td> <td style="width: 50%; border: none;">第 9 回: 動詞変化、現在変化、母音幹変化</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 2 回: 文字と発音</td> <td style="border: none;">第 10 回: 動詞変化、現在変化、子音幹変化</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 3 回: 母音幹名詞、a-語幹</td> <td style="border: none;">第 11 回: 一般時制、未来変化・アオリスト変化・完了変化</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 4 回: 母音幹名詞、i-/u-語幹</td> <td style="border: none;">第 12 回: 使役活用・強意活用・意欲活用</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 5 回: 子音幹名詞、単音節変化</td> <td style="border: none;">第 13 回: 動名詞・動形容詞</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 6 回: 子音幹名詞、複音節変化</td> <td style="border: none;">第 14 回: 複合語</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 7 回: 形容詞、比較変化</td> <td style="border: none;">第 15 回: 統語論の基礎、理解度確認</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">第 8 回: 代名詞・数詞</td> <td style="border: none;"></td> </tr> </table>			第 1 回: イントロダクション	第 9 回: 動詞変化、現在変化、母音幹変化	第 2 回: 文字と発音	第 10 回: 動詞変化、現在変化、子音幹変化	第 3 回: 母音幹名詞、a-語幹	第 11 回: 一般時制、未来変化・アオリスト変化・完了変化	第 4 回: 母音幹名詞、i-/u-語幹	第 12 回: 使役活用・強意活用・意欲活用	第 5 回: 子音幹名詞、単音節変化	第 13 回: 動名詞・動形容詞	第 6 回: 子音幹名詞、複音節変化	第 14 回: 複合語	第 7 回: 形容詞、比較変化	第 15 回: 統語論の基礎、理解度確認	第 8 回: 代名詞・数詞	
第 1 回: イントロダクション	第 9 回: 動詞変化、現在変化、母音幹変化																		
第 2 回: 文字と発音	第 10 回: 動詞変化、現在変化、子音幹変化																		
第 3 回: 母音幹名詞、a-語幹	第 11 回: 一般時制、未来変化・アオリスト変化・完了変化																		
第 4 回: 母音幹名詞、i-/u-語幹	第 12 回: 使役活用・強意活用・意欲活用																		
第 5 回: 子音幹名詞、単音節変化	第 13 回: 動名詞・動形容詞																		
第 6 回: 子音幹名詞、複音節変化	第 14 回: 複合語																		
第 7 回: 形容詞、比較変化	第 15 回: 統語論の基礎、理解度確認																		
第 8 回: 代名詞・数詞																			
キーワード	サンスクリット語初級文法																		
授業外学習	毎回予習復習に 2 時間																		
教科書・参考 書	ゴンダ(鎧)『サンスクリット語初等文法』(春秋社)																		
評価方法	小テスト 50 点+期末テスト 50 点=100 点満点で評価																		

分析項目 6-4-4**教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること**

文学部では、それぞれの専門領域において研究業績のある専任教員が専門科目の授業を担当しており、教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当している。一方で、広く最先端の様々な研究を教えることを目的とした「人文科学の課題」や一部のネイティブ・スピーカーによる語学の授業などに関しては、非常勤講師を採用することが適切と認められ、非常勤講師が担当する科目もある。また、定年退職等により欠員となった学問領域に関して、後任人事の凍結を申し渡されているために専任教員の新規採用ができず、非常勤講師によって教授することを余儀なくされている科目もある。しかし、非常勤講師採用のための経費も年々削減されていることから、非常勤講師の採用も制限され、結果的にはほぼ大半の授業は専任教員が担当しているのが実態である。

分析項目 6-5-1**学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること**

文学部において、専門教育を体系的に提供するだけでなく、幅広い学修を促すために、(1) 他学部開講の授業の履修、(2) 他大学との単位互換による単位取得を取り入れている。また、学生の履修登録については、(3) 毎年4月に学年別ガイダンスを行い、履修指導を行っている。

(1) 他学部開講の授業の履修について

文学部では、普遍教育（教養教育）や専門教育だけでなく、他学部開講科目を「自由選択科目」として卒業単位として認定できる。単位数の上限は12単位であり、「文学部履修案内」において、【資料6-5-1①】に示すように記載されている。

【資料 6-5-1①】自由選択科目について（出典：『2019 年度文学部履修案内』）

4. 自由選択科目

「自由選択」の区分には、普遍教育科目、専門教育科目を問わず、原則として千葉大学で開講されているすべての科目を算入することができます。

コースごとの履修要件をもとに自動的に「自由選択」の区分に算入されるよう設定されている科目もありますが、普遍教育科目や専門教育科目の各区分における余剰単位、あるいは「その他」の区分として振り分けられる科目（他学部開講科目等）を「自由選択」として算入したい場合には、「科目区分変更手続き」が必要です。この手続きは4年次に受け付けます。申請期間および方法等については、掲示にてお知らせします。

(2) 他大学との単位互換について

千葉大学では、普遍教育において放送大学、千葉圏域コンソーシアム（神田外語大学・敬愛大学・城西国際大学）、国内留学プログラム（新潟大学・金沢大学・岡山大学・長崎大学・熊本大学）における単位互換を実施している。このことは、【資料 6-5-1②】に示すように「普遍教育履修案内」において周知している。文学部の学生の利用実績（派遣）としては、千葉圏域コンソーシアムは、2015 年度、2018 年度に2名ずつ、神田外語大学に派遣している。国内留学プログラムは、2018 年度に1名、長崎大学に派遣している。放送大学は、文学部学生の利用実績はないが、文学部所属の教員の担当授業科目の受け入れ実績が、2015 年度と2016 年度に1名ずつある【資料 6-5-1③】。

【資料 6-5-1②】他大学との単位互換の履修案内

【11】 他大学との単位互換科目の履修

(1) 放送大学の科目履修

本学は、放送大学との間で「千葉大学と放送大学との間における単位互換に関する協定書」を取り交わしています。この協定書及び同協定書の「覚書」に基づき、本学の指定した科目について、放送大学の「特別聴講学生」となって単位を修得すれば、放送大学での成績によって普遍教育科目等として評価されます。

履修希望者は、出願期間内に 普遍教育窓口（総合校舎1号館1階）で特別聴講学生出願票を受け取り、必要事項を記入し提出してください。（放送大学学生証用に写真が必要です。）

【履修期間】 第1学期（前期）：4月～9月 第2学期（後期）：10月～翌年3月

【特別聴講学生の出願についての掲示】

第1学期（前期）：前年度の1月頃（平成31年度前期の受付は既に終了）

第2学期（後期）：当該年度の7月頃

【対象学生】 第1学期（前期）：2～4年次学生（受付時1～3年次） ※平成31年度前期卒業予定者は出願不可

第2学期（後期）：1～3年次学生

【授業料】 11,000円／1科目

(2) 千葉圏域コンソーシアム (神田外語大学、敬愛大学、城西国際大学) の科目履修

本学は、神田外語大学・敬愛大学・城西国際大学との間で「千葉圏域コンソーシアム」を形成し、単位互換協定書を取り交わしています。各大学の開放科目について、「特別聴講学生」となって単位を修得すれば、普遍教育科目等の単位として認定されます。

履修希望者は、学生ポータルまたは、普遍教育窓口（総合校舎1号館1階）にて募集要項等を確認し、手続きを行ってください。出願期間・方法については、大学によって異なります。

なお、履修希望者が多数の場合は、抽選を行い、その結果履修できないことがあります。

【出願期間の目安】 前期：前年度の3月頃

後期：7月下旬～9月頃

【対象学生】 前期：2～4年次学生（受付時1～3年次）※平成31年度前期卒業予定者は出願不可

後期：1～3年次学生

【授業料等】 検定料・入学金・授業料は徴収されません。

（教材等が必要な場合は、各自で負担してください。）

【開放科目】 各大学の開放科目については、普遍教育窓口で確認してください。授業内容については、各大学のホームページよりシラバスを確認してください。

(3) 国内留学プログラム (新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学) の科目履修

千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学及び熊本大学の6大学間で国内留学プログラムとして、単位互換に関する覚書を締結しています。各大学の開放科目について「特別聴講学生」となって単位を修得すれば、本学における授業科目の単位として認められます。

各大学の開放科目や出願期間、出願方法及び単位の取扱い等については所属学部学務担当窓口へ問い合わせてください。

(出典：Guidance 2019)

【資料 6-5-1③】 他大学における単位互換の利用実績

放送大学	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
受入人数	-	1	1	0	0	0

千葉圏域コンソーシアム受入人数	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
神田外語大学	-	2	0	0	2	0
敬愛大学	-	0	0	0	0	0
城西国際大学	-	0	0	0	0	0

国内留学プログラム	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
派遣人数	-	-	0	-	1	0
受入人数	-	-	0	-	0	0

※派遣先はすべて長崎大学

(3) 履修登録に関するガイダンスについて

文学部では、年度の初めに学年ごとに履修登録に関するガイダンスを実施している。具体例として、2019年度の履修登録等に関するガイダンスの実施日時を示したものが

【資料 6-5-1④】である。

【資料 6-5-1④】履修登録等に関するガイダンスの日時（2019年度）

新入生（1年生）向けガイダンス	2019年4月2日9時
2年生向けガイダンス	2019年4月3日10時
3、4年生向けガイダンス	2019年4月3日13時
資格取得ガイダンス	2019年4月4日17時

分析項目 6-5-2

学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること

学生からの学習相談に教員が組織的に対応するための以下の体制が整備されている。

(1) 各コース、各学年にクラス顧問教員を設置し、掲示等により学生に周知している。

(2) 教務委員の名前と連絡先を掲示し各コースにおける学習相談の窓口となっている。教務委員会において定期的に標準単位未修得者を把握し、指導教員と連携して学習指導にあたっている。

さらに1年次の導入ゼミ「人文科学入門」から4年次「卒業論文特別演習」等の各学年に設置されている必修の少人数ゼミにおいて、学習相談体制を作っている。

人社系学務課学部学務室に学務系専門職（SULA）を配置し、学務窓口においても学習相談に対応している。

分析項目 6-5-3

社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること

社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組として、(1) 社会からのニーズを把握するために就職ガイダンスを開催しているほか、(2) キャリア形成のための授業科目を開講している。

(1) 社会からのニーズを把握するための取組

社会からのニーズを把握し、学生に伝えるための取組として、外部から講師を呼び、学部主催の「就職支援ガイダンス」を実施している。

例) 2019年度の「就職支援ガイダンス」実施状況

5月8日「就活スタートアップガイダンス」（講師：株式会社リクルートキャリア）

6月3日「進路支援ガイダンスー就活・進学とは」（講師：株式会社マイナビ）

(2) キャリア形成のための教育

千葉大学全体の教育方針として初年次導入ゼミにおいてキャリア教育を行うことになっているが、それに加え、文学部では、「現代社会で働くこと」を毎年開講し、社会で活躍する卒業生に登壇してもらい、学生が自身のキャリア形成の参考にできるように促している。例えば、2019年度「現代社会で働くことb」では、計11名の卒業生が登壇した【資料6-5-3①】。

【資料6-5-3①】 「現代社会で働くことb」

概要	現代社会においては、生き方、価値観、そして「働くこと」のかたちもますます多様化しつつある。そのような背景のもとで、先輩・現役講師の現場体験に基づいた特別講演に触れながら、「働くこと」の意義と問題点について考えていく。単なる職業導入教育を越えて、人文学を専門的に学んだ文学部学生が、どのようにキャリア形成をしていくのか、自らの将来を考えてもらう機会にしたい。
目的・目標	現代社会で働くことについて、抽象理論ばかりではない現実の姿を知ることで、自らの職業人生の出発点を考えることができる。また、文学部で学んだ学問（あるいは学問的姿勢）をどのような形で実社会での労働に架橋していくのか、先輩たちの経験に学びながら自ら考えを深めていくことができる。
授業計画・授業内容	先輩・現役講師の現場体験に基づいた連続特別講演を行う。毎回の担当者とテーマについて、以下の通り。 【授業計画】（卒業旧学科は現コース表記・院修了者は修了年） ①10月3日：米村・久保「開講ガイダンス」 ②10月10日：今井渉さん（株式会社バラゴン・日ユ・2015年度卒）「TV—CM制作について」 ③10月17日：岩淵桂子先生（就職支援課・キャリアアドバイザー）「これからの社会で求められる力～学生時代をどう過ごすか～」 ④10月24日：船橋菜月さん（株式会社タウンニュース社・行動・2013年度卒）「地域とメディア、ローカルな働き方」 ⑤11月7日：市原俊介さん（朝日新聞社・日ユ・2002年度卒）「ことばまみれ」一校閲記者として新聞社で働くということ」 ⑥11月14日：長尾彩さん（千葉大学職員・行動・2012年度卒）「イメージになかった大学の仕事病院から西千葉へ」 ⑦11月21日：埋金美弥子さん（ジェイ・マックス株式会社・国際・2011年度卒）「英会話スクールのベンチャーに就職して学んだ働き方」 ⑧11月28日：斎藤武文さん（システムエンジニア・国際・1999年度卒）「人を育てるとのこと—システムエンジニアの場合」 ⑨12月5日：飯塚晴美さん（江戸東京博物館・日ユ・1989年度卒）「博物館で働くこと—深くこだわり、わかりやすく伝える」 ⑩12月12日：予備日 ⑪12月19日：林聡香さん（千葉市職員・歴史・2012年度卒）「政令指定都市勤務7年目のキャリアについて」 ⑫12月26日：西島寛さん（ソフトウェアエンジニア・行動・2010年度修了）「文系出身エンジニアというキャリアパス」 ⑬1月9日：米村志朗さん（元外資系石油精製会社・歴史・2011年度修了・文学部同窓会長）「カオス（Chaos—混沌）の時代 復元力で生きてみる」 ⑭1月16日：小笠原永隆さん（帝京大学准教授・歴史・1993年度修了）「文化財と観光、そして”地域づくり”へ—考古学をベースに考え、得たもの—」 ⑮1月23日：阪井洵子さん（千葉銀行・国際・2015年度卒）「働く上で大切にしていること」 ⑯1月30日：米村・久保「まとめ・最終教場レポート」

（出典：2019年度シラバス）

また、文学部独自科目「人文学地域インターンシップ」を毎年開講し、地方自治体や文化振興団体等におけるインターンシップを通して、自身の専門知識がどのように地域社会における文化行政や政策に資するかを考察する機会を提供している【資料6-5-3②】、【資料6-5-3③】。

【資料 6-5-3②】 「人文学地域インターンシップ a」 （出典：2019 年度シラバス）

目的・目標	地方自治体、文化振興団体等におけるインターンシップを通して、地域社会における文化行政等、広く地域の文化にかかわる諸問題を考察することが目的である。
授業計画・授業内容	地方自治体、文化振興団体など、地域の文化活動・教育啓蒙活動に関与する諸問題が募集するインターンシップに、受講者が自ら応募して選抜された場合、応募に際しての事前指導、インターンシップ終了後の事後指導、レポートの作成について単位を授与する。
授業外学習	インターンシップにおいて、学外において実践的学習をすることが授業の主目的であり、実践の場で学んだことについて自身でさらに発展的にリサーチする。

【資料 6-5-3-③】 「人文学地域インターンシップ」 受講者数

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
学生数	2	3	2	7

おもなインターンシップ先は、千葉県庁など。

分析項目 6-5-4

障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること

(1) 障害のある学生への支援体制

障害のある学生が受講する授業科目の担当教員に対しては、学部長より当該学生の障害の概要、重要事項の概要、指示語の使用、課題への対応などについて配慮すべき事項を伝えている【資料 6-5-4①】。

【資料 6-5-4①】 障害のある学生への配慮願（1枚目のみ）

令和元年10月10日

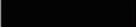
 担当
先生

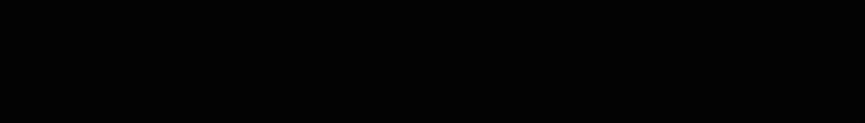
文学部長
米村 千代

障害のある学生の受講に関する配慮のお願い

平素より大変お世話になっております。
 今学期、先生がご担当されております授業を、障害のある学生が受講いたします。当該学生からは、本学における『障害等にかかる支援・配慮希望申請書』が提出され、修学上の支援や配慮を受けることを希望しております。
 つきましては、当該学生の受講に際し、下記のとおり先生のご配慮を賜りたく存じます。学生の修学環境整備のため、何卒よろしくお願い申し上げます。
 なお、本学では、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律に基づき、教職員の対応要領を定めております旨を申し添えます。

「障害を理由とする差別の解消の推進」
<http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/announce/index.html>
 （千葉大学 HP 国立大学法人としての公表事項>11. その他「障害を理由とする差別の解消の推進」）

【学生氏名】  ()
 【所属】 文学部 人文学科  コース  年
 【学生証番号】 
 【科目名】  第  ターム  曜日  限
 【障害名】 
 【障害特徴及び本人の状況】

 【ご配慮いただきたい点】


(2) 留学生に対する支援体制

千葉大学では、留学生の生活や学習をサポートするために、千葉大学の学生がチューターとなるチューター制度を設けている。文学部でも学部学生を対象にチューター募集を行っており、留学生の支援を行っている【資料 6-5-4②】。文学部国際交流室を設置し、日本語学習に役立つ情報や資料を整備しているほか、毎日12時から14時20分の間チューターが常駐し相談にあたっている。

【資料 6-5-4②】 文学部所属の学生チューター数 (2014 年～2019 年)

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
人数	40	41	46	36	37	12

また、留学生が日本や千葉大学に親しみを持ち、教員や学生と円滑なコミュニケーションのもと研究ができるように、2014 年度～2018 年度までは年に 1 回の留学生日帰り旅行を企画した【資料 6-5-4③】。さらに、人文公共学府（大学院）と共催で、留学生歓迎会を年に 2 回実施した【資料 6-5-4④】。

【資料 6-5-4③】 文学部留学生日帰り旅行の案内 (2016 年度)

ぶんがくぶりゅうがくせいひがえりりょこう
文学部留学生日帰り旅行
 みたかじぶり・えどとうきょうたてもえんのたび
 ～三鷹ジブリ・江戸東京たてもの園の旅～ **無料**

このたび、文学部留学生の日本文化体験と交流を目的として、**三鷹ジブリ・江戸東京たてもの園の日帰り旅行**を企画しました。参加を希望する人は**文学部学務第一グループ**で申し込んでください。締め切りは**9月9日(金)**です。定員がありますので、早めに申し込んでください**(先着13名)**。
 入社研所属の大学院留学生や日本人チューターも参加可能です。

みなさんの参加をお待ちしております！

参加費：**無料**（交通費、昼食代、見学料含む）

日時：10月14日（金曜日）

集合時間：朝8時15分

集合場所：国際教育センター前

日程：大学出発-江戸東京たてもの園-昼食-三鷹の森ジブリ美術館-井の頭公園散策-大学到着（18時頃）

問い合わせ：
 文学部留学生日帰り旅行実行委員会
 趙景達：k.d.cho@chiba-u.jp
 徐脱哲：jo@chiba-u.jp

受付
 28.7.14
 *写真はイメージです。

【資料 6-5-4④】 留学生歓迎会の案内 (2019 年度)



分析項目 6-5-5 (独自項目)

地域社会・国際社会の現状を理解し、問題を解決する能力を培う取り組みを実施していること

改組においては、本報告書の1に述べたように、専門性・学際性・社会性・国際性を養成することを目的に掲げてきた。特色ある教育として、社会性・国際性という視点から、人文知に基づき地域社会や国際社会と連携し協働していく、以下のような取り組みを継続的に実施している【資料 6-5-5】。これらの取り組みは「特色ある教育」として文学部ホームページにおいても紹介し、文学部の取り組みを社会に発信している。

【資料 6-5-5】 特色ある教育

種類	授業名	内容
海外留学・異文化交流	国際国際交流論 国際インターナショナルワークショップ	海外協定校である（国立ロシア人文大学，高等経済学院，リャザン大学）に渡航し、現地でロシア語を学ぶ
		海外協定校であるシンシナティ大学（USA）と共同授業を行う
		ロシア人文大学・高等経済学院教授による公開レクチャーを行う
		海外協定校（台湾・南台科技大学、中国・浙江工商大学）に渡航して、現地の日本語学習者と相互に言語・文化・社会を学習し合う
		海外協定校（中国・烟台大学、魯東大学）に渡航し、学生との交流を通じて、日本語・日本文化を伝えるとともに現地の文化を理解する
地域研究	地域地域インターナショナルワークショップ	千葉県南房総地域を舞台にした長編小説「南総里見八犬伝」をもとに、創作狂言を制作する
		地方観光創生という切り口を通して地方社会が直面している課題を理解し、フィールド調査をする
		地方自治体、文化振興団体等におけるインターンシップを通して、地域社会における文化行政等、広く地域の文化にかかわる諸問題を考察する
		「千葉氏」の歴史と文化を学びつつ、千葉市と協力しながらその魅力を伝える活動に取り組む
		4年間の学生生活を送る千葉大学と「千葉」を対象にして「地域」について学ぶ

分析項目 6-6-1

成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること

成績評価については、文学部規程において、学生に対し考査を実施し単位を与えること、考査は、試験、論文、報告書及び平素の学習状況等により行うことを定めている（千葉大学文学部規程 11 条）。考査の成績評価は、秀（90 点以上）、優（80 点～89 点）、良（70～79 点）、可（60～69 点）及び不可（59 点以下）の評語で表し、秀、優、良、可を合格とし、不可を不合格としている（千葉大学文学部規程 13 条）【資料 6-6-1①】。

また、成績報告の時期に全教員に対して、成績評価区分の比率について「秀」評価区分の比率は 15%以下、「優」評価区分の比率は 40%以下になるように依頼している（受講者 20 人以上の講義科目が対象、演習や実習は除く）。【資料 6-6-1②】は成績分布状況である。

【資料 6-6-1①】 千葉大学文学部規程（抜粋）

（考査）

第 11 条 授業科目を履修した学生に対しては、考査を行い、合格者に対して単位を与える。

2 考査は、試験、論文、報告書及び平素の学習状況等により行う。

（試験）

第 12 条 試験は、原則として授業期間の終わりに行う。

2 病気その他やむを得ない理由によって、試験を受けることができなかった者に対しては、願い出により追試験を行うことがある。

（成績評価）

第 13 条 考査の成績評価は、秀(90 点以上)、優(80 点～89 点)、良(70～79 点)、可(60～69 点)及び不可(59 点以下)の評語で表し、秀、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。

【資料 6-6-1②】 成績分布状況

	秀	優	良	可	不可
2015年度	19.6%	47.5%	19.1%	5.5%	8.1%
2016年度	17.8%	47.2%	19.9%	6.4%	8.5%
2017年度	16.5%	49.3%	20.7%	7.1%	6.2%
2018年度	15.5%	49.7%	21.9%	6.1%	6.5%
2019年度	17.0%	49.7%	20.6%	6.5%	5.9%

（出典：大学基本データ）

※このデータは、全学的に集計されたものであり、文学部では対象外となる 20 人以下の講義や演習、実習も含んでいるため、秀および優の比率が高くなっている。

分析項目 6-6-2

成績評価基準を学生に周知していること

成績評価の基準および GPA 制度については、「千葉大学 文学部履修案内」において学生に周知している【資料 6-6-2】。

【資料 6-6-2】成績評価について

① 成績評価

成績は、授業科目ごとのシラバスに明示された評価基準に基づき、次のとおり評価されます。

2-③単位の認定もあわせて確認してください。

成績通知表に記載されるのは「評語」のみです。

評語	秀	優	良	可	不可
評点	100～90	89～80	79～70	69～60	59点以下
単位の認定	○	○	○	○	×

② 成績の通知

成績通知の方法および期間については、掲示等にてお知らせします。（4. 授業・履修・学生生活等に関わる通知参照）。

③ 成績に関する問い合わせ

通知された成績に疑義がある場合には、当該成績が通知されたターム直後の指定された期間に、問い合わせをすることができます。問い合わせ申請期間については、掲示にてお知らせします。問い合わせ申請書は指定様式がありますので、文学部学務グループ窓口で受け取ってください。

④ GPA (Grade Point Average) について

千葉大学では、学習到達度をはかる指標としてGPAを算出し成績通知表に記載しています。GPAの算出方法は以下のとおりです。

$$\frac{(4.0 \times \text{秀の単位数}) + (3.0 \times \text{優の単位数}) + (2.0 \times \text{良の単位数}) + (1.0 \times \text{可の単位数})}{\text{総履修単位数 (不可の科目を含む)}}$$

ただし、他大学で修得した単位互換科目、既修得認定科目および卒業要件外の科目はGPAの算出には含まれません。

履修をやめる科目の登録を削除せずにおくと、その科目が「不可」として評価されるためGPAに影響します。履修登録修正期間が終わる前に、必ず科目の削除を行ってください。転コース制度（V-1. 転コース制度参照）、早期卒業制度（V-2. 早期卒業制度参照）、奨学金申請、大学院進学、海外留学等、GPAが学業成績の指標のひとつとして利用される場合があります。

（出典：千葉大学文学部履修案内）

分析項目 6-6-3

成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること

各授業科目の成績評価と単位認定の妥当性について、文学部で開講している全ての専門教育科目に対し、教務委員会において毎年確認を行っている。確認しているのは、科目ごとの履修人数、秀・優・良・可・不可の人数と割合等、文学部の定めている成績評

価ガイドラインの適合状況である。公正な成績評価が厳格かつ客観的な評価が実施できるよう組織的に努めている。

分析項目 6-6-4**成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること**

文学部では、成績評価に対して異議申立制度を設けている。その制度は、【資料 6-6-4①】の通り「文学部履修案内」において学生に周知している。学生は、成績に関する疑義がある場合は、学務窓口に「成績問い合わせ申請書」を提出し、担当教員が疑義に回答する【資料 6-6-4②】。

【資料 6-6-4①】 成績に関する問い合わせについて**③ 成績に関する問い合わせ**

通知された成績に疑義がある場合には、当該成績が通知されたターム直後の指定された期間に、問い合わせをすることができます。問い合わせ申請期間については、掲示にてお知らせします。問い合わせ申請書は指定様式がありますので、文学部学務グループ窓口で受け取ってください。

(出典：千葉大学文学部履修案内)

【資料 6-6-4-②】成績問い合わせ申請書

成績問い合わせ申請書（文学部専門教育科目）

令和 年 月 日

授業担当教員： _____ 殿

学生証番号： _____ 氏名： _____

連絡先： _____

今回通知された成績について、下記の事由により疑問がありますので問い合わせます。

授業科目名		曜日	時限	評価
期別	前期・後期・通期			
事由：				

(問い合わせにあたっての注意事項)

1. 問い合わせができるのは、直前の学期に通知された成績のみです（文学部履修案内参照）。
2. **業績の内容については、客観的な根拠をもって具体的に記入してください。**
3. 申請書とあわせて「成績通知書」のコピーを提出してください。

----- 切り離さないでください。 -----

【 教員記入箇所 】 **成績問い合わせへの回答（文学部専門教育科目）**

問い合わせのあった事項について、下記のとおり回答します。
(各教員へ：該当欄にチェック又は記入をお願いします。成績変更の際は、添付の成績報告書に記入のうえ併せて学部学務室にご提出願います。)

<input type="checkbox"/> 評価を右のとおり変更する	秀 優 良 可 不可	<input type="checkbox"/> 評価を変更しない
理由：		

令和 年 月 日

(授業担当教員) 氏名： _____

分析項目 6-7-1
大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること

千葉大学の各学部の卒業要件は、千葉大学学則 12 条及び 49 条により、「学部の修業年限は、4 年とする。ただし、医学部及び薬学部薬学科にあつては、6 年とする」（12 条）、「本学の卒業の要件は、第 12 条に規定する修業年限以上在学し、124 単位以上を修得するものとし、各学部の定めるところによる」（49 条）と定められている。これに基づき、文学部では卒業要件を、文学部規程 10 条により、【資料 6-7-1①】のように定め、専門教育科目の卒業単位については【資料 6-7-1②】のように定めている。これらの卒業の要件は、「千葉大学文学部履修案内」を通して学生に周知している。

【資料 6-7-1①】卒業要件について

(表Ⅱ-1)

科目区分 コース	普遍教育科目						専門教育科目			卒業論文	自由選択	卒業単位数	
	英語科目	初修外国語科目	情報リテラシー科目	スポーツ・健康科目	教養コア科目	教養展開科目	計	共通基礎科目	専門科目				計
行動科学コース 歴史学コース 日本・ユーラシア文化コース 国際言語文化学コース	4~8	0~4	2	1~2	6	6~9	26	32	46	78	8	12	124
	8~10				<12~15>								
行動科学コース 先進科学プログラム 人間探求先進クラス	6~10	0~4	2	1~2	6	6~9	28	32	60	92	8	12	140
	10~12												

備考

1. 英語科目と初修外国語科目は、合わせて最低8単位（先進科学プログラムについては10単位）が必要です。合計10単位（先進科学プログラムについては12単位）まで、当該区分の卒業要件として算入できます。
2. 教養コア科目と教養展開科目の<12~15>は、3年次編入学生の履修要件を表します。教養コア科目及び教養展開科目を合わせて（またはいずれかのみで）12~15単位履修してください。

(出典：千葉大学文学部履修案内)

【資料 6-7-1②】専門教育科目について

2. 専門教育科目

専門教育科目は、文学部生の学修の中心となるものです。文学部生は、下表のとおり、各コースで定められた専門教育科目、自由選択科目および卒業論文を修得しなければなりません。

(表Ⅳ-1)

コース	区分	専門教育科目			卒業論文	自由選択	
		共通基礎科目	専門科目				計
			講義科目	演習・実習科目			
行動科学コース		32	26	20	78	8	12
行動科学コース 先進科学プログラム (人間探求先進クラス)		32	26	34	92	8	12
歴史学コース		32	46		78	8	12
日本・ユーラシア文化コース		32	46		78	8	12
国際言語文化学コース		32	46 ただし、演習・実習科目を 16単位以上履修すること。		78	8	12

(出典：千葉大学文学部履修案内)

また文学部では、千葉大学学則 50 条の規定に基づき、文学部規程 16 条において、「本学部に 3 年以上在学した学生が、卒業の要件として修得すべき単位を優秀な成績で修得し、かつ、学則第 50 条に規定する早期卒業を希望する場合には、その卒業の認定を行うことができる」として、2015 年度入学者より早期卒業制度を導入し、「千葉大学文学部履修案内」で学生に周知している。2 年次終了までに制度の申請の条件を課し、3 年次に早期卒業の認定の条件を満たすことで、3 年次終了までに卒業が可能な制度となっている【資料 6-7-1③】。2019 年度に行動科学コースにて 1 名の早期卒業が認定された。

【資料 6-7-1③】早期卒業制度について

2. 早期卒業制度 <平成26年度以前の入学生には適用しません。>

文学部では、平成27年度入学者より、早期卒業制度を導入しています。この制度の適用を申請するためには、所定の期日までに申請書を提出する必要がありますので、希望する場合には学務グループへ問い合わせてください。

① 申請にあたっての条件（以下のすべてを満たしていること）

- 1) 2 年次終了時までに卒業に必要な単位として84単位以上（先進科学プログラム人間探求先進クラスの学生については98単位以上）を修得していること
- 2) 2 年次終了時までの通算 GPA が3.00以上であること
- 3) 学習意欲、学習計画が十分明確であり、所属コース長から推薦をえられること

② 早期卒業の認定を受けるための条件（以下のすべてを満たしていること）

- 1) 文学部に 3 年以上「在学」していること
- 2) 卒業要件単位をすべて修得していること
- 3) 早期卒業認定時までの通算 GPA が3.00以上であること
- 4) 早期卒業制度申請者に対して実施される総合学力評価試験等によって、学力が優秀であると認定されること

（出典：千葉大学文学部履修案内）

分析項目 6-7-3

策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること

文学部の卒業の要件（分析項目 6-7-1 の内容）は、「千葉大学文学部履修案内」を通して学生に周知している。

分析項目 6-7-4

卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること

卒業の認定については、文学部教務委員会において、卒業該当学生一人一人に対して成績通知表を確認し、個々の学生が卒業要件を満たしているか否かを確認している。その上で、教授会において、卒業該当者全員の科目区別の単位取得状況を確認し、卒業の判定を行っている。教務委員会と教授会において二重の確認を行うことで、卒業の認定を組織的に行っている。

分析項目 6-8-1

標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること

入学者に対する卒業率は、【資料 6-8-1①】に示すとおりである。おおむね 80%（2018 年度を除く）の学生が、修業年限内に卒業している。「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率は【資料 6-8-1②】のとおり、おおむね 90%以上と高くなっている。学習する専門分野と職業の結びつきの弱さや大学院進学の少なさから、文系学部は理系学部と比べ一般的に修業年限内の卒業率が低い傾向にあるが、公務員試験等の就職準備や留学が理由の留年を含むことを考えると、おおむね 80%以上という卒業率は問題のない数値である。また、休学者数・休学者率については【資料 6-8-1③】に、留年者数・留年者率は【資料 6-8-1④】、退学・除籍処分状況については【資料 6-8-1⑤】に示したとおりである。資格取得については、文学部では特定の資格についての取得は卒業要件ではないが、【資料 6-8-1⑥】に示したように、毎年少なくとも学生がなんらかの資格を取得して卒業している。

【資料 6-8-1①】 文学部の標準修業年限内の卒業状況

	入学者数（4年前） [A]	標準修業年限内での卒業生数 [B]	卒業率 [B/A]
2014年度	186	154	82.8%
2015年度	188	163	86.7%
2016年度	189	161	85.2%
2017年度	191	156	81.7%
2018年度	187	147	78.6%
2019年度	172	149	86.6%

（出典：大学基本データ）

【資料 6-8-1②】 「標準修業年限×1.5」 年内卒業（修了）率

入学年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	5年平均
標準修業年限（4年） ×1.5年内	2015年度 まで	2016年度 まで	2017年度 まで	2018年度 まで	2019年度 まで	
文学部	97.4%	96.2%	91.9%	97.3%	91.1%	94.8%

（出典：大学基本データ）

【資料 6-8-1③】 休学者数・休学者率

区分		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	
休学者数	休学者率	25	3.0%	30	3.7%	29	3.7%	25	3.2%	23	2.9%

（出典：大学基本データ）

【資料 6-8-1④】 留年者数・留年者率

区分		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	
留年者数	留年者率	52	6.3%	46	5.7%	44	5.6%	39	5.0%	24	3.1%

（出典：大学基本データ）

【資料 6-8-1⑤】 退学・除籍処分状況

区分		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度	
退学・ 除籍者数	退学・ 除籍者率	11	1.3%	16	2.0%	9	1.1%	9	1.1%	9	1.2%

（出典：大学基本データ）

【資料 6-8-1⑥】 資格取得率・各種資格の取得状況

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
教員免許状	21	17	17	20	10	24
学芸員※	2	7	7	8	13	10
司書※	21	20	15	17	18	13

※学芸員・司書については、単位取得証明書を作成した人数

（出典：大学基本データ）

分析項目 6-8-2

就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の様子が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること

2019（令和元）年度の国立大学の就職の傾向を見ると、文系学生の就職率は98.2%となっており（厚生労働省 https://www.mext.go.jp/content/20200610-mxt_gakushi01-000007853_1.pdf）、同年度の文学部の場合には【資料 6-8-2①】に示すように84.2%で低

くなっている。年度別卒業生の進路状況について示したものが【資料6-8-2②】であり、例年90%前後で推移していることがわかる。【資料6-8-2③】に示すように、自営、縁故就職、公務員、公立学校教員の内定を含めると95.4%まで上昇し、全国平均よりわずかに低い値にとどまる。以上の結果の背景には、学生からの就職状況の報告が毎年やや少なめであり、就職していてもその状況が反映されない事実があることも指摘できる。学生に対しては繰り返し就職状況の報告を依頼しているが、全員報告には至っていないため、現実の就職率よりも低く表れてしまう可能性がある。

なお、就職先の状況については、【資料6-8-2②】に示した業種以外にも、国家公務員・地方公務員・公立学校教員などの公務業種、民間企業においては建設業、製造業（印刷、医薬品、電子部品）、情報通信業、運輸業、卸売小売業（卸売行、総合商社、小売業）、金融保険業、不動産業、専門・技術サービス業、宿泊業、生活関連サービス業（旅行業）、教育・学習支援業、サービス業（広告）、サービス業（コンサルティング業）、サービス業（職業紹介・労働派遣業）など、多岐にわたっている。

【資料6-8-2①】卒業生の進学・就職状況

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
卒業数	187	189	184	185	180	184
就職率	78.6%	80.4%	81.5%	78.9%	84%	84.2%
進学率	8%	5.8%	6.5%	13%	5.6%	8.2%
その他	13.4%	13.8%	12%	8.1%	10%	7.6%

（出典：大学基本データ）

【資料 6-8-2②】 年度別卒業生の進路状況

区分		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
進学者	大学院研究科	11	12	24	10	
	小計	11	12	24	10	
	% (学部毎に占める割合)	5.8%	6.5%	13.0%	5.4%	
就職者	専門的・技術的職業	研究・技術者	13	13	17	17
		教員	1	3	3	2
		保健医療	1			
		その他	9	7	12	13
	管理・事務・販売	126	125	112	116	
	サービス業	2	1	2	4	
	保安職業				1	
	農林漁業					
	生産工程					
	輸送・機械運転・建設・採掘、運搬・清掃等		1			
	その他					
	小計	152	150	146	153	
	% (学部毎に占める割合)	80.4%	81.5%	78.8%	82.7%	
一時的な職に就いた者				1		
上記以外	進学準備中	1	1		1	
	就職準備中	17	10	10	20	
	その他	8	11	4	1	
	小計	26	22	14	22	
% (学部毎に占める割合)	13.8%	12.0%	7.6%	11.9%		
合計		189	184	185	185	
最終就職率		89.9%	93.8%	93.6%	88.4%	
就職率		80.4%	81.5%	79.5%	82.7%	
就職希望者の就職率		89.9%	93.8%	93.6%	88.4%	

(出典：大学基本データ)

【資料 6-8-2③】 2019 (令和 2) 年度 3 月大学等新卒者就職内定状況調査

区分	卒業予定者			就職希望者			内定取得者			内定率			昨年度最終内定率
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
文学部	180	60	120	115	35	80	106	30	76	92.2%	85.7%	95.0%	95.5%
				168	51	117	152	43	109	90.5%	84.3%	93.2%	95.4%

※就職希望者とは、「学校又は安定所の紹介を希望する者のみ」とし、自営・縁故就職・公務員・公立学校教員への応募等は含めない。なお、下段は、参考に自営・縁故就職・公務員・公立学校教員への応募等を含めた数を示す。

(出典：大学基本データ)

なお、2019 年度における文学部の大学院等への進学率は【資料 6-8-2①】に示したように 8.2%と、私立大学も含めた同年度の全国平均である 11.4%よりも低くなっている。しかし、全国的に進学率が 9 年間連続して低下しているなかで、文学部が前年度と

比較して進学率を上昇させていることは評価できる。なお、【資料 6-8-2④】に示したように、進学先の大学院も多様であり、少なくない学生が進学先の大学で研究活動を行っているといえる。

【資料 6-8-2④】 進学先大学院（千葉大学大学院を除いた例）

2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
立教大学大学院 筑波大学大学院	東京大学大学院	東京大学大学院 早稲田大学大学院	東京大学大学院 東京外語大学大学院 立命館大学大学院 一橋大学大学院 横浜国立大学大学院	京都大学大学院 東京工業大学大学院 一橋大学大学院	立教大学大学院 東京大学大学院 慶応義塾大学大学院

（出典：大学基本データ）

このような進学先及び就職先において、「より長期的な視座でじっくりと人間や社会や文化の根源を見据える」文学部の学問の特徴が生かされることが期待される。

分析項目 6-8-3

卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること

学生からの意見聴取については、分析項目 2-2-4 で記載のとおり、定期的に学生から意見を徴収する仕組みを取り入れているほか、千葉大学が全学で2年に一度行っている「千葉大学の「教育・研究」に対する意識・満足度調査報告書」における文学部の回答結果も参照している。

【資料 6-8-3①～⑩】は 2020 年度における同調査の卒業生の回答をまとめた表と、全学の数値と比較したグラフである。なお、グラフは肯定的評価（そう思う、ややそう思う、満足、やや満足、等）が与えられている項目を集計した（質問内容によっては、そう思わない、ややそう思わない、と肯定的評価とすることもある）。

まず、ソフト面については、「4 専門教育の授業」「12 講義形式の授業」「14 少人数課題探求型の授業」が全学の数値よりも高くなっていることに特徴がある。文学部では、一般的に2年次より専門性の高い少人数授業を受講する学生が多くなるが、その項目に高い評価を得られていることは、学生の需要を満たすとともに、自身の課題を見据えてじっくりと考究するという文学部の目的を担保するものであるといえる。「8 設定された教育目標の適切性」「9 教育目標を達成するための教育方法の適切性」が全学の数値よりも高くなっていることも、学生の満足度向上のため授業の質を向上させる文学部の取組の成果が学生の満足度に反映されているといえよう。

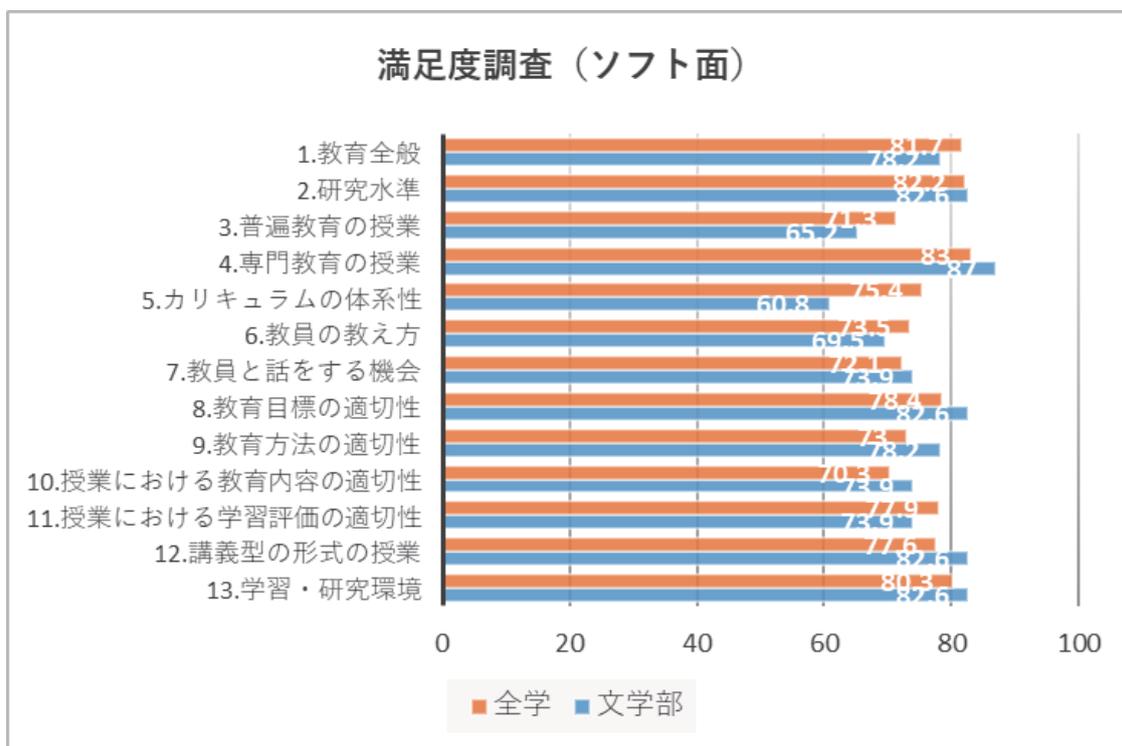
その反面、「19 進学や就職、資格や免許取得などの支援」は「どちらともいえない」が4割近くに及んでいる点は、今後改善を要する。「16 卒業研究指導」の評価が全学より低くなっている点も同様である。「5 カリキュラムの体系性」については全学と比べて満足度が低いものの、不満は少なく「やや満足」と「どちらともいえない」が多くを占めることから、質問の意図が理解しにくかった可能性はある。

「21 学生相談」「22 ハラスメント相談・対応」「23 心身の健康相談、支援」についても同様に、「どちらともいえない」「利用したことがない」を選択した学生が6割を超えており、多数の学生にとっては喫緊の課題ではないと思われる。ただし問題を抱える学生を適切なサポートにつなげるための取り組みを継続的に実施していくことは重要である。

【資料 6-8-3①】卒業時アンケート満足度調査（ソフト面1）

	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満
1. 教育全般	13.0%	65.2%	13.0%	4.3%	4.3%
2. 研究水準	4.3%	78.3%	17.4%	0.0%	0.0%
3. 普遍教育の授業	4.3%	60.9%	21.7%	8.7%	4.3%
4. 専門教育の授業	26.1%	60.9%	13.0%	0.0%	0.0%
5. カリキュラムの体系性	4.3%	56.5%	34.8%	4.3%	0.0%
6. 教員の教え方	13.0%	56.5%	21.7%	4.3%	4.3%
7. 教員と話をする機会	26.1%	47.8%	13.0%	8.7%	4.3%
8. 設定された教育目標の 適切性	26.1%	56.5%	13.0%	4.3%	0.0%
9. 教育目標を達成するた めの教育方法の適切性	13.0%	65.2%	17.4%	4.3%	0.0%
1. 授業における教育内容 の適切性	13.0%	60.9%	26.1%	0.0%	0.0%
11. 授業における学習評 価の適切性	17.4%	56.5%	8.7%	17.4%	0.0%
12. 講義型の形式の授業	26.1%	56.5%	13.0%	4.3%	0.0%
13. 学習・研究環境	13.0%	69.6%	17.4%	0.0%	0.0%

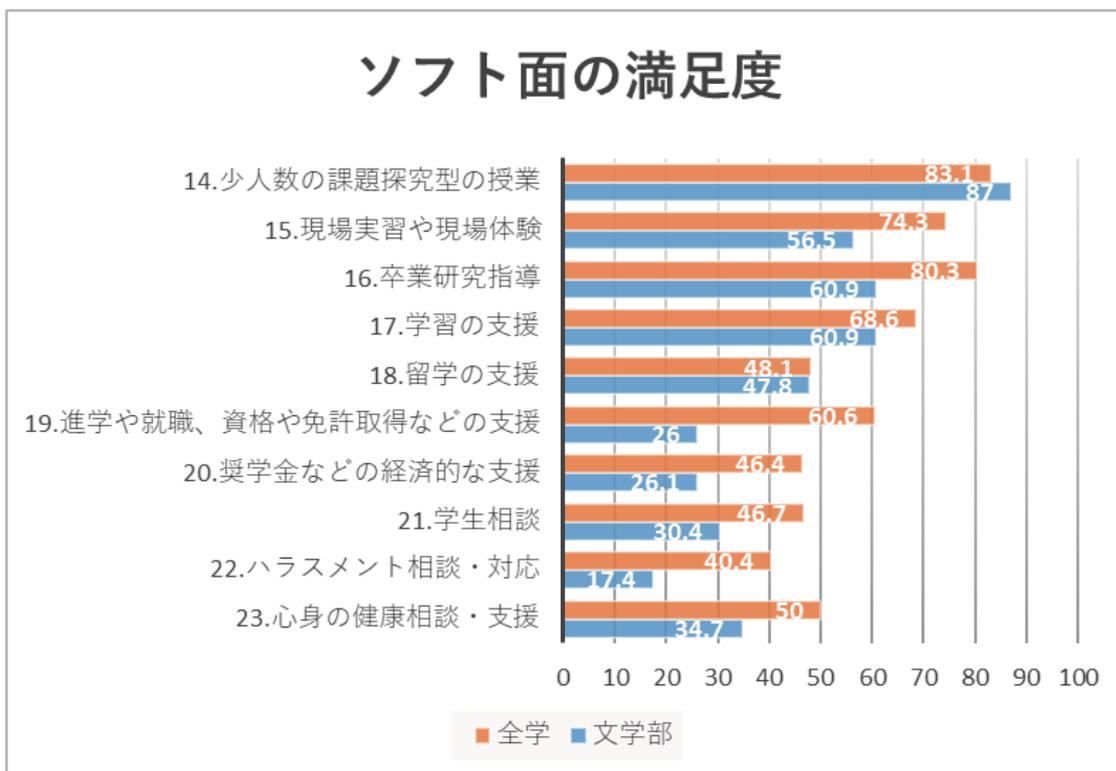
【資料 6-8-3②】 卒業時アンケート満足度調査（ソフト面1） ※全学比



【資料 6-8-3③】 卒業時アンケート満足度調査（ソフト面2）

	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	経験/利用し たことがない
14. 少人数の課題探究型の授業 (ゼミなどを含む)	43.5%	43.5%	8.7%	4.3%	0.0%	0.0%
15. 現場実習や現場体験 (教育実習などを含む)	21.7%	34.8%	13.0%	4.3%	0.0%	26.1%
16. 卒業研究指導	26.1%	34.8%	26.1%	8.7%	4.3%	0.0%
17. 学習の支援 (学習に関する相談を含む)	8.7%	52.2%	21.7%	8.7%	0.0%	8.7%
18. 留学の支援	13%	34.8%	30.4%	0.0%	0.0%	21.7%
19. 進学や就職、資格や免許取得などの支	4.3%	21.7%	39.1%	17.4%	8.7%	8.7%
20. 奨学金などの経済的な支援	8.7%	17.4%	43.5%	0.0%	4.3%	26.1%
21. 学生相談 (悩みや不安について)	4.3%	26.1%	43.5%	0.0%	4.3%	21.7%
22. ハラスメント相談・対応 (セクハラ・アカハラなど)	0.0%	17.4%	43.5%	0.0%	0.0%	39.1%
23. 心身の健康相談・支援	4.3%	30.4%	39.1%	0.0%	0.0%	26.1%

【資料 6-8-3④】 卒業時アンケート満足度調査（ソフト面 2） ※全学比



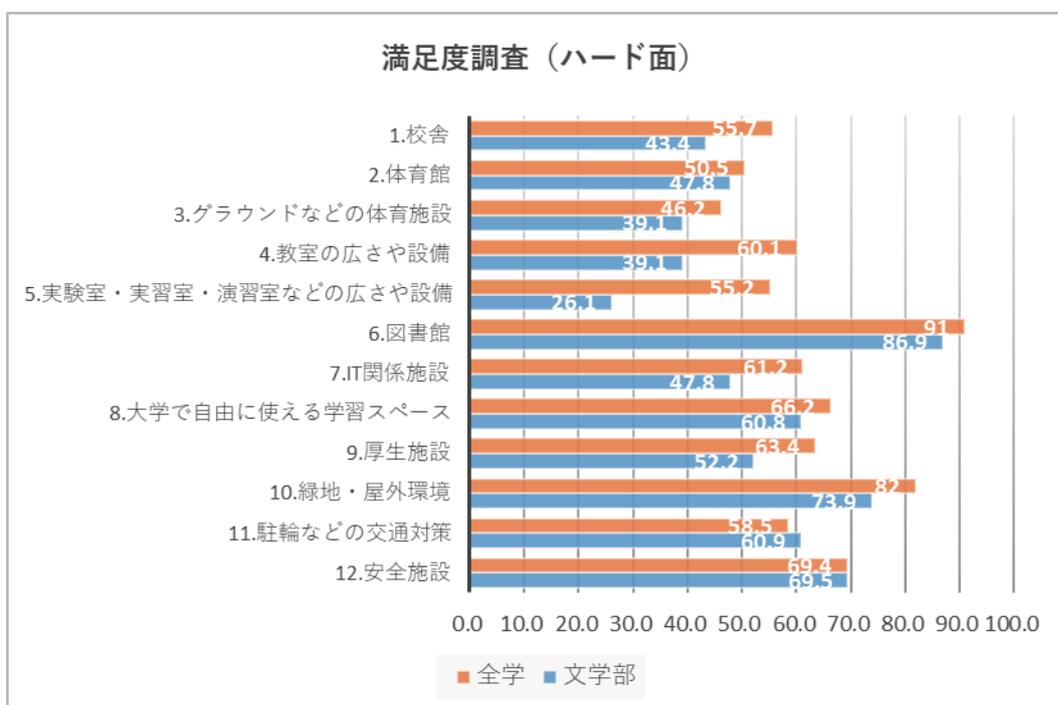
次にハード面について、千葉大学全体で満足度が低い傾向があるが、文学部の場合は特に、「4 教室の広さや設備」「5 実験室・実習室・演習室などの広さや設備」の項目の数値が著しく低いという点に特徴がある。

分析項目 4-1-1 で示したように、学生の意見を聴取して適宜改修工事や設備の交換等を行っているが、予算の問題もあり、大規模な改修工事には至っていないのが現状である。ただ、トイレの改修工事など部局予算ではまかなえないレベルの改修を、本部に粘り強く働きかけていくことで実現した例もある。学生からの要望を適切にくみとって、できるだけ実現に近づける努力が求められる。

【資料 6-8-3⑤】 卒業時アンケート満足度調査（ハード面）

	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	利用したことが ない/分からない
1. 校舎	4.3%	39.1%	26.1%	21.7%	8.7%	0.0%
2. 体育館	4.3%	43.5%	39.1%	0.0%	0.0%	13.0%
3. グラウンドなどの体育施設	4.3%	34.8%	26.1%	4.3%	4.3%	26.1%
4. 教室の広さや設備	4.3%	34.8%	39.1%	17.4%	4.3%	0.0%
5. 実験室・実習室・演習室などの広さや設備	0.0%	26.1%	47.8%	17.4%	0.0%	8.7%
6. 図書館	47.8%	39.1%	8.8%	4.3%	0.0%	0.0%
7. IT関係施設	0.0%	47.8%	30.4%	4.3%	0.0%	17.4%
8. 大学で自由に使える学習スペース	13.0%	47.8%	17.4%	17.4%	4.3%	0.0%
9. 厚生施設（食堂、リフレッシュルームなど）	8.7%	43.5%	30.4%	13.0%	4.3%	0.0%
10. 緑地・屋外環境	17.4%	56.5%	26.1%	0.0%	0.0%	0.0%
11. 駐輪などの交通対策	8.7%	52.2%	21.7%	8.7%	0.0%	8.7%
12. 安全施設（施錠・開錠、セキュリティシステム、エレベータ管理、屋外照明など）	13.0%	56.5%	21.7%	4.3%	0.0%	4.3%

【資料 6-8-3⑥】 卒業時アンケート満足度調査（ハード面）※全学比

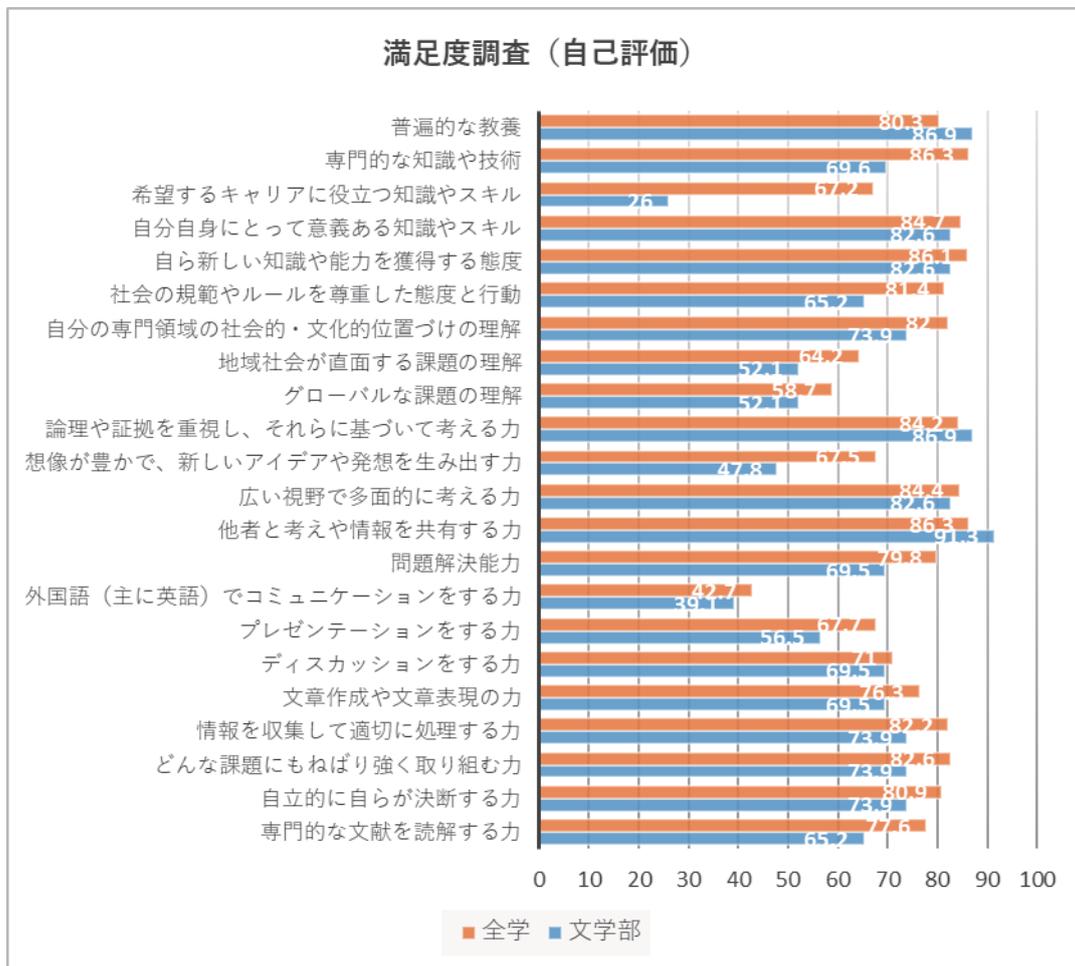


自己評価に関しても、いくつか文学部の特徴がみられる。「1 普遍的な教養」「10 論理や証拠を重視し、それらに基づいて考える力」の数値が全学よりも高くなっており、一分野に特化した専門知識を得るだけでなく、普遍的かつ広域的な教養をもとに、論理的に思考する能力が高まったと自己評価する学生が多いことが分かる。「13 他者と考えや情報を共有する力」も肯定的な評価が高くなっており、文学部の授業で討論を積み重ねてきた成果であるといえる。その反面、「3 希望するキャリアに役立つ知識やスキル」の数値は著しく低い、「4 自分自身にとって意義ある知識やスキル」については全学平均よりもわずかに低い程度であり、文学部ではキャリアに直結する知識よりも、人間性の涵養など自分自身にとって有益な知識を獲得できたと自己評価する学生が多いといえる。

【資料 6-8-3⑦】卒業時アンケート満足度調査（自己評価）

	十分身についた	ある程度身についた	どちらともいえない	あまり身につかなかった	全く身につかなかった
1. 普遍的な教養	4.3%	82.6%	4.3%	8.7%	0.0%
2. 専門的な知識や技術	8.7%	60.9%	21.7%	8.7%	0.0%
3. 希望するキャリアに役立つ知識やスキル	4.3%	21.7%	17.4%	47.8%	8.7%
4. 自分自身にとって意義ある知識やスキル	26.1%	56.5%	4.3%	13%	0.0%
5. 自ら新しい知識や能力を獲得する態度	21.7%	60.9%	4.3%	8.7%	4.3%
6. 社会の規範やルールを尊重した態度と行動	21.7%	43.5%	30.4%	4.3%	0.0%
7. 自分の専門領域の社会的・文化的位置づけの理解	13.0%	60.9%	13.0%	8.7%	4.3%
8. 地域社会が直面する課題の理解	4.3%	47.8%	17.4%	26.1%	4.3%
9. グローバルな課題の理解	13.0%	39.1%	26.1%	17.4%	4.3%
10. 論理や証拠を重視し、それらに基づいて考える力	30.4%	56.5%	8.7%	4.3%	0.0%
11. 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力	13.0%	34.8%	30.4%	21.7%	0.0%
12. 広い視野で多面的に考える力	43.5%	39.1%	8.7%	8.7%	0.0%
13. 他者と考えや情報を共有する力	13.0%	78.3%	0.0%	8.7%	0.0%
14. 問題解決能力	4.3%	65.2%	17.4%	13.0%	0.0%
15. 外国語（主に英語）でコミュニケーションをする力	8.7%	30.4%	21.7%	26.1%	13.0%
16. プレゼンテーションをする力	8.7%	47.8%	17.4%	26.1%	0.0%
17. ディスカッションをする力	13.0%	56.5%	17.4%	13.0%	0.0%
18. 文章作成や文章表現の力	65.2%	4.3%	8.7%	0.0%	0.0%
19. 情報を収集して適切に処理する力	13.0%	60.9%	21.7%	4.3%	0.0%
20. どんな課題にもねばり強く取り組む力	13.0%	60.9%	13.0%	13.0%	0.0%
21. 自立的に自らが決断する力	4.3%	69.6%	13.0%	13.0%	0.0%
22. 専門的な文献を読解する力	26.1%	39.1%	26.1%	8.7%	0.0%

【資料 6-8-3⑧】 卒業時アンケート満足度調査（自己評価）※全学比

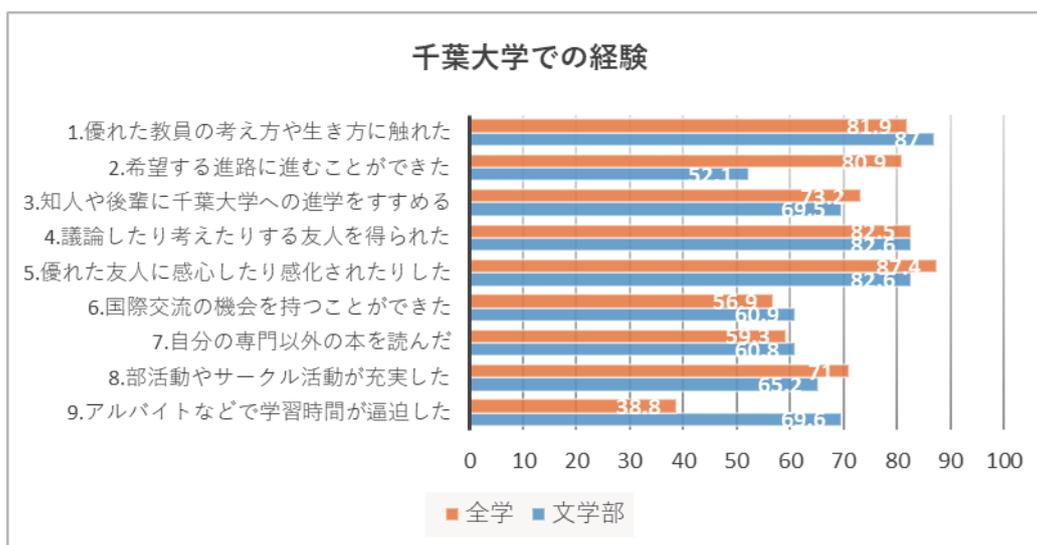


千葉大学での経験においても「1 優れた教員の考え方や生き方に触れた」などで高い数字を得ており、学生の教員に対する評価は高いといえるが、一方で「2 希望する進路に進むことができた」の項目は低水準にあるため、授業以外で就職支援体制を拡充していく必要があるといえる。

【資料 6-8-3⑨】 卒業時アンケート満足度調査（千葉大学での経験）

	あてはまる	ある程度あてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1. 優れた教員の考え方や生き方に触れた	43.5%	43.5%	0.0%	8.7%	4.3%
2. 希望する進路に進むことができた	13.0%	39.1%	34.8%	8.7%	4.3%
3. 知人や後輩に千葉大学への進学をすすめる	13.0%	56.5%	17.4%	8.7%	4.3%
4. 議論したり考えたりする友人を得られた	47.8%	34.8%	8.7%	8.7%	0.0%
5. 優れた友人に感心したり感化されたりした	65.2%	17.4%	8.7%	8.7%	0.0%
6. 国際交流の機会を持つことができた	26.1%	34.8%	13.0%	21.7%	4.3%
7. 自分の専門以外の本を読んだ	21.7%	39.1%	8.7%	30.4%	0.0%
8. 部活動やサークル活動が充実した	34.8%	30.4%	4.3%	13.0%	17.4%
9. アルバイトなどで学習時間が逼迫した	0.0%	13.0%	17.4%	26.1%	43.5%

【資料 6-8-3⑩】 卒業時アンケート満足度調査（千葉大学での経験） ※全学比



※ 「9 アルバイトなどで学習時間が逼迫した」は、肯定的な評価（＝逼迫していない）をグラフ化

アンケート実施上の問題点として【資料 6-8-3⑪】に示したような、卒業時アンケート満足度調査の回答数の減少と有効回答率の低下があげられる。2018 年度から調査方法を質問紙方式から web 方式に変更した。そのため、年度ごとに集計率にバラツキが生じ、正確な数字を得て、年度ごとに比較することが困難になった。今後は web 調査が主流になっていく見通しであり、文学部を含め、全学的に回収率向上の方法を検討していく必要がある。

【資料 6-8-3①】 卒業時アンケート満足度調査の回答数と有効回答率

部局	年度	卒業生数	回答数	回答率/文学部 (全学)
文学部	2015年度	181	157	86.7% (83.3%)
	2018年度	180	50	27.8% (71.4%)
	2019年度	181	10	5.5% (13.1%)
	2020年度	175	23	13.1% (15.2%)

分析項目 6-8-4

卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること

卒業生との交流について組織的なものとしては、共通教育科目「現代社会で働くこと」において、文学部で学んだことが職業も含めた社会生活のなかでどのように生かされているか、在学生に向けて講義形式で報告してもらっている。【資料 6-8-4】は卒業（修了）生や就職先等の関係者からの意見聴取等の実施状況である。

【資料 6-8-4】 卒業（修了）生や就職先等の関係者からの意見聴取等の実施状況

対象学部等	聴取対象者	実施時期 (頻度)	実施形態
文学部、法経学部、法政経学部	卒業（修了）生の主な雇用者	随時	文学部、法経学部及び法政経学部の学生を対象とした就職相談室では、学部に企業や自治体から企業説明会や求人の申込みがあった場合の対応を行っている。この際、当該採用担当者と意見交換を行っており、採用活動の変更点や求められる人材についての情報を聴取している。その他、千葉家庭裁判所、千葉地方裁判所による業務ガイダンスを行っている。 また、内定を得た学生が中心となり在学生に向けてセミナーを開催、その中でDeiBA Company（就活支援サービス）担当者を講師としてグループディスカッションのトレーニングを開催した。

分析項目 6-8-5

就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること

キャリア科目「現代社会で働くこと」において卒業生を招聘する際に、同席した上司とも懇談の場を設けている。ただし、改組後の意見聴取は、新型コロナウイルス感染防止の観点からまだ実施していない。学位授与方針に即した学習成果を就職先から具体的に意見聴取する方法については、今後検討していく必要がある。

分析項目 6-8-6 (独自項目)

学生の満足度の状況

文学部では、授業評価アンケートを年2回学期末に実施して学習の達成度、満足度に関して学生の意見を聴取してきた。匿名性を保つため履修人数が3人以下の科目を除いた授業科目についてアンケートを実施している、アンケート項目は①履修分類、②シラバスについて、③授業内容について、④授業方法について、⑤授業の効果と理解について、⑥自由記述、となっている。分析結果はFD研修や学科会議・コース会議等で報告され、問題点と改善の方法についてFDとして検討されてきた。

【資料 6-8-6①②】はそれぞれ、2015（平成27）年度と2019（令和元）年度後期に実施したアンケート結果の平均値を示した一覧表である。多くの場合、「1 思う」「2 やや思う」が肯定的評価であるため、数字が小さいほど、学生の満足度が高いことを表している。

アンケート結果は、文学部改組を行った2016年も含めた4年間を通してほぼ安定している。特に「授業内容に興味を持てたか」「授業から新しい知識や考え方が得られたか」「授業に関わる問題・知識を今後さらに深めていきたいと思うか」など、授業の質に関係する項目は一貫して評価が高い。改組を経ても授業の質は確保されているといえよう。

その反面、「予習・復習・ゼミ発表の準備」については、4年間を通してあまり数値に改善が見られず、日常的な学習を促す必要がある。また、「授業の出席頻度」については、例年、学年が上がるほど低下する傾向があるが、これには就職活動の本格化などが背景にあると思われる。

【資料 6-8-6①】 授業評価アンケート 2015（平成 27）年度・後期

	2015年度入学	2014年度入学	2013年度入学	2012年度入学
1. シラバスを見ましたか？	1.8	1.8	1.9	1.8
2. シラバスの内容は分かりやすく書かれていましたか？	2.1	2.0	2.0	2.2
3. シラバスの記述と授業内容は合っていましたか？	1.8	1.8	1.8	1.8
4. 授業内容に興味を持ってましたか？	1.5	1.6	1.7	1.5
5. 授業のレベルは適切でしたか？	2.0	1.9	2.0	1.9
6. 授業内容は期待していた内容と一致していましたか？	1.8	1.7	1.7	1.6
7. 授業の進度は適切でしたか？	2.0	2.0	2.0	2.0
8. 授業で要求された予習・復習の負担の程度はどうでしたか？	3.2	2.9	3.1	3.0
9. 教員の話し方は適切でしたか？	1.9	1.9	1.9	1.6
10. 板書は適切でしたか？	2.1	2.1	2.2	1.8
11. 配布資料は適切でしたか？	1.8	1.9	1.9	1.8
12. 視聴覚教材の使用は適切でしたか？	2.0	1.9	1.9	1.5
13. 自分でさらに学んでいく方法についての説明は十分でしたか？	1.7	1.7	1.6	1.7
14. 授業にどの程度出席しましたか？	1.4	1.6	1.8	2.1
15. 予習・復習・ゼミ発表の準備はどの程度行いましたか？	3.1	2.9	2.9	2.8
16. 授業内容は十分理解できましたか？	2.1	2.2	2.2	2.0
17. 授業から新しい知識や考え方が得られましたか？	1.4	1.6	1.7	1.6
18. 授業に関わる問題・知識を今後さらに深めていきたいと思いませんか？	1.6	1.6	1.7	1.6

【資料 6-8-6②】 授業評価アンケート 2019（令和元）年度・後期

	2018年度入学	2017年度入学	2016年度入学	2015年度入学
1. この授業の分類は？	1.30	3.19	3.35	3.64
2. シラバスを見ましたか？	1.89	1.68	1.83	1.82
3. シラバスの内容は分かりやすく書かれていましたか？	2.16	2.06	2.10	1.94
4. シラバスの記述と授業内容は合っていましたか？	1.95	1.93	1.86	1.67
5. 授業内容に興味を持ってましたか？	1.60	1.54	1.61	1.55
6. 授業のレベルは適切でしたか？	1.93	1.92	1.96	1.92
7. 授業内容は期待していた内容と一致していましたか？	1.80	1.71	1.77	1.47
8. 授業の進度は適切でしたか？	1.98	2.01	2.01	1.92
9. 授業で要求された予習・復習の負担の程度はどうでしたか？	3.06	2.85	3.00	2.95
10. 教員の話し方は適切でしたか？	1.83	1.88	2.00	1.77
11. 板書は適切でしたか？	2.08	2.07	2.15	1.94
12. 配布資料は適切でしたか？	1.84	1.84	2.02	1.67
13. 視聴覚教材の使用は適切でしたか？	1.99	1.98	2.17	1.81
14. 自分でさらに学んでいく方法についての説明は十分でしたか？	1.59	1.60	1.61	1.52
15. 授業にどの程度出席しましたか？	1.19	1.32	1.39	1.74
16. 予習・復習・ゼミ発表の準備はどの程度行いましたか？	2.66	2.47	2.67	2.56
17. 授業内容は十分理解できましたか？	2.09	2.04	2.13	2.11
18. 授業から新しい知識や考え方が得られましたか？	1.46	1.49	1.59	1.45
19. 授業に関わる問題・知識を今後さらに深めていきたいと思いましたか？	1.57	1.49	1.63	1.52

領域7 研究の状況についての基準（独自項目）

◆基準7-1 研究活動が適切に行われていること
◆基準7-2 社会への発信・成果公開が適切に行われていること

分析項目7-1（独自項目）
研究活動が適切に行われていること

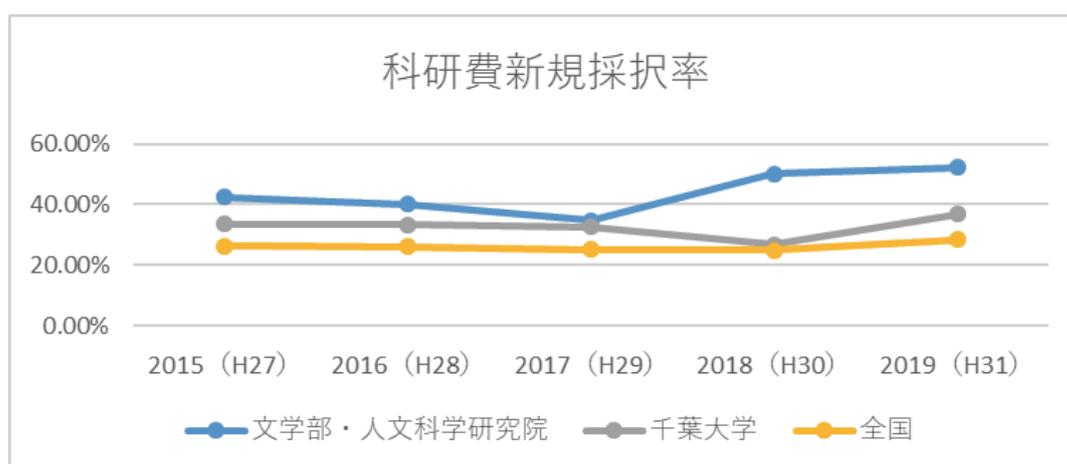
科学研究費補助金の申請状況・採択率、寄付金・共同研究などの外部資金の獲得状況、研究活動の実施状況から、文学部・人文科学研究院の研究活動の実施状況を確認する。寄付金、科研費を除く競争的資金、共同研究の獲得件数は少数にとどまるものの、科研費の採択件数は、全国および千葉大学全体と比較しても平均を上回る数値を維持している。2017年度より教員組織と教育組織の分離にともない、2017年度までは文学部、2018年度以降は人文科学研究院として集計されている。なお、2017年度までの学内の集計方法が、現在と一部異なっていることと、研究課題に大学院人文社会科学研究科(当時)所属教員の研究も含めているため、表7-3③の採択数と課題リストにずれが生じている部分がある。

【資料7-1①】 科研費の申請・採択状況

部局	区分	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	
文学部	応募件数（新規）	26	30	23	-	-	
	採択件数	新規	10	12	8	-	-
		継続課題	28	30	25	-	-
	新規申請に対する内定率	38.5%	40.0%	34.8%	-	-	
	直接経費（新規+継続） （単位：千円）	52,900	81,600	60,800	-	-	
間接経費（新規+継続） （単位：千円）	15,870	24,480	18,240	-	-		
人文科学研究院	応募件数（新規）	-	-	-	24	23	
	採択件数	新規	-	-	-	12	12
		継続課題	-	-	-	29	27
	新規申請に対する内定率	-	-	-	50.0%	52.2%	
	直接経費（新規+継続） （単位：千円）	-	-	-	65,000	72,600	
間接経費（新規+継続） （単位：千円）	-	-	-	19,500	21,780		

【資料 7-1②】 科研費新規採択率

年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
文学部	42.3%	40.0%	34.8%	-	-
人文科学研究院	-	-	-	50.0%	52.2%
千葉大学	33.6%	33.3%	32.6%	26.8%	36.7%
全国	26.2%	26.0%	25.0%	24.9%	28.4%



【資料 7-1③】 科研費採択件数、採択率、研究課題一覧

年度	新規採択件数	新規採択率	研究種目、課題（代表者）	
2015	基盤S	0	38.5%	基盤 (C) 仲間の排斥・攻撃行動の許容における仲介・調整プロセスの検討（磯部智加衣）
	基盤A	0		基盤 (C) 現代ロシア文化における文学と視覚芸術の相互的影響の解明（鴻野わか菜）
	基盤B	0		基盤 (C) 『漢書』芸文志の動態的研究（内山直樹）
	基盤C	6		基盤 (C) 近世～近代における風土記研究と郷土意識に関する研究（兼岡理恵）
	挑戦的萌芽	1		基盤 (C) 写真家ウォーカー・エヴァンズとモダニスト文学者との学際的比較研究（山本裕子）
	若手	2		基盤 (C) 現代ロシア文化における文学と視覚芸術の相互的影響の解明（鴻野わか菜） 基盤 (C) 地方自治体における人類学的調査を通じた日本における人口問題の多角的分析（小谷真吾） 基盤 (C) 本人が「当事者」として「認知症」とされる体験を語ることの意味をめぐる探索的研究（出口泰靖） 基盤 (C) ローカルにおける非営利セクターの構築過程と領域特定型中間支援組織の役割（清水洋行） 若手 (B) パネルデータを用いた初期キャリアの計量分析—大学生の人間行為力・機会・制度—（吉岡洋介） 若手 (B) 戦後アメリカにおける保守派の社会運動とカントリー音楽の相関（館美貴子）
2016	基盤S	0	40.0%	基盤 (B) :哲学分野における男女共同参画と若手研究者育成に関する理論・実践的研究（和泉ちえ）
	基盤A	0		基盤 (B) :『慕婦絵』の制作事情を巡る総合的研究（池田忍）
	基盤B	4		基盤 (B) :占領期ローカルメディアに関する資料調査および総合的研究（大原祐治）
	基盤C	4		基盤 (B) :プロセススペースのマルチモーダル概念理論の構築と実証についての分野横断的研究（松香敏彦）
	挑戦的萌芽	0		基盤 (B) :国際移動の実践科学—ソーシャルキャピタルと移住者の就労、生活、健康（小澤弘明）
	若手	1		基盤 (C) :江戸時代の藩領国における史蹟顕彰の基礎的研究（引野亨輔）
	研究活動スタート支援	1		基盤 (C) :空間探索における冗長な情報の役割の解明：ナビゲーションの比較認知研究（牛谷 智一） 基盤 (C) :ミャオ語系諸語文法の記述言語学的・歴史言語学的研究（田口善久） 基盤 (C) :19世紀ビルマ・デルタ地域における下級官吏と植民統治体制（岩城高広） 基盤 (C) :戦時体制下の官製運動における生活改善指導と通俗教育の交差に関する民俗学的研究（和田健） 挑戦（萌芽）:近代「地域」の記述と『平家物語』の「記憶」をめぐる研究—史蹟紀行・郷土史を対象に（久保勇） 若手 (B) :ポスト個人化社会における人類学的家族研究の再構築：北欧型親族介護を事例に（高橋絵里香） 研究活動スタート支援:真理の機能主義に関する統合的研究の基礎（秋葉剛史）
2017	基盤S	0	34.8%	基盤 (A) :日常場面と特定場面の日本語会話コーパスの構築と言語・相互行研究の新展開（傳康晴）
	基盤A	1		基盤 (B) :千葉エリアにおける有機農業運動の形成と展開に関する社会学的考察（米村千代）
	基盤B	1		基盤 (C) :相互行為における複様式的知覚と共感的反応の解明—会話分析と概念分析をとおして（西坂仰）
	基盤C	4		基盤 (C) :言語の学習と拡張における知覚の役割の解明—後期ウィトゲンシュタインの思索を通じて（山田圭一）
	挑戦的萌芽	1		基盤 (C) :多様化する外国人集住地域の日本語のリテラシー問題：その実践的文脈から支援施策へ（高民定）
	若手	1		基盤 (C) :中国社会主義体制下モンゴル牧畜民女性の都市化過程における社会進出と生活経験（兒玉香菜子）
	国際共同研究強化	0		挑戦的萌芽:中世における音声・音曲の実態にせまる—読経音曲を基軸として—（柴佳世乃） 若手 (B) :メタ認知と衝動性の比較認知科学：メタ認知研究の新たな枠組みの提案（渡辺安里依） 国際共同研究強化:現代アメリカの政治文化における音楽の役割（館美貴子）
2018	基盤S	0	50.0%	基盤 (C) :『アエネーイス』の古仏語・中高ドイツ語翻案による古典古代文学の中世における受容（石井正人）
	基盤A	0		基盤 (C) :中国社会主義体制下モンゴル牧畜民女性の都市化過程における社会進出と生活経験（兒玉香菜子）
	基盤B	0		基盤 (C) :原発避難からの帰還地域における希望と不安の社会論理（西坂仰）
	基盤C	11		基盤 (C) :社会的認知能力の個人差と脳皮質活動・視線サイモン効果との関連性に関する実験的研究（若林明雄）
	挑戦的萌芽	1		基盤 (C) :近代「地域」の記述と軍記物語の享受をめぐる総合的研究—郷土史・平家伝説を対象に（久保勇）
	若手	0		基盤 (C) :高精度コーパスにもとづく近世江戸語文法の「通説」の再検証（岡部嘉幸） 基盤 (C) :既収集日本労働史料の検討と公開（三宅明正） 基盤 (C) :フランス奴隷貿易と国際商業都市ナントの海運ネットワーク（大峰真理） 基盤 (C) :本人中心アプローチの認知症ケアのあり方の探索的研究（出口泰靖） 基盤 (C) :成員の非組織性逸脱行為に対する組織対応が、他の組織成員の組織評価に及ぼす影響（磯部智加衣） 基盤 (C) :性同一性障害の診断を例にした精神医学的診察の会話分析（鶴田幸恵） 挑戦的研究（萌芽） 瞬目と瞳孔反応の同時計測による客観的認知機能評価（木村英司）
2019	基盤S	0	52.2%	基盤 (B) :娯楽文化史からとらえるエリザベス朝演劇（篠崎実）
	基盤A	0		基盤 (C) :近代の日本/海外における風土記研究・享受に関する多角的分析（兼岡理恵）
	基盤B	1		基盤 (C) :ミャオ語系諸語文法の類型論的・歴史言語学的研究（田口善久）
	基盤C	7		基盤 (C) :東アジア相互認識の近世的淵源（山田賢）
	挑戦的萌芽	0		基盤 (C) :近年のトランスジェンダーから見る現代日本社会の性別規範（鶴田幸恵）
	若手	2		基盤 (C) :サード・セクターの基盤変容と中間支援組織による再カテゴリー化に関する実証的研究（清水洋行）
	国際共同研究強化A	2		基盤 (C) :ハトをモデルとする「双頭の鷲」型視覚システムの認知処理特性の解明（牛谷 智一） 基盤 (C) :亡命オーストリア社会民主主義者の戦後構想と新自由主義の起源（小澤弘明） 若手:私事化/民営化の人類学的研究：ポスト福祉国家フィンランドの親族介護とケア市場（高橋絵里香） 若手:大学卒業生の職業移動に関するライフコース研究—能力と制度に注目して—（吉岡洋介） 国際共同:カナダにおけるノンバイナリー概念から見るジェンダーの変容（鶴田幸恵） 国際共同:フィンランド高齢者ケア制度のプライヴァイゼーションについての比較研究（高橋絵里香）

【資料 7-1④】 寄付金の受け入れ状況

部局	区分	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
文学部・ 人文科学研究院	受入件数	1	0	1	1	3
	受入金額 (単位：千円)	500	0	270	1,000	4,370

【資料 7-1⑤】 競争的外部資金（科研費を除く）の採択状況

部局	区分	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
文学部・ 人文科学研究院	受入件数	0	0	1	1	1
	受入金額 (単位：千円)	0	0	2,925	4,928	4,022

【資料 7-1⑥】 共同研究の実施状況

部局	区分	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
文学部・ 人文科学研究院	受入件数	0	0	2	1	0
	受入金額	0	0	1,737	650	0

【資料 7-1⑦】 研究活動の実施状況に関する資料

業種類別		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
著書数	日本語	20(8)	20(2)	16(2)	23(4)
	外国語	2(0)	7(1)	9(2)	2(0)
招待論文数	日本語	21	10	24	24
	外国語	2	0	1	2
査読付き論文数	日本語	16	11	6	9
	外国語	15	26	26	20
その他		129	130	126	86
計		205	204	208	166

※「著書数」については内数として単著の数を記載する

※学会発表や「査読付き論文」に当たらない論文などについては、「その他」に数える。

※2016年度については、改組前の組織（文学部、人文社会科学研究科（人文科学系））の実績を記載。

分析項目 7-2（独自項目）

社会への発信・成果公開が適切に行われていること

研究成果の公表状況について、研究プロジェクトの実施・公開状況、文学部主催の公開講座、特色ある研究から確認する。研究プロジェクトは、従来、大学院における教育と研究の成果を報告書として取りまとめる形で刊行されてきた。2018年度の人文科学研究院設置以降、大学院教育と研究との協働・連携をより一層発展させる目的で人文科学研究院に4センターを設置し、センターのもとでプロジェクトを実行している。プロ

プロジェクトの成果は附属図書館において電子公開されている。

【資料 7-2①】 研究プロジェクト（2018 年度以降）

『高等教養教育研究』	石井正人	教育・学修支援研究センター	第337集	2018年
『文化交流研究』	石井正人	教育・学修支援研究センター	第336集	2018年
『差異と表象』	土田知則	総合人間学研究センター	第335集	2018年
『移動する人々のアイデンティティと言語使用：接触場面の言語管理研究 vol. 15』	村岡英裕	総合人間学研究センター	第334集	2018年
『未完成：企図／作品／芸術家』	池田忍	史資料文献学研究センター	第333集	2018年
『支援と連携の社会学：家族・地域・若者』	米村千代	総合人間学研究センター	第332集	2018年
『言語と規範性に関する諸問題の再検討』	高橋久一郎	総合人間学研究センター	第331集	2018年
『イメージとポリティクスII』	三宅晶子	総合人間学研究センター	第330集	2018年
『存在・真理・フィクションの分析を支える論理構造解明に向けて』	田村高幸	総合人間学研究センター	第329集	2018年
『環境変動下における牧畜技術文化とその変化』	吉田睦	地域研究センター	第328集	2018年
『言語と地域社会（2）』	中川裕	地域研究センター	第327集	2018年
『アイヌ文化の未来形を探る』	中川裕	地域研究センター	第326集	2018年
『アイヌ語の文献学的研究（3）』	中川裕	地域研究センター	第325集	2018年
『教育におけるゲーミフィケーションに関する実践的研究（3）』	藤川大祐	総合人間学研究センター	第324集	2018年
『人工知能社会における教育に関する実践的研究』	藤川大祐	教育・学修支援研究センター	第346集	2019年
『移動と接触：家族・地域・世代を超える関係形成』	米村千代	総合人間学研究センター	第345集	2019年
『アイデンティティと社会的参加 接触場面の言語管理研究 vol. 16』	村岡英裕	教育・学修支援研究センター	第344集	2019年
『文化交流研究』	石井正人	教育・学修支援研究センター	第343集	2019年
『知覚・推論・発話をめぐるアスペクト形成』	山田圭一	総合人間学研究センター	第342集	2019年
『日本文学と身体表象』	大原祐治	総合人間学研究センター	第340集	2019年
『保護観察中の覚醒剤事犯者に対する処遇方策に関する研究（2）』	羽間京子	教育・学修支援研究センター	第339集	2019年
『東アジア「近世」比較社会史研究 その2』	山田賢	史資料文献学研究センター	第338集	2019年
『人工知能社会における教育に関する実践的研究(2)』	藤川大祐	教育・学修支援研究センター	第357集	2020年
『外国につながる人々と多言語社会 接触場面の言語管理研究 vol. 17』	村岡英裕	総合人間学研究センター	第356集	2020年
『移動と接触（2）』	米村千代	総合人間学研究センター	第355集	2020年
『ユーラシア諸言語の類型的記述』	田口善久	地域研究センター	第354集	2020年
『環境変動下における先住民の文化芸術・継承活動とその変遷』	児玉香菜子	地域研究センター	第353集	2020年
『イメージとポリティクスIII』	三宅晶子	総合人間学研究センター	第349集	2020年

文学部では毎年大学祭の折に公開講座を開催し、人文科学を社会に発信する取り組みを行っている。各コースが輪番で企画を担当し、専門知を社会にわかりやすく発信することを目指している【資料 7-2②】。

また、全学のホームページに、人文科学研究院から「特色ある研究」を年2回のペースで推薦・公開し、研究成果の見える化を進めている【資料 7-2③】。研究内容をわかりやすく説明し、社会のなかで人文科学の研究を位置づけていく取り組みである。

【資料 7-2②】 文学部公開講座

年度	タイトル	概要
2014	歴史の中の「境界」を問う	「境界」を生きた人々の歴史をたどり、「日本史」「世界史」、「一國史」という枠組みを問い直す
2015	日本語の隣人たち	日本語の成立に深い関係があった可能性が高く、日本人の先祖とも交流があったと思われる日本の地理的近接地域の言語を紹介
2016	愛と言語	人間関係を作る源である愛と、その表現方法である言葉の切り離せない関係、微妙で困難なところの多い関係にアプローチする
2017	どうして「心」は間違えるのか	「間違い」から見える心の働きについて、心理学や認知科学の研究の立場から解説する
2018	記録資料と歴史研究	歴史研究の基本となる記録史料をテーマとして、史料と研究をめぐる諸問題について取り上げる
2019	江戸言語の多様性	近世期の江戸で話されていた「江戸言葉」の多様な姿を、多角的な視点から解説する

【資料 7-2③】 特色ある研究

年度 (全学HP掲載日)	代表者	職種	専門分野	研究成果(タイトル)
2016年5月	一川 誠	教授	実験心理学	ユーザー認知特性に適応したサポートシステムの基礎応用一体型研究プロジェクト
2016年5月	大峰 真理	教授	近世フランス史	知と技術の歴史学 ― 史資料の収集と研究拠点の形成をめざして ―
2016年5月	中川 裕	教授	言語学、アイヌ語学、アイヌ口承文芸学	アイヌ語音声資料の分析とアイヌ語学習教材の整備・公開
2017年10月	鴻野 わか菜	准教授	ロシア文学・文化	世界を結ぶロシア現代美術と文化―研究・普及・国際交流
2017年12月	兼岡 理恵	准教授	日本古代文学	風土記からみる「地域」へのまなざし ― 古代から現代まで ―
2018年4月	牛谷 智一	准教授	比較認知科学	動物との比較から人間の認知過程を理解する
2018年11月	阿部 昭典	准教授	先史考古学	縄文土器における器種の複雑化の解明と用途研究
2019年4月	鎌田浩二	准教授	理論言語学	人間言語における右方移動現象
2019年11月	高橋 絵里香	准教授	文化人類学	北欧型福祉国家のエスノグラフィー

4 外部点検評価

4. 1. 外部点検評価実施の概要

千葉大学人文科学研究院・文学部では、かねてより2020年度に外部点検評価を実施することを決めていた。そこで、自己点検評価報告書の作成作業のためのワーキング・グループを文学部自己点検評価委員会内に立ち上げた。ワーキング・グループは米村千代研究院長・学部長（当時、以下のメンバーの職位も同じ）、吉岡洋介准教授（行動科学コース）、阿部昭典准教授（歴史学コース）、兼岡理恵准教授（日本・ユーラシア文化コース）、舘美貴子教授（国際言語文化学コース）から構成され、このワーキング・グループを中心に自己点検評価報告書の編集が進められた。COVID-19の影響により、外部点検評価の実施は2021年度に延期されたが、このワーキング・グループはそのまま編集作業を継続し、2022年2月に自己点検評価報告書の完成をみた。

一方、2021年度の文学部自己点検評価委員会は、2021年12月に外部点検評価委員の候補者を選定し、2022年1月に5名の先生方に委員委嘱を行った。2022年2月に完成した自己点検評価報告書を外部点検評価委員に事前送付し、2022年3月24日に千葉大学人文科学研究院・文学部外部点検評価委員会を開催（Zoomによるオンライン開催）した。委員会では、まず、岡部嘉幸研究院長・学部長から人文科学研究院・文学部の概要について簡単な説明があり、その後、外部点検評価委員各位から、予め読んでいただいた報告書の内容を踏まえ、人文科学研究院・文学部の取組として評価できる点と努力を要する点を中心にご講評をいただいた。さらに、外部点検評価委員には、委員会でのやり取りも踏まえ、後日、書面での外部点検評価報告書のご提出をお願いした。外部点検評価報告書は4. 3. に記載している。

4. 2. 外部点検評価委員

外部点検評価委員として委嘱したのは以下の5名の諸氏である（50音順、所属・職は2022年3月現在）。委員の選出については、各コースから複数の推薦者を出してもらった上で、自己点検評価委員会の議論を経て決定した。

石川 日出志氏（明治大学文学部教授）

佐々木 史郎氏（国立アイヌ民族博物館館長）

能登路 雅子氏（東京大学名誉教授）

町村 敬志氏（一橋大学大学院社会学研究科特任教授）

山本 百合子氏（公益財団法人イオン環境財団 専務理事兼事務局長）

4. 3. 外部点検評価委員による外部点検評価報告書

外部点検評価報告書 1

明治大学文学部教授 石川 日出志

1. 総論的コメント

「自己点検評価・外部点検評価」は、公的な教育・研究組織である大学にとって重要な取り組みである。優れた点や適切な点を明示することはもちろん、不足な点や改善を要する点も積極的に拾い上げて対応することが求められる。自らの経験では、10数年前の導入当初は後者を重視したが、学内事情からまもなくそれを柔らかく表記するようになったと感じる。しかし、問題点を洗い出す作業はとりわけ重要であり、その意識を保持・継続していただくようお願いしたい。

なお、本評価は学部を対象とするが、大学院との接続や大学院修了後についても視野に入れることが望ましいので、合同で評価を行うか、少なくとも大学院に関する主だったデータも添えていただくかのご検討願いたい。

2. 改組等について

2016年度に1学科4コース制に改組された。教員は教育従事者であるが、同時に学術研究に従事するその道の専門家であるために、学生を個別専門分野に引き込み囲い込む傾向を生みかねない。しかし、従来とは異なる姿に変貌していくこれからの社会を担う学生は、現在の学問分野を横断する思考が求められる。その環境整備として、この改組は評価したい。その実質化へのご努力をお願いしたい。また、そこに「基礎共通科目の構造化」が組み込まれた点も重要である。この改革への合意形成には大変な労力を要したと推測する。

一方で、大学は教育・研究組織として個性をもつことも重要である。千葉大学は、特にアイヌ・北方文化研究の拠点として重要な役割・貢献を果たしてきたことを特記したい。学術研究による社会貢献は大学の重要な使命のひとつである。

3. カリキュラム関係

改組による分野横断的な学習プログラムを用意する一方で、「専門性の深化」の促しも必須である。その点で、カリキュラム編成において、卒業論文を科目区分上「専門教育科目」群から独立させている点は、専門性獲得を自覚的に促すものであり評価できる。教養重視の上に専門性（問題設定～情報収集整理・分析～解釈・応用）を重ねるバランスのとれた構成だと考える。

現今の学生より2世代上の老年なので、本来大学での学びの体系は学生自らが構築してほしいと思うが、今や容易ではない。その点で、カリキュラム・ツリーとカリキュラム・マップは、学生がカリキュラムの体系性と構造を的確につかめるものとして評価する。学生の意見を取り入れながら改善を重ねていただきたい。

文学部に「人文学地域インターンシップ」が設けられている点は、単なる職業体験ではなく、文学部での専門的学びが社会にどう生きるかを体験的に理解する場として機能するものであり、評価したい。自治体やその外郭団体が受入れ先となろうが、受講生は現在ひとけた台であるとしても継続し、充実を図っていただきたい。

4. 成績評価の扱いについて

履修科目の成績評価に関する異議申し立てについて「成績評価問合せ申請書」書式を定めている点は、学生・事務・教員の間で齟齬が生れない仕掛けとして重要な措置である。

成績分布とその推移が示されている。科目・教員間で極端な偏りが無いよう、目安として学生にも開示されてしかるべきであろう。

5. 満足度調査について

満足度調査は、4年間の教育の効果に関する直近の情報であり、単に公開するだけでなく、現役学生がこの情報にアクセスするよう促していただきたい。また、文学部での学びは「人間理解力」が重要であり、卒業時の評価だけでは教育効果が認識しにくい面がある。調査は簡単ではないし、集まったデータの読み方も考慮が必要と思われるが、卒業10年・20年後に振り返っての満足度調査があってもよいのではないか。

「14 少人数教育・15 現場性・16 卒論指導」に関する満足度が高い点は、他大学教員からみても文学部の教育評価として頼もしく感じる。

「21 学生相談・22 ハラスメント相談」が全学平均より低いのは何によるのかを調査した方がよいのではないか。相談件数はどうか。ある大学では、文学部がもっとも相談件数が多いが、それは問題が多いからではなく、学生が軽微な事案でも気楽に行けると受け止められているからであり、そのことは評価されてよい。

「2. 希望する進路に進めた」が全学データより値が低い点は、まずどのような理由でそのように回答したのかを調べる必要があるように思う。大学側だけの問題ではない可能性も考えられるので、他学部との比較だけでなく、他大学と情報交換してみたいか。

以上

外部点検評価報告書 2

国立アイヌ民族博物館館長 佐々木 史郎

千葉大学文学部・人文科学研究院の自己点検評価と令和4年3月24日に行われた外部評価委員会での検討に基づき、以下の通り外部評価報告をいたします。

各領域の評価

領域1の「教育研究上の基本組織に関する基準」については、全体的に見ると教員の人員構成の性別、年齢に著しい偏りがあるとは認められません。しかし、教授職で女性の比率が他の職位に比べるとかなり低い（男性教授29人に対して女性教授8人）ところは改善の余地があるのではないかと思われます。また、外国語教育における当該言語を母語とする教員の確保、あるいは国籍などに関わらずに優秀な人材を確保する方策なども検討する必要があるかもしれません。

領域2の「内部質保証に関する基準」では、学生や卒業生からの意見徴収やアンケートの結果が学内ネット環境の改善や授業改善に役立てられている点は評価できます。また、ファカルティ・デヴェロップメント（FD）の組織的实施も適正であると評価できます。

領域3の「財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準」については、適正に各項目が実施されていると評価できます。ことに、防災対策、情報危機対策、ハラスメント防止対策が組織的にできている点は高く評価できます。ただし、卒業時の学生アンケートにあるように、ハラスメントについては利用したことがない人や満足とも不満ともいえない人が多いようで（p.87）、この点については、文学部・人文科学研究院でこの種の問題が少ないのか、学生の問題意識が低いのか、より詳しい分析が必要かもしれません。

領域4の「施設及び設備並びに学生支援に関する基準」については、ICT教育への対応、バリアフリー化が適切に進んでいるといえます。

領域5の「学生の受入に関する基準」については、入試体制での先進科学プログラム（飛び入学）学生選抜（行動科学コース）、社会人入試（24歳以上）（歴史学コース）、AO入試（日本・ユーラシア文化コース）などの先進的な取組をしている点は評価できます。ただし、その成果（入学後の学生の学力の推移、並びに卒業後の進路）についての評価が欲しいところです。

領域6の「教育課程と学習成果に関する基準」については、各項目が適正に実施されていると評価できます。ことに障がい者への配慮、留学生への配慮、特色ある教育における「海外留学・異文化交流」、「地域研究」という取組は、千葉大学の特色がよく表れた取組といえるでしょう。

領域7の「研究の状況についての基準(独自項目)」については、「科研費の採択件数は、全国および千葉大学全体と比較しても平均を上回る数値を維持している」（p.97）とのことで、研究活動が活発に行われていることを示しているといえるでしょう。ただし、どの大学にもいえますが、教員のエフォート管理、つまり教育、研究、大学運営といった仕事の量的バランスが適正に取られているかどうかをチェックする必要があるかと思われます。

全体として

千葉大学文学部・人文科学研究院には日本・ユーラシア文化コースのような特徴

のあるコースを有して、高い志願倍率を維持しています。ことにこのコースにはアイヌ語・アイヌ文化、あるいはシベリア、モンゴル、中国東北地方などの北方の言語・文化を教育、研究する部門があり、国の内外に数多くの優秀な人材を輩出しています。アイヌ語やアイヌ文化、あるいは北方の言語や文化は地理的に近い北海道で教育すればよいというものではなく、首都圏で学ぶ意義はとて大きいと考えられます。このユニークで優れた実績を残してきた教育、研究部門の将来にわたる発展が望まれるところです。

外部点検評価報告書 3

東京大学名誉教授 能登路 雅子

自己点検評価報告書の全体に関し、文学部の教育上の理念としての学際性、国際性、社会性にもとづくカリキュラムが着実に実行されていると感じた。特に基礎知識対実地・現場体験、地域の視点对グローバルな視点といったバランスにも十分な配慮がされている点は重要な取り組みとして評価したい。

構成員の多様性確保という点から女性教員の比率、受験機会の多様化、留学生に関して、いくつかの意見を以下にまとめる。

1. 先ず、女性教員比率は 29.8% で、国立大学全体よりかなり高いことは評価できるが、これを教授・准教授というポストの別で見ると、教授レベルでの女性の比率はかなり下がる。今後、教授への昇進の過程においてこの比率の改善が望まれる。特に女子学生が将来を展望する際に、タイプの異なるロールモデルを女性教員が示すことにも意義があると思う。

2. 学生の多様性に関して、入学者選抜において基礎学力とともに、「さまざまな背景や考え方を持つ入学者が相互に刺激し合いながら学問を探究していける環境をつくり出す」ために受験機会の複数化がはかられたことは、重要な取り組みとして評価に値する。しかし、その成果についての報告は不十分で、入試改革によって、たとえば教育現場がどう活性化したか、卒業後の進路の選択肢がどのように広がったかなど、どういう入り口から入学したかによって、出口においてどんな違いが出るかについての追跡調査などを行なうことが期待される。

3. 大学コミュニティの多様性という点から、外国人留学生に関するデータはあまり示されていないが、日本人学生との日常的な接触の場としての授業やサークル活動、学生寮などでの自然な交流が積極的に進められることが望ましい。千葉大生の海外留学に関しても報告書ではあまり触れられていないが、千葉大学留学生課のHPにより、全学レベルで学生交流協定を結んでいる大学が世界 32 か国に 200 校以上もあることを知った。さらに、協定派遣報告書で学生たちの生き生きとした留学体験談に触れて

感銘を受けた。たとえばスペイン、ロシアの大学に留学した文学部の学生は留学以前から千葉大で当該の外国語を相当勉強したとあり、文学部の外国語教育が英語以外の言語についても学生の海外留学を後押ししていることがわかった。学生たちは留学の成果として、「自分で考え、調べ、行動すること」の醍醐味を学び、これからも「多角的な視点と考えをもつ人へ成長したい」といった、文学部の教育理念を見事に体現しているという印象をもった。語学教育における発信型コミュニケーション能力の重視という方針やさまざまなカリキュラム上の地道な努力が、学生の留学によってさらに充実した形で実を結んでいると評価できよう。

このような国際経験のチャンスが広い学生層に開かれているかという点については検討の余地がある。というのは、卒業時のアンケート満足度調査のなかで、「国際交流の機会をもった」という項目に対して、26%が否定的な回答を示しているからである。留学生との交流や海外留学に関して、より多くの学生に参加を促す工夫が必要ではないかと思われる。

最後に卒業時の学生の満足度調査の結果をもとに、文学部の教育自体の特徴をいま一度考えてみたい。「キャリアに役立つ知識やスキルを学んだ」に対して肯定的な答えが26%だったという数字はたしかに低い、必ずしも悲観する必要はない。文理横断的で普遍的な教養や論理的な思考力を身につけるといふ教育方針が就職で有利となるスキルに結びつくかは、長期的視点に立てば大きな問題ではないと思われる。「論理や証拠を重視し、それらに基づいて考える力」を身につけた、「専門以外の本を広く読んだ」と答えた学生がそれぞれ86.9%、60.8%もいたという事実こそ、人間性豊かな知的人材を多く養成している文学部教育の成果として評価すべきだと考える。

最後にひとつ気になるのは、文学部の強みであるはずの「外国語でコミュニケーションする力」の項目についての満足度は39.1%で、「プレゼンテーションをする力」については56.5%で、いずれも全学比より低い。文学部の学生は自己を過小評価する傾向があるのかもしれないが、留学で自己表現力や発信力を大幅に伸ばす学生がいる一方で、そうでないと感じる学生がかなりいることについては、分析調査が必要である。外国語の運用能力やプレゼンテーションのスキルは、どの学部出身でも、どの職場においても現代社会では基本的に重要な能力であるので、この点は今後の課題といえる。

外部点検評価報告書4

一橋大学大学院社会科学部特任教授 町村敬志

千葉大学文学部は、学部規程の第1条の2で「社会や文化の根源を見据えることのできる人材を育成し、そのことをもって、社会に貢献できる教養豊かな人材を社会に

送り出すこと」を目的として掲げる。平成 28(2016)年度改組においては、この目的を引き継ぎつつ、「現代社会の課題解決に向けて統合的で柔軟な対応力をもつ人材を養成するために、専門性の深化と同時に、学際性、国際性、社会性の素養に基づく主体的問題解決能力を養うことを目指し」(自己点検評価・外部点検評価報告書、以下、報告書)で、カリキュラムを整備した。

報告書および懇談会での聞き取り(3月24日)によれば、評価期間を通じて、当該目的を実現する方向での教育研究上の基本組織の改組、その成果と課題を学部運営へとフィードバックする内部質保証の手続きの具体化は、概ねねらい通りに進行している。また報告書も適切なものと判断できる。

以下の点はとくに優れていると考えられる。

- ・「分析項目 2-3-3 意見聴取が内部質保証を効果的にしている」に関し、年 2 回開催されている「学生・教員懇談会」について、学部ホームページで公開記録を閲覧したところ、改善に向けた多くの質問や意見が出され、それらに対し具体的な対応が示されていることを承知した。他大学にはあまりない手厚い制度が定例化され、かつ記録が公開されることで、質保証の持続的努力が緊張感をもって進められていることは高く評価できる。とくに、新型コロナのような突発的な出来事に際して、細部にわたるニーズへの対応が示されており、その利点が発揮されたことが記録からは読み取ることができる。
- ・「分析項目 6-3-1 教育課程の編成が、体系性を有していること」に関し、作成されたカリキュラム・ツリー、カリキュラムマップは詳細で、教育課程編成のねらいを体系的に示すことに成功している。限られた学内資源の有機的な活用に資するという点でも、これらは有益である。表記がやや細密なので、学生サイドからの「見え方」についてさらに工夫をすることで、その意義が増すものと思われる。

当初のねらいをさらに高い水準で実現していく上での課題も散見される。報告書および懇談会の結果を踏まえて、以下指摘しておきたい。

- ・「分析項目 6-8-3 卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること」に基づき、卒業生に対するアンケートが詳細な形で実施されている。その結果の中で、「14 少人数課題探求型の授業」への評価が全学の数値よりも高いことは、文学部の特性を生かしたすぐれた点として評価できる。自己評価では、「10. 論理や証拠を重視し、それらに基づいて考える力」の修得については相対的に満足度が高い(十分身についた 30.4%、ある程度身についた 56.5%) のにたいし、「11. 想像が豊かで、新しいアイデアや発想を生み出す力」はやや低い値(同じく 13.0%、30.4%)にとどまっている。この点については、少人数教育を生かした工夫の余地があるものと思われる。なおアンケート回収率が新型コロナのせいもあってかやや低い点は改善の余地がある。

- ・懇談会での聞き取りを通じ、文学部・人文科学研究院教員の特徴として、さまざまな成果を控えめに表現する傾向があることが紹介された。研究者・知識人としての謙虚さ、誠実さの表れとして大いに共感はするが、同時に、人文・社会科学分野の魅力や成果を積極的に発信していくことが、社会還元としても、また当該分野を持続可能とするためにも大いに求められている。自己点検評価の報告書の構成および記載においても、資料に基づいたそうしたアピールがさらにもよいてもよいものと感じた。

グローバルとローカルを架橋しつつ独自の展開を遂げる人文科学分野の貴重な拠点——とくに首都圏における——として、引き続き、魅力的なモデルを提示し続けていかれることを願っております。

外部点検評価報告書 5

公益財団法人イオン環境財団
専務理事兼事務局長 山本 百合子

総括として、学位授与に向けてのカリキュラムが体系的に組織され、順次的な履修が保証されていること、改善に向けた PDCA サイクルが機能している点を含め、高く評価される。

特に、近年のコロナ感染症発生後から、現在の拡大、高止まりの状況に伴い、ハイブリッド型への転換、代替教育プランの提案、そしてポストコロナ、ウイズコロナとして、スピーディな授業再開のための感染対策強化、運用体制の見直し等がされており、学生が安心して学べる環境構築に取り組まれている点も評価される。

大学にとってお客さまは、学生であり、顧客の生の声を収集するためのツールのひとつとして「卒業アンケート」が設置されているが、回収率が低下している傾向に対する対策が必要であると感じた。アンケートの統計数値は、教育効果測定や現状把握のため、重要な判断材料であるのが理由であり、アンケート回収率を上げ、多くの学生の声を拾い活かして頂きたい。

さて、教育に関する試みとしての「地域社会との繋がり」に特に注目した。「社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること」、あるいは特色ある教育の試みを紹介した「地域社会・国際社会の現状を理解し、問題を解決する能力を培う取組を実施していること」の中での、卒業生をゲスト講師として招聘している「現代社会で働くこと」、あるいは、海外協定校との共同授業（「国際インターンシップ」、「国際フィールドワーク」）や、教育における地域連携活動（「地域インターンシップ」、「地域フィールドワーク」）等をはじめ、多様な地域社会との連携につ

いて、国境を越えたフィールドワークの実施をはじめ適正な方向性や課題に取り組まれていることも高く評価される。

同時に、文学部・人文科学研究院のみの課題ではない点であるが、地域の多様なステークホルダーを巻き込み、各地域における共通課題に積極的に取り組んでいるプロジェクトが、学部ごとに展開され、該当学部内の学生が参画するような枠組みであると見受けられた。大学全体として、地域との連携情報が共有化されていないケースがある。一例を挙げると、当財団も参画している「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」では、大学の拠点地である西千葉を中心とした子どもたちをサポートするプロジェクトであるが、本件は、教育学部の事業展開となっており、他学部との情報共有や交流がされていない。学部ごとではなく、大学全体の組織が横断的であり、学部の垣根を越えた柔軟なカリキュラムが多くなることを希望する。

現在、産官学連携が社会変革(トランスフォーメーション)のための、重要な視点と位置づけられており、大学と地域社会が積極的に交流し、新たなコミュニティを創造し、このコミュニティから、新たな価値を創出することも求められている。

最後に、将来、高齢者、社会人、子育て中の方、子どもたちと多世代の大勢の皆さまが、大学で学ぶ日が訪れることが予測される。今後も、地域コミュニティの中心である大学であり、地域に拓かれた、地域と共に歩む、地域社会と繋ぐ使命を担った千葉大学であり続けることを期待している。

千葉大学文学部・人文科学研究院
自己点検評価・外部点検評価報告書
2014年4月～2020年3月

2022年9月

発行 千葉大学文学部・人文科学研究院
自己点検評価委員会
印刷 勝美印刷株式会社



リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

